

仮面絶唱シンフォギアR

翔斬

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

那奈「あれから数年、激しい戦いは終わり平和に過ごしていたら謎の敵が現れた。私達、家族で闇を撃つ！」

目次

- 第1話思い出を浸るそして新たな敵が現れる！ | 1
- 第2話敵の目的？そして新たな力！ | 9
- 第3話力の暴走そして目覚める王の力！ | 20
- 第4話ジオウの力そしてアーマータイム | 29
- 第5話失った変身そして謎の女性 | 39
- 第6話作られたオーブそして集結する娘と息子達 | 52
- 第7話闇のシンフォギア装者VS祥平達！そして新たな覚醒！ | 60
- 第8話打ち勝て！エボルトの最後！ | 77
- 第9話天才と筋肉馬鹿そして取り戻す力 | 87
- 第10話謎の事件そしてコピーされた悪の零達！ | 97
- 第11話幻想郷から来た祥平そして集まる戦士達！ | 105
- 第12話可能性は無限大！そして現れたバーコードライダー | 119
- 第13話キーラの最後！そして開いた闇 | 127

の暴走！	139	タッグ!?	216
第14話闇の世界の母体!?そして最悪な敵の復活!	151	最終回 いつもの日常そしてさようなら	236
第15話止まらない崩壊!?敵の総攻撃!	158		
第16話VSダーズ!そして最後の決戦!	166		
第17話那奈を狙う者	181		
第18話古代の仮面ライダーその名はクウガそして狙われる破壊兵器	189		
第19話祥平を助ける者達の集結そして運命	198		
第20話とんでもない戦いそして意外な			

第1話思い出を浸るそして新たな敵が現れる！

皆、久し振りだな！高田 祥平だ！俺は今、ゼロさんとパラド、アーナスと共に調べ事をしている。と言ってもセレナ達と一緒に住んでる場所で調べている。それがこのウオッチとクリスタルだ。

祥平「んー……やっぱり分からないな」

パラド「このウオッチはビルドの顔だよな？」

後ろからウオッチを持ち、それを見るパラド。こいつは俺から生まれたバグスターである。

祥平「うん、俺にも分からないんだ」

アーナス「分からないって？それにこのクリスタルもでしょ？これってゼロと同じウルトラマン？」

こっちはアーナス。俺と利奈姉さんから生まれたバグスターで今は一緒に仲間だ。

ゼロ『ああ、それはウルトラマンタロウとウルトラマンギンガって言うウルトラマンだ。』

そしてウルトラマンゼロさん。この人は俺の命の恩人でパートナーである。

祥平「ゼロさん以外にもウルトラマンっていたんですね」

ゼロ『ああ、まだ他にもいっぱいいるぜ?……あれから結構たったな』

祥平「ですね……」

そう、あれから数年たっていた。那奈と刀は翼に特訓されてるもんな。大丈夫だよな?あ、これ……

祥平「懐かしいな」

そこには小さい頃的那奈や刀、夏目、ユウそして他の娘達が写っている。あれから元気だよな。さてと少しだけ俺やセレナ達との思い出出ひたろうかなつと!休憩にしてそうするか!

祥平「パラド、アーナス、ゼロさんちよつと懐かしい物でもどう?」

アーナス「それってなに?」

祥平は何かの機械を持っている。

祥平「これは今までの戦いや思い出が詰まってるんだ。」

と言う訳で皆を集めた、と言っても兄さんや貴利斗兄さん達はいないけどね。

リビング

翼「ここに皆を呼ぶとは一体なにかあるのか?」

祥平「ん?あー、思い出を浸ろうかなと思つてさ、俺が那奈や刀それに夏目とユウに

も父さん達の戦いを参考に出来ると思っただけど、どう？」

マリア「何か、私はあまり見られたくはないわね、最初が……」

ああ、確かにそうかもしれないけど勿論！拒否権なんてありませんからね！

未来「私ってあんまり関わり最初なかつたよね？」

祥平「そんな事はないって！確かに関わりなかつたけどさ！未来や皆のお陰でもある

んだ！あの時に俺を受け入れてくれたじゃないか！」

未来「そう……だよね！うん！なんかごめんね！」

よし！気を取り直して！スタート！最初は此処だな、やつぱり

映像開始

祥平「何で俺がこんな目にあうんだよ！糞！うわ！つうく！やばいな囲まれたな

……」

ごめんなセレナ、俺、死ぬかもな、お前の顔をもう一度見たかったよ……もう駄目

だよな、俺なんか助からないよな、けど……諦めたくない！諦めたくないんだ！こん

な所で死んでたまるかよ！

その時、俺は思い出した、セレナに貰ったマイティアクションXガシャットを取り出

してドライバーも腰につけた、あの時セレナに教えて貰って良かった！行くぜ！

『マイティアクションX！』

そうこれが俺の初めての变身だったなあ、懐かしいなけどこの後が大変だったんだよなー

エグゼイド「ん？あぶな！何をするんだよ！」

翼「何故貴様が生きています！ゲーム！」

この後、翼に攻撃をされて誤解を解くのも大変だった、いやまじで右肩が死ぬかと思っただわ。まあそれで未来も助けられたんだもんな。

映像終了

祥平「これが父さんと翼との出会いだ」

刀「お母様って、何故見た目で判断を」

翼「ま！待ってくれ！確かにその時の事はある事で水に流した！」

翼さーん！顔を赤くしてそれを言わないで欲しかったよ！確かに皆と付き合っただけ！レナの次だったのは分かる！だけど！このタイミングでは止めて！

奏「つーばーさー！それっていつだ？」

翼「そ！それは！……秘密でお願い」

マリア「それは無理ね♪」

ああ、あの笑顔のマリアは止められないからこのまま再開だ！

映像開始

んーと、ここら辺は確か……あー、リディアン編入だったなあ、優奈との再開でもあったけど

エグゼイド「いきなり何だよ！」

『ガシヤコンブレイカー！』

ブレイブ「エグゼイド！貴様を殺す！はあ！」

『ガシヤコンソード！』

この激突で俺は一回自分の意思ではなくて優奈を攻撃したな、そうアーナスのガシヤットギアデュアルZのフランドール・スカーレットの力を使って暴走だったよな？あれは？

祥平「……変身♪」

『デュアルガシヤット！ガチャーン！デュアルアップ！触れれば破壊！フランドール・スカーレット！きゅつとしてドカーン！』

これを名付けるならエグゼイドフランクゲーマーレベル50だな、まあ、あの後に弦十朗さんにパンチされて正気には戻ったけどな。おっと！警報だ！この辺で思い出浸るのはストツプだ！

映像終了

祥平「皆行くぞ！」

那奈「お父さんは戦えるの?」

祥平「ゼロさんがいるから一応大丈夫だよ、それよりお前らのサポートに今回は入るからな?」

刀「お父様がサポートなら安心出来ます!」

それなら!行くか!

リディアン付近

那奈「確か反応はここら辺だよな?」

刀「ですが: : 何もいない?」

どういう事だ?確かにここら辺で: : : : :!

祥平「セレナ!皆!どくんだ!ぐ!あああああああ!」

謎の電撃でお父さんが謎のシールドに囲まれた!

???「この男は我々の計画に必要な存在だ、貰うぞ」

セレナ「そんな事はさせない!祥平を返して!」

成る程な、それほどの価値があるのだな?なら尚更だ!

???「俺を倒せば、返してやろう」

そう言う男はエボルドライバーを取り出した!

那奈「それってエボルドライバー!」

『コブラ！ライダーシステム！エボリューション！アークレディ？「変……身♪」コブラ！コブラ！エボルコブラ！ふっははははは！』

???は仮面ライダーエボルになり攻撃を仕掛けた！

那奈「変身！」

『ラビットタンクスパークリング！イエイ！イエーイ！』

夏目「変身！」

『割れる！食われる！砕け散る！クロコダイルインローグ！オーラー！』

刀「変身！」

『カチドキアームズ！いざ出陣！エイエイオー!!』

3人は変身してエボルトに攻撃をするが

3人『きやーーーーー!!』

セレナ「那奈！」

翼「刀！」

奏「夏目！」

エボル「この程度か？なら「逃がさない！」ほお？」

セレナ「光の力をお借りします！」

『仮面ライダーオーブスペシウムゼペリオン！』

セレナはオーブスペシウムゼペリオンになりエボルトに蹴りを入れるが全くダメ
ジがなかった!

エボル「ほらよ!」

オーブ「くっ!強い:::」

オーブから変身が解けてしまい気絶をした!

マリア「セレナ!」

エボル「ではこれで」

エボルは祥平をそのまま連れて消えた。

See you end game

第2話敵の目的？そして新たな力！

一度、家に戻りセレナの手当てをしているが那奈は悩んでいた。

那奈「お父さんが計画に必要って言うてたけどあれって……兄さん」

ユウ「なんだ？」「なんであの時フォーゼにならなかつたの？」父さん達と思い出を浸る前に調整していたんだ、そしたら案の定だ、くそ！調整を早く終わらせればこんな事には！」

翼「落ち着きなさいユウ、気持ちは私達も同じだ。あの時にシンフォギアを身に纏えたのに何も出来なかつた……また助けられないのか！私達は！」

……父さん絶対に生きていてくれよ

???

祥平「……ん？此処は？……！手足が！」

エボル「お目覚めだな？」

こいつは！エボル！

祥平「何が目的だ！これを外せ！」

エボル「それは断る、今からこいつでお前の頭の中を全て読み込ませて貰うぜ？」

祥平「ふざけるな!おい!外せ!」

俺の頭に何かの装置のヘルメットを被らされた!何も見えねえ!

エボル「それじゃあ、開始だ」

祥平「あ!ぐ!あああああああ!」

なんだ!これ!頭が!ぐ!あああああああ!

高田家

ユウ「ん?これって確か父さんが調べてたクリスタルとビルドウォッチ?」

そしてクリスタル2つとビルドライドウォッチが飛んで行く!おい!待ってくれ!

リビング

調「エボルトが祥平を……何で連れてたのかな?」

未来「分からない、だけど何とかして助けないと!」

未来さん達もやっぱり不安もあるんだよね、お父さんをどうやって助ければ良いの?それにエボルトをどうやって倒す?私達3人でもやられてお母さんも1発で気絶させるなんてあいつは何者?あれ?あのビルドライドウォッチって?

未来「これって確か祥平が調べてた物だよ?」

未来がそれを手に取った瞬間!ジクウドライバーとジオウライドウォッチが現れた

!

マリア「これは？ドライバー？それにこれはビルドとは別の物？」

奏「ウオツチが未来を選んだのか？ん？翼、マリア。お前達の所にあるのって？なんだ？」

2人『え？』

2人の前にも宙に浮いていたのはウルトラマンタロウクリスタルとウルトラマンギンガクリスタルが浮いていた！それを2人は手に取りそしたらルーブジャイロとクリスタルを入れる入れ物が現れた。

マリア「これって？」

翼「ドライバーなのか？」

ユウ「やっぱり此処だったんだ」

そこにユウが部屋からリビングに戻って来ていた。

セレナ「どうして2人に？」

ユウ「分からないけど急に飛んで行ったら……！この爆発音は何だ！」

更に未来の所にビルドライドウオツチを手を持っていた！

未来「ねえこれって「小日向！行くぞ！」はい！」

ユウ以外は爆発音がした所に向かった。

元リディアン付近

翼「ここは……元リディアンだった、そしてカディングルが使われた場所「貴様達がシンフォギア装者と仮面ライダーか?」貴様は何者だ!」

いきなり現れたフードを被った男が聖剣を持っていた。

奏「あれって何の聖物だ?」

???「貴様達は此処で死んで貰う!」

な!早い!こいつは一体!

奏「こんのお!」

奏はガングニールを身に纏ってアームドギアを構え攻撃をするが聖剣で防がれた!

奏「な!」

フードの男「この程度か!はああ!」

奏「うわぁー!」

聖剣をひと振りで奏を吹っ飛ばした!

翼「奏!」

マリア「皆!やるわよ!」

マリアはガングニールを身に纏って槍で攻撃を仕掛け、翼のアームドギア剣で男を刺したと思ったがフードだけであった!

翼「何処に!……刀!後ろだ!」

男の服は全身黒色のスーツを着てそのまま、娘達とセレナはライダーになったが刀の後ろにいつの間にかいた！

鎧武「え？く！」

ビルド「良くも！」

『マックスハザードオン！』

ハザードトリガーを起動させラビットタンクスパークリングフルボトルを取り出しハザードスパークリングフォームになる

ビルド「はあ！」

男「遅いぞ！」

聖剣でビルドを連続で切りそのまま蹴り飛ばす！

オーブ「那奈！これなら！スペリオン光輪！」

ノコギリの形のもので男にやるがそれを聖剣で叩き落とされ凄く早さでオーブに攻撃をするがオーブはハリケーンスラッシュになりそれをスラッガーランスで防ぐ！

男「何！」

オーブ「これでどうですか！トライデントスラッシュ！」

3回レバーを入れて連続で切るがそれを全て避けられた！

男「確かに強いが無駄だ！」

オーブ「く!」

攻撃を防ぐが後ろにおされてオーブはしゃがんでしまう。

男「やはり弱い……………終わりだ!エクスー!」

男は聖剣を上に向けて何かをやるうとしていたがオーブは動けなかった!

オーブ「力が入らない……………けど!こんな所で負けられない!」

男「これを避けても良いが!街は綺麗に吹っ飛ばす!カリバー!」

そしてそのまま下に振り落としレーザー砲見たいのをオーブを襲う。

オーブ「私は!……………負けられない!ビッグバンラスト!」

スラッガーランスを前に構えてエクスカリバーを止めるが力の差がありすぎてオー

ブはおされている!

オーブ「く!このままじゃ!「はああああ!」え……………」

男「な!エクスカリバーを書き消したのか!貴様はなんだ!」

目の前にいるのは謎の女性であった。

女「大丈夫?」

オーブ「それってシンフォギア!響さんのガングニールと同じ形状?」

金髪のポニーテールで眼鏡をかけている女性は響と同じガングニールを身に纏っているが色はオレンジの所がシアンブルーになっていた。そしてマフラーは首に巻くつて

いる（IF響と同じ風に巻いています。）

女「ちよつとね？それより休んでて♪……………こんな女の子をいじめて楽しいのかな？」

男「貴様は何者だと聞いているのだが？」

女「私は夏希。この人達があの伝説の仮面ライダーエグゼイドもとい高田祥平様の家族だからね！それを助けに来たんだよね！」

成程、こいつも目的は一緒らしいな……………なら！

夏希「いきなり剣を置いてどうしたの？」

男は正座をした。

男「まずは謝らせてくれ、俺は確かめたかったんだ」

セレナ「確かめたかったんだってどういう事？」

ユウキ「その前に俺はユウキ。あんた達の大切な人を助けるのにちよつと試したんだ、本当にその気持ちがあるなら……………その目は本気らしいな」

夏希「それは私も同じ、それに私はこの時代の人間だからね♪」

え？じゃあなんでガングニールがあるの？それに夏希さんは私達の事を知ってるの？

未来「あの、ユウキさんに質問なんですけれどこれって知ってますか？」

ユウキ「それって……ビルドライドウオッチ! って事はこの時代のジオウは君なのか!
!」

セレナ「ジオウ?」

那奈「それってなんですか?」

夏希「確かに」

ユウキ「これに変身する事には君には覚悟してくれ」

未来「覚悟?」

ユウキが言う覚悟とは一体そして祥平の方では……

祥平「あああああああああ! あ! う! ああああああああ!」

エボル「こいつは凄いぞ! こんなやばい存在もいるんだな、それにこいつの力は使え
そうだな」

まだ祥平の今までの戦闘データの記憶を見ていたエボルトは機械を止めた。

エボル「少し休ませてやるぜ?」

祥平「はあ……はあ……エボルト! これを外せ!」

俺はエボルにそう言うがやはり無理だと思っていた。

エボル「駄目だな♪お前はもう少し記憶を見させて貰うぜ? そんじやあ、後でな♪」
くそ! ……セレナ、皆……那奈。お前らは絶対に来るって信じてるからな。ん? 身体

から何か出て来た？

アーナス「やつと出られた、パレードはまだ無理そうね」

祥平「その声はアーナスか？」

アーナス「祥平！大丈夫！」

祥平「それより、これを外してくれるか？」

アーナス「分かった」

頭のヘルメットを何とか取り外して貰った。

祥平「アーナス助かったよ」

アーナス「後は手足のだけを取れば『ばれてるぜ？』！エボルト！」

なんで！分かったの！仕方ない！

アーナス「え？きやー！ー！」

アーナスは穴に落とされてしまった。

祥平「アーナス！……エボルト！アーナスは何処に！」

エボルト「あいつは元の場所に落としたのさ、お前らの仲間の所にな♪」

くそ！俺はまた記憶を読み込まれてしまう、セレナ、皆！俺は信じてるからな！ああ

ああああああ！

街中

ユウキ「風鳴翼、マリア・カデンツァヴァ・イヴ貴女達にその力を使える用にして欲しいんだ」

マリア「もしかしてこれの事を知ってるの?」

ユウキ「ああ、知ってる、だからだ!あいつを助けるには仮面ライダーの力も必要になる」

翼とマリアはお互いに頷いたその時にアーナスが落ちて来た!

アーナス「いててて……:……此処は?……:……それより祥平!」

セレナ「アーナス!祥平を知ってるの!」

アーナスはさっきの出来事を話そうとしたがその穴から更に落ちて来たのは!

祥平「よ、皆、無事だったか?」

そこにはエボルトに捕まっていた祥平が現れたのだが

セレナ「祥平!エボルトから逃げて来れたの!」
「セレナ待つて」
「アーナス?」

アーナス「あんた、祥平じゃないでしょ?」

祥平「何を言ってるんだよ、アーナス。俺は俺だぞ?」

確かに祥平ののだがアーナスには分かってた。

アーナス「じゃあ!なんで!そんなドライバーを着けてるの!エボルト!」

マリア「確かにあれはエボルトのベルト……:……まさか!」

誰もが信じられなかった、いや、信じたくなかった事が起きてしまった。

祥平「まあ、良いか、それじゃあ！」

『コブラ！ライダーシステム！エボリユーシヨン！アユーレデイ？』

祥平「変身♪」

『エボルコブラ！ふははははは！』

エボル「さあ！始めようか！」

その瞬間皆の怒りが込み上げていた！

那奈「エボルトーーーーー！」

See you end game

第3話力の暴走そして目覚める王の力!

那奈「エボルト……!」

『ラビットタンクスパークリング! イエイ! イエイ!』

スパークリングフォームになり、ドリルクラッシュャーを手に持ちエボルトに攻撃をするが…

ビルド「な!」

防がれていてた!

エボルト「その程度か? はあ!」

ドリルクラッシュャーを弾き飛ばしてそのままビルドを蹴り飛ばした。

ビルド「あう……!」

セレナ「那奈! 許さない! 変身!」

『仮面ライダーオーブ! サンダーブレスター!』

セレナはオーブサンダーブレスターになるのだがマリアが止めようとする!

マリア「セレナ! 貴女はまだ! それを使えないでしょ! 変身を解除しなさい!」

オーブ「邪魔をするな……!」

その勢いでマリアに攻撃をするオーブ！

マリア「くっっ！」

槍で防御をするが流石に力が違い過ぎてその反動で後ろに飛ばされた！

マリア「やっぱり厄介ね、サンダーブレスターは……なら！」

この力なら！セレナを止められるかもしれない！

マリア「やってみるしかない！私色に染めなさい！ループ！」

ループジャイロを取り出して腰に着ける！そしてタロウクリスタルを出した。

マリア「クリスタルセレクト！」

『ウルトラマンタロウ！』

マリア「纏うは火！紅蓮の炎！」

腰に着けたループジャイロを3回引っ張りそして

『仮面ライダーロツソフレイム！』

マリアの姿は仮面ライダーロツソの姿に変わった！（姿はウルトラマンロツソになります、腰にループジャイロを取り付けたロツソですのでご了承下さい。）

エボル「ほお？」

翼「あの姿はそれに……あれはやはりドライバーなのか？なら！私色に染めろ！ループ！」

翼もループジャイロを腰に取り付けてクリスタルを手を持つ。

翼 「クリスタルセレクト!」

『ウルトラマンギンガ!』

翼 「纏うは水!紺碧の海!」

『仮面ライダーブルーアクア!』

翼も仮面ライダーブルーアクアになった!

エボル 「面白くなりそう!何だお前は?」

エボルトが2人に驚いて面白そうだと思つて攻撃を仕掛けようとしたが

ユウキ 「悪いがそいつを返して貰うぞ!エボルト!お前は俺の世界に戻るべき存在だ

!

エボル 「貴様は!悪いが身体の相性が良いからな♪こいつはまだ借りるつもりだぜ♪

「エボルトーーーー!」 おっと♪暴走してるなあれは…が!何だ!身体が!」

BGM(ウルトラマンゼロビヨンドのテーマを聞きながら読む事をお願いします)

いつまでも!人の身体を使えると思うなよ!俺は結構前にノイズバグスターや破壊兵器の力で色々あったからもう!簡単には!動かないぞ!

エボル 「こ!こいつ!何故だ!」

エボルトは身体を無理矢理、動かそうとするがそう簡単には扱える訳ではない!そう

！彼は！

オーブ「はああああああ！」

エボル「ぐあ！」

サンダーブレスターのパンチで吹っ飛ばされたエボルトは転がり更にビルドと鎧武が同時に

ビルド「これで！」

鎧武「決めます！」

2人はジャンプしそのままエボルトにキックを決めて変身解除をした！

祥平「が！あ！俺の！……身体から出ていけええええええええええ！」

エボルト「ぐあああああ！」

祥平の身体から液体から人の形になりエボルトは追い出せた。だがサンダーブレスターになっているセレナは暴走は止まらない！

オーブ「ああああああああ！」

祥平「セレナ！が！」

やべえ、これ死ぬぞ？

夏希「でやあー！」

なんだ今の娘は？それよりセレナのサンダーブレスターの変身を解かないと！

夏希「セレナさんは無事でーす！」

祥平「良かった……………」高田祥平！貴様は俺の物だああ！」悪いが！お前の物じゃない！セレナや皆のだ！」

それなら私だって守らないと！

エボルト「おのれ……………」だがな♪準備は始まってんだよ！変身！」

『エボルコブラー…ふはははははは！』

エボルになるならそんなの無駄に決まってるんだよ！

鎧武「お父様は休んで下さい」

祥平「けど！」「お父さんに酷い事をした、あいつは倒さないと私は許せない！」那奈

……………刀……………夏目……………任せる！」

3人はエボルトの前に立つがブルとロツソも後ろから来ていた。

ロツソ「娘達が戦うなら」

ブル「私達が黙ってる訳がないだろ？行くぞ！」

5人で攻撃をするが

エボル「こい！返り討ちにしてやるよ！」

エボルは鎧武を蹴り飛ばしてローグを投げ飛ばす！

奏「夏目！」

奏は娘が吹っ飛ぶのを受け止めるがそのまま壁に激突する！

ブル「刀！夏目！奏！良くも！」

ブルはルーブスラッガーを手に持ちエボルを切ろうとするのだが当たらなかつた！

エボル「遅いぞ？はあ！」

ブル「が！」

エボルがブルをパンチして吹っ飛ばした！

祥平「くそ！皆………やっぱり俺も！」

俺はエグゼイドゼロになろうとしたがまだ身体がまともに！

エボル「無駄だぜ？貴様達じゃ勝てないぞ！」

エボルは衝撃波で皆を吹き飛ばす！

ロツソ「く！つ！強い！だが！」

ブル「このまま負ける訳には！」

ビルド「いかない！『マックスハザードオン！』これで！」

フルフルラビットタンクフルボトルを取り出した、ビルドは降り始めた。

『ラビット！』

そのままドライバーに取り付けレバー回した。

『紅のスピーデージャンパー！ラビットラビット！ヤベー！ハエー！』

ビルドはラビットトラビットフォームになった!

祥平「あれは!」「祥平?」「セレナ!」

俺は何とかセレナの所に向かうが倒れる。

ビルド「お父さん!」

鎧武「お父様!」

ローグ「私達でエボルトを止めるわよ!」

鎧武は無双セイバーを使って立ち上がる鎧武はエグゼイドロックシードを取り出した。

鎧武「ですね!」

『エグゼイドアームズ!患者の運命を変えろ!』

ガシャコンプレイカーを持ちエボルに攻撃をするが抑えられる。

エボル「そんなんじや勝てないぞ?」

ビルド「はあ!」

ビルドはフルボトルバスターブレイドモードでエボルに攻撃をするが避けられた!

エボル「こんな物か?お前達のライダーシステムって言う奴は!」

ビルド「うわあー!」

祥平「みんな!なく!なくそおお!」

俺はまだ頭がぐちゃぐちゃして来るが那奈達のピンチなのに！くそ！俺は何も出来ないのかよ！セレナの所にすら行くのにこんな！

エボル「さてと……祥平、お前はまた連れて行くぞ」

祥平「ふざけるな！俺は！もう！」

エボルは俺を掴もうとしたが未来が俺を抱き締めた勢いで俺は吹っ飛ぶ。

エボル「ほお？変身も出来ないお前さんが何が出来るんだ？」

未来「確かに私は皆、見たいに仮面ライダーの力はないけど！私は覚悟してる！」

エボル「死ぬ覚悟か？」

未来「違う！」

そう言った未来はビルドライブウォッチじゃないドライブウォッチを取り出した！

祥平「未来……それって！「私は祥平や響に皆に助けられた、けど！………今度は私の

番！」……俺は未来を信じるぞ！」

そして未来はドライバーを腰に巻き付けてウォッチを回して音声になった。

『ジオウ……』

祥平「ジオウ？」

そしてジオウライドウォッチをベルトの右に取り付け、真ん中のスイッチを押しそし

て

未来「変身!」

『ライダータイム…カメンライダー! ジオウ…』

未来の姿が仮面ライダーの姿に変わった!

エボル「何だそれは?」

???「私はジオウ…仮面ライダージオウ!」

See you end game

第4話 ジオウの力そしてアーマータイム

ジオウ「ジオウ…仮面ライダージオウ！」

祥平「未来……………」

エボル「そんなのは無意味だろうな！」

エボルがジオウに攻撃を仕掛けたが

ジオウ「……………遅い！」

エボル「が！」

一瞬だった！エボルの攻撃を避けてパンチをしエボルを吹っ飛ばした！

エボル「ぐ！この！小娘が！」

怒りにレバーを回す！不味い！

『レディゴー！エボルテックアタック！チャオー！』

祥平「未来！避ける！」

ジオウ「大丈夫だよ」

未来……………！やっぱり！黙ってられるかよ！

ビルド「お父さん！無理をしないで！」

エボル「これでも喰らえ！」

エボルのキックはジオウに向かうが俺はそんなのやらせるか！

祥平「うおおおおお！」

『エグゼイドゼロモード！』

俺はエグゼイドゼロになるが身体に電撃が走り俺は倒れ掛け変身が解けてしまった

！

ジオウ「祥平！「余所見をするところなるぜ？」うぐ！」

エボルはジオウを後ろから蹴り飛ばす！後からビルドラピットラピットフォームのスピードでエボルを攻撃する！

ビルド「エボルト！私は許さない！お父さんと私達！家族の絆をなめるなあああ！」

エボル「な！なんだこの力は！ぐあ！」

ビルドのパンチを防いだつもりだったエボルは吹っ飛ぶ！

エボル「人間ごときが！」

ジオウ「那奈ちゃん……一緒に！」

ビルド「はい！未来さん！」

ブル「私達を忘れないで貰おうか！」

ロツソ「皆でやるわよ！」

鎧武「はい！」

ローグ「お母さんも行ける！」

奏「当たり前だ！」

皆！それじゃあ！これで決めよう！

ロツソ「翼！」

ブル「ああ！」

2人のルーブスラッガーの攻撃でエボルは倒れて立ち上がろうとするがローグと鎧武と奏の同時攻撃が迫る！

奏「夏目！」

ローグ「分かっている！あわせるよ！」

鎧武「これで！」

エボル「ぐあ！」

な！何故急にこんなにハザードレベルが！やはり人間は危険だ！

ジオウ「逃がさない！」

ビルド「このまま倒す！」

エボル「ふざけるなあ！俺が人間にやられるなんて洒落にならないな！」

皆……俺はこんなんに役にたてないのかよ！くそ！どうしたら！『ならお前にこれを

預ける』誰!? 『俺は万丈龍我だ。お前のゼロって奴から連絡が入ったんだ、アイコンは戦兎がやってくれた!』ん? これか! 『ラブ&ピースの為に戦え! お前の家族と共に!』祥平 「万丈さん……ありがとうございます! ゼロさん! 行きますよ!」

ゼロ 「ああ!」

俺はエグゼイドゼロになりそして新たなアイコンが追加されていた。使わせて貰います!

エグゼイドゼロ 「こいつだな……頼むぜ!」

エグゼロスマホのクローズのアイコンとエグゼイドのアイコンを選ぶ!

『クローズモード! マイティアップバーニング! ゲットエグゼイドクローズ! イエーイ!』

エグゼイドの装甲にクローズのアーマーが手足と身体と頭につけられた!

エグゼイドクローズ 「……」

エボル 「それは! 万丈の力!」

ジオウ 「祥平……」

ビルド 「お父さんのあれは?」

皆は驚いているがエボルは攻撃を仕掛けて来る!

エグゼイドクローズ 「ふ! は!」

エボル「なんだ！このハザードレベルは！」

この溢れる力って？けど今はこいつを何とかしないと！

ジオウ「ハザードレベル？」

ビルド「嘘！お父さんにハザードレベルあったの！」

調「それなら！」

『ウエイクアップ！クローズシユルシャガナ！アユーレディ？』

調「はあ！」

『ウエイクアップシンフォギア！ゲットクローズシユルシャガナ！イエー！』

調のシユルシャガナの姿だがクローズのアーマーが手足、身体に取り付けられていた。

調「今の私は負ける気はしない！」

ビルド「調さんがクローズの力をシンフォギアにつて……え？どうなつて？」

ビルドの姿から那奈に戻りかけているがビルドに直ぐに戻る。

エグゼイドクローズ「今のは？はあ！」

ビートクローザーでエボルを攻撃をし吹っ飛ばした。

エボル「流石に分が悪そうだな、じゃあな♪」

エボルは姿を消し、皆は変身を解除した。

祥平「……………皆、ありがとう。」

那奈「お父さん、無事で良かった」

祥平「ああ、それより大丈夫か？ 那奈」

那奈「うん」

さっきののは一体何だったんだ？ それに未来のあの仮面ライダーは一体？……………一旦戻るか。その時、俺にはまだこの時、未来が変身するジオウが大変な者だとはこの時は思っていないかった。

自宅

祥平「……………「祥平」ん？ どうした未来さん」

未来「ちよつとお願いがあるの」

祥平「お願い？」

俺はトレーニングルームに未来と2人きりで始める。

祥平「本当にやるんだな？」

未来「うん」

祥平「分かった……………」

ゼロ『祥平……………今回は？』

祥平「俺、1人で頑張りますよ」

俺はゲーマドライバーを付けてガシャットを取り出した。

祥平「…………ユウキ、もう一度だけ力を借りるぞ」

『マイティアクションX！マザーズロザリオユウキ！』

祥平「大変身！」

『ガシャット！ガチャーン！レベルアップ！マイティアクションX！アガツチャ！受け継がれるスーキル！マザーズロザリオユウキ！ガシャコンブレイカー！』

エグゼイドの隣にユウキの幻影が現れその幻影がエグゼイドと一つになる。姿はマイティクリエイターVRXの姿だがユウキのカラーに変わった！

未来「ユウキさんの久し振りに見たね」

『ジクウドライバー！』

『ジオウ！』

ライドウオッチをベルトに付けて真ん中のボタンを押して

未来「変身！」

ドライバーを回転をした！

『ライダータイム！仮面ライダー！ジオウ！』

未来は仮面ライダージオウに変身し武器を取り出した。

『ジカンギレード！ケン！』

ジオウ「はああ！」

エグゼイド「は！」

2人の剣がぶつかりあうがエグゼイドの動きはいつもと違って鈍かった！

エグゼイド「え？何で力が……「余所見はあぶないよ！」く！はあ！」

ガシャコンブレイカーで防ぐが何ださつきから！

ジオウ「はあ！」

エグゼイド「ぐあ！」

何ださつきから？力が安定しない？どうなってる？

ジオウ「祥平、さつきから様子がおかしいよ！大丈夫なの！」

那奈の時もだ、何か力が！………う！

エグゼイド「力が安定しない？」

『ガチョーン！ガツシューーン！』

俺は変身を解除した。

ジオウ「一体何が起きてるの！」

分からないだけこれは嫌な予感しかしない。

祥平「ん？何だこの反応は？」

エグゼロススマホで何かの反応がして映像を見たら何だこいつ！

ジオウ「行こう！」

祥平「だな！」

俺は那奈に声をかけて未来と3人で向かった。

海の砂場

???「うがぁ…」

祥平「何だよあれ！」

そこにいたのはビルドに似ていた怪人が人を襲っていた！

未来「ビルドに似てるけど？」

那奈「あんなのビルドじゃありません！変身！」

『ラビットタンクスパークリング！イエイ！イエーイ！』

祥平「だな、人を襲うなんて許せないな！変身！」

『レベルアップ！マイティアクションX！アガツチャ！受け継がれるスーキールー！マ

ザースロザリオウキー！』

未来「私達で止めよう！変身！」

『ライダータイム！仮面ライダー！ジオウ！』

3人は変身を完了するが未来の持っていたビルドライドウォッチが光っていた！

ジオウ「これって？」

エグゼイド「ビルドライドウオッチが光ってる……」

ビルド「やっぱ私も力が安定しない？」

どうなってるんだ？ それにあの怪人を倒さないと！

エグゼイド「はああ！ な！ ぐは！」

『ガツシューーン！』

ガシャコンブレイカーを弾かれた俺は謎の怪人にやられ変身が解けてしまった。

ジオウ「祥平！……やるしかない！」

『……ビルド！』

ビルドライドウオッチをジクウドライバーの左側に付け、回転をさせた。

『ライダータイム！ 仮面ライダー！ ジオウ！ アーマータイム！ ベストマッチ！ ビールードー！』

ジオウの上からビルドのアーマーを取り付けられた瞬間、ビルドから変身が解けてしまった那奈

那奈「変身が！ 何で！」

祥平「あ！ ぐ！……あれはビルドなのか？ ぐ！」

See you end game

第5話失った変身そして謎の女性

祥平「あれはビルドなのか？」

那奈「お父さん大丈夫？」

俺是那奈の肩を借りて起き上がるが何で那奈からビルドが強制的に変身が解けたんだ：

ジオウ「はああ！」

右手のドリルでビルドの怪人に攻撃をしたらダメージはあった！

祥平「攻撃が効いてるのか！」

那奈「未来さんまだ立ち上がります！」

那奈ちゃんは教えてくれたけど私はこの怪人を倒せば良いのかな？

アナザービルド「ふあー！」

兎の力でジャンプしてその勢いでジオウをパンチする。

ジオウ「きや！」

ジオウから変身が解けた！不味い未来はビルドが長く使えないのか？てか考えてる場合じゃない！

祥平「やらせるかよ！変身！」

『ガシャット！ガチャーン！レベルアップ！マイティ・マイティアクションX！』

祥平は怪我があってもエグゼイドになりアナザービルドに攻撃をする！

エグゼイド「おら！な…ぐ！」

攻撃はやはり効いてなくてそのままカウンターパンチを喰らってしまっ！

那奈「お父さん！」

未来「祥平！」

駄目！お父さんを殺させない！だけど私からビルドが消えて変身が出来ない！どうすれば……『那奈！俺の力を使え！』ゼロさん！分かりました！

那奈「私に力を借ります！遊鬼さん！永流さん！」

2人『行くぜ！おう！』

那奈「お父さん！健介さん！」

2人『負けない！共に行くぜ！』

ネオクロスドライバーにカプセルを2本入れてジードライザーにウルトラゼロネオアイを取り付けそのままスキャンした！

『ネオクロスアップ！』

那奈「私達に限界はない！はあー！！」

『NEWジェネレーションズカプセル！Σ！Z！仮面ライダーゼロビブロスト！』

那奈の姿から仮面ライダーゼロビブロストに変わって2人の前に高速で動いてアナザービルドを吹っ飛ばした！

祥平「ゼロビブロスト！何でだ？ん？」

あれ？確かカプセルは閉まった筈だったけど何でだ？……………もしかして！

ゼロビブロスト「お父さんは未来をお願い！」

『ガンガンセイバー！ガシャコンプレイカー！』

中に浮かぶアイコンを選択して二刀流にしてアナザービルドに攻撃をするがやはりダメージはなかった！

アナザービルド「うあー！」

そのまま蹴り返されて態勢が少し崩れる。

ゼロビブロスト「く！」

こいつはビルドの攻撃なら行けるけど私はビルドが使えないし倒せないと考えるしかないの！

祥平「那奈……………やっぱりこいつの出番だな」

俺は赤と青のガシャットを取り出し起動した。

『仮面ライダービルド！』

祥平「変身！」

『ガシャット！ガチャーン！レベルアップ！ラビットタンク！ウサギと戦車！ベスト・ベストマッチ！イエー！』

その姿は他のレジェンドライダーと同じくビルドの姿になり右手にはドリルクラッシュャーを持っていた。

エグゼイド「ノーコンティニューの法則を見付けるぜ！はあ！」

俺はビルドに似た怪人にドリルクラッシュャーで攻撃をした。そしたらダメージが入った！

エグゼイド「これなら行ける！おらあ！」

アナザービルド「ぐあ…」

よしこれで止めを…！ぐ！

エグゼイド「ガシャットでも駄目なのか？ビルドガシャットの力が安定しない？く！」

アナザービルドの不意打ちでビルドガシャットが抜けてしまいレベル2に戻ってしまい防戦一方だった！

未来「祥平！早く何とかしないと！」

ゼロビブrost「未来さんは無茶しないで下さい！怪我がまだ！」

未来「それでも……私は守りたい……：那奈ちゃんや祥平、皆が今まで頑張ったのに私だけ見てるのは……辛いよ」

未来さん、そこまでして……お父さんのサポートしないと！

???「それでこそジオウです」

いつの間にか後ろから現れたのは女性だった。

ゼロビブロスト「誰？」

私はライオンソードを持って未来さんの前に立つ。

???「私はジオウの継承者を見に来たのです、魔王様はどうしたいのですか？」

女性は未来にそう聞く。

未来「魔王様ってどういう事なんですか？」

???「簡単に言うと最低、最悪の魔王様に未来ではなっているのですよ」

ゼロビブロスト「嘘だ！未来さんがそんなになる訳ない！」

私は胸ぐらを掴んで反論してる間お父さんが吹っ飛ばされて変身が解けた！

祥平「あいつ強い……」

ゼロビブロスト「お父さん大丈夫？今度は私が！はああ！」

ライオンソードを持ちながらアナザービルドに突っ込んで向かうゼロビブロストで

ある。

祥平「那奈…駄目だ！戻れ！」

あの怪人を倒す方法って他にないのかよ！てかその人誰だ？それより！

祥平「ぐ！動けねえ…」

もうどうすれば良いんだよ！まじでもう無理な気がするんだけど………いや諦める訳には行かないな！

未来「祥平……一緒にやろう」

祥平「………未来、無茶するなよ」

『マイティアクションX！』

未来「うん！」

『ジオウ……』

2人『変身！』

2人はジオウとエグゼイドになりゼロビブロストの助けに入る！

アナザービルド「うぐ！」

ゼロビブロスト「お父さん…未来さん…」

エグゼイド「ここで終わらせる！未来！ビルドライドウオッチを使ってくれ！こいつはビルドの攻撃なら効く筈だから！」

ジオウ「分かった！」

『ビルド…』

そしてベルトにライドウォッチを入れてビルドアーマーに変わりそのまま攻撃をする！

アナザービルド「俺がビルド……エグゼイドもベストマッチ……」

エグゼイドに抱き付こうとするがそのまま蹴りを入れて転ばせた。

エグゼイド「お前とはベストマッチはしねえよ！」

そんな事を言つて更に攻撃をしジオウはライドウォッチのスイッチを押してベルトを回転させる！

ジオウ「これで止めだよ！」

『ボルテックタイムブ레이크！』

そのままアナザービルドにライダーキックを決めそのままアナザービルドは爆発して中から人が出て来て驚いた！

エグゼイド「人……どうして中から人が……」

ゼロビブロスト「分からない」

『クロスアウト……』

ゼロビブロストから変身を解除した那奈は俺にカプセルとネオクロスドライバーを返そうとしたが俺は横に首を降った。

エグゼイド「那奈…暫くはお前が持つてろ、お前は今、ビルドに変身出来ない状態だ。お前ならそれを絶対使いこなせると信じてる」

那奈「お父さん……うん…分かった。」

さてとこれからどうするか？あのビルドに似た怪人は何なのか？それにエボルトは何故俺の記憶を読んだんだ？皆の戦闘データが必要なのか？

祥平「わかんねえ……」

刀「お父様！」

祥平「刀！」

刀と合流したがさつきから俺の嫌な予感がするのは何故？

那奈「！……お父さん！後ろ！」

祥平「が！エボ……ルト！」

俺の後ろから不意打ちで斬られ振り向いたらエボルトがいた！

エボルト「ふふふ……この時を！待っていたぞ！はああ！」

エボルトは謎の機械を俺の身体に埋め込みやがった！

祥平「が！何だよ！こ……れ……は……！ぐ！」

那奈「お父さんに何をしたの！」

刀「お父様から離れなさい！変身！」

『エグゼイドアームズ！患者の運命を変えろ！』

エグゼイドアームズになりエボルトにガシャコンブレイカーで攻撃するが抑えられ
た！

エボルト「悪いが俺の相手はお前じゃないぜ？」

鎧武「何を！きゃー！」

鎧武に謎の攻撃を喰らってしまい吹っ飛ばされて立ち上がるが振り向いたらそこには
黒いオーブがいた！

鎧武「え？」

那奈「黒いオーブ……」

そこに立っていたのは仮面ライダーオーブの黒い姿の戦士がいた。

オーブ？「……………」

祥平「ぐ！セレ…ナ…なのか！あぐ！あああああああああ！」

俺の中から何かが抜けてしまった。そのままエボルトに機械を取り外され投げ飛ば
されてしまった！

エボルト「これで全てが揃った♪「させないわよ！」何!?ぐー！」

祥平「マリア……」「大丈夫か？」翼…助かった」

ロツソとブルになっていた翼とマリアが俺を抱えてくれて立ち上がった。

ロツソ「それよりあの黒いオーブは一体何？」

祥平「分からない：「祥平！」セレナ！じゃあ、あのオーブは何者なんだ？」

黒いオーブはオーブカリバーを構えてロツソとブルに攻撃してきた！

ブル「こいつは我々が狙いか！」

ロツソ「ならやるわよ！セレナは祥平を！」

セレナ「うん！「させるか！」エボルト！光の力お借りします！」

『仮面ライダーオーブスペシウムゼペリオン！』

オーブスペシウムゼペリオンになったセレナはエボルトの攻撃から祥平を守ったが
流石に力の差はあった！

オーブ「祥平には指一本触れさせない！」

エボルト「なら♪変身：！」

『エボルトコブラー…ふははははは！』

エボルトはエボルトコブラフォームになりオーブに攻撃をする！

オーブ「スペリオンスライサー！」

右手でエネルギーをエボルトに放って撃つが全く効いてない！

オーブ「それなら！タロウさん！」

『ウルトラマンタロウ！はあー！』

オーブ「メビウスさん！」

『ウルトラマンメビウス！セア！』

オーブ「熱い奴お願ひします！」

『クロスアップ！仮面ライダーオーブ！バーンマイト！』

スペシウムゼペリオンからバーンマイトに変わった。

祥平「あれって初めて見る姿……」

セレナが使ったカードは俺も初めて見た物だ。一体いつ手に入れたんだ？

オーブ「紅に燃えます！」

エボル「そんなの無駄だぜ？」「はあ！」ぐお！」

炎のパンチでエボルを吹っ飛ばした！凄いパワーだ！

エボル「流石に分が悪いな」

そのままエボルは撤退した……それより黒いオーブだ！

ロツソ「こいつ……強い……翼……クリスタルチェンジよ！」

ブル「ああ！」

2人が光輝きクリスタルを互いに入れ替えた。

『仮面ライダーロツソアクア！仮面ライダーブルフレイム！』

祥平「俺も……ぐ！」

鎧武「お父様は休んで下さい…那奈！」

那奈「ごめん！今、ビルドの力がなくなつて変身出来ない…」

え？それつてどういう事なんですか？お父様も知つてそんな顔をしているのですか？

祥平「刀…俺も良く分からないんだがビルドと似た感じの怪人のせいなのか分からないが今は変身が出来ない状態なんだ」

鎧武「それなら私がおかします…」

ガシャコンブレイカーを持ち黒いオーブを攻撃しロツソとブルと共にやるがオーブカリバーのひとふりし3人を吹っ飛ばした！

祥平「翼！マリア！刀！」

俺はゲーマードライバーとガシャットを取り出してエグゼイドになろうとしたが

祥平「……ぐ！」

パラド「祥平！」

アーナス「どうしたの！」

俺の身体からパラドとアーナスが出て来たが俺は一気に吐き気をして倒れた…

ロツソ「祥平！どうしたのよ！」

く！このオーブ強い！けど祥平を何とかしないと！

那奈「お父さん！しっかりして！どうしたの！」

鎧武「那奈はお父様を病院に連れて行って下さい！」

那奈は祥平を運んで行こうとするが黒いオーブが邪魔をしようとしてきた！

ロツソ「く！やらせないわよ！翼！セレナ！刀！同時攻撃よ！」

頷くが黒いオーブはオーブカリバーを回転させた。

『オーブダークブリザカリバー！』

オーブ？「……」

皆の足が氷った！不味い！

未来「変身！」

『仮面ライダー……ジオウ……』

ブル「小日向が仮面ライダーに！」

ロツソ「どういう事よ！」

皆が驚いてる中さっきの女性が見ていた。

???'「始まります、ジオウの戦いが」

See you end game

第6話作られたオーブそして集結する娘と息子達

ジオウ「行きます！はあ！」

『ジカンギレード！ケン！』

黒いオーブに攻撃仕掛けるがオーブカリバーで防がれる！

ジオウ「このパワーは……闇？それなら！」

『ビルド……』

ロツソ「あれってビルドライドウオツチ!？」

ブル「使いこなせるのか？小日向は？」

2人は未来が初めて仮面ライダーになるのを2回目だがビルドライドウオツチは初めて使うのを見る。

『仮面ライダー……ジオウ……アーマータイム！ベストマッチ！ビルドロー！』

ジオウ「行くよ！」

右手のドリルで攻撃をするがオーブカリバーで防がれた！

オーブ？「………」

あんなにでかい剣なのに早い！

ジオウ「やつぱり強い…」

未来さん「人や危ない！」

鎧武「行きます！はあ！」

『バツコーン！』

ガシャコンブレイカーをハンマーモードにし黒いオーブに攻撃したがそれを防がれる！

鎧武「な！く！」

ジオウ「きゃ！」

黒いオーブはオーブカリバーひとふりで2人を吹っ飛ばした！

祥平「未来！刀！この野郎！」

『マイティアクションX！ガシャコンブレイカー！』

俺は怒りに任せてエグゼイドになり黒いオーブに攻撃を仕掛けるが…

エグゼイド「はあ！」

ガシャコンブレイカーソードモードで黒いオーブに攻撃するがまた防がれるのかよ

！かは！

ブル「祥平！」

ロツソ「良くもやったわね！」

『ウルトラマンゼロ!』

ルーブスラッガー二刀流を出したロツソはウルトラマンゼロクリスタルを入れて4回降って必殺技を出した。

ロツソ「ゼロツインスライサー!」

両方で上から下に下げる方法で黒いオーブに当てたがびくともしなかった!

ブル「あれを止めるのか!それなら此方もだ!」

『ウルトラセブン!』

ブルもルーブスラッガーを出して大剣を手に持ちウルトラセブンクリスタルを入れて4回降った。

ブル「ワイドスラッガーショット!」

黒いオーブに近づきそのまま上から斬りに入ったがそれを見破られそのまま黒いオーブの一撃を喰らってしまい変身が解けて黒いオーブはそのまま翼に止めをさすつもりだった!

エグゼイド「止めろおおおお!」

俺はもう駄目かと思ったその時…黒いオーブを一撃で吹っ飛ばした!

エグゼイド「え?今のは……」

???「たく、父さんはそこで諦めるちゃうのか?」

そこにいたのは白いジャケットを来た男は俺の息子、高田リヨウ。因みに優奈との息子だからな？

エグゼイド「リヨウ！お前戻つてたのか！」

リヨウ「まあね！俺だけじゃないよ！」

リヨウの後ろから謎のオーラが現れたのは数人の男女が現れた。

鎧武「貴方達は！」

那奈「皆！」

女性「お待たせ！」

ユウ「姉さん達遅いぜ？全く……やるぞ姉さん！兄さん達！あの黒いオーブを倒すのを！」

それぞれベルトを着けた！

夏目「行くよ！『デンジャー！』変身！」

『クロコダイル！割れる！食われる！砕け散る！クロコダイルインローグ！オーラ！』

???「そうだな！行くぜ！ベルトさん！」

クリム『OKだ！流星！スタートユアエンジン！』

流星「変身！」

『ドライブタイプスピード！』

優奈「流星……」

???「私達の家族を泣かせる奴は私が許さない……『ジョーカー!』変身……」

『ジョーカー!』

ジョーカー「さあ…貴方の罪を数えなさい……」

調「紗奈……」

???「たく母さんは人使い荒いんだからな……変身……」

『ドライブオンプリーズ……』

キャロル「うるさいぞ、レン」

レン「へいへい……変身!」

『フレイム…プリーズ…ヒーヒーヒーヒー……』

ウイザード「さあ…シヨウタイムだ……」

???「お母さんあれだよね?」

サンジェルマン「ええ、そうよ。由香。」

由香「うん、変身!」

『カメンライド…ディケイド!』

???「母さん達には指一本触れさせないよ!」

ロツソ「ユリ!」

ユリ「お母さんは休んでて……変身……」

『シグナルバイク！ライダー！マッハ！』

マッハ「追跡！撲滅！いつでも！マッハ！仮面ライダーマッハ！」

それぞれ娘と息子達は仮面ライダーに変身をした！そしてリヨウも仮面ライダーに変身した！

『カイガン……オレ！レッツゴー覚悟！ゴゴゴゴースト！』

エグゼイド「サンジェルマン！キヤロル！ありがとな！」

俺は2人に礼を言っつてセレナが聞いた。

オーブ「どういう事なの？」

エグゼイド「あの2人には娘達を頃合いだと思っつて迎えに行かせたんだ……それぞれの仮面ライダー達の先輩の力を受け継いでな」

そういう事だったんだね、だけどこの黒いオーブは強いけど大丈夫なの？

ドライブ「んじゃ！黒いオーブ！一走り付き合えよ！」

ドライブはそのまま走っつて行く！

エグゼイド「流星待て！そいつの強さは！」

何かハンドルだけど剣の物で攻撃したがやっぱりか！

ドライブ「まじで？ぐ！『流星！それならマックスフレアだ！』OK！」

『タイヤ交換！マックスフレア！』

炎のパンチをするがやっぱり硬いのかよ！なら！

『ドライブ！タイプワールド！タイヤ交換！フッキングレットカー！』

ドライブが赤から黒に変わった！

ウィザード「こつちもいるぜ！『バインド…プリーズ！』はあ！」

鎖で黒いオーブを押さえたのか!?

オーブ？「！……」

デイケイド「此方もこれで！」

『アタックライド…ブラスト！』

連射して黒いオーブを撃ちまくり追い討ちでマツハとゴーストの同時攻撃が入り黒いオーブは消えた。

エグゼイド「消えた……「父さん」お前達……」

マツハ「お父さん……」

それぞれライダーから変身を解除したが紗奈とユリは抱き付いて来た。

祥平「紗奈、ユリ、流星、リョウ、レン…元気だったか？」

流星「当たり前だよ」

レン「仮面ライダー達の先輩達に特訓つけられて死にかけた」

まあ、だよな。それにエボルトは本当に何が狙い何だ？あの黒いオーブは一体……
エボルトの基地

黒いオーブ「……」

黒いオーブは変身を解除した。仮面を着けた女性が変身をしていた。

エボルト「ご苦労様だ「これで良いの？」ああ、準備もこれで完璧だからな……さて
と、行くとするかなパラレルワールドのマリア・カデンツァ・イヴよ！」

仮面を着けた女性は何と別世界のマリアであった！そしてエボルトの狙いは何なの
か!?

See you end game

第7話闇のシンフォギア装者VS祥平達!そして新たな覚醒!

トレーニングルーム

祥平「さてと!お前達のカ!見せて貰うぜ!」

レン「父さん直々の特訓とはな……行くぜ!」

『フレイルムプリーズ……ヒーヒーヒー!コネクトプリーズ!』

『マイティアクシオンX!ガシヤコンプレイカー!』

2人はライダーになって互いに武器をぶつけあう!

エグゼイド「流石はレンだ……だが!がら空きだぞ!」

俺は蹴りを当てようとしたが後ろにジャンプして避けられた!

ウィザード「そんなの師匠に教わったからね!」

エグゼイド「流石だな……それなら」

『パツクンアドベンチャー!』

俺はパツクマンの絵が書いてあるガシヤットを入れた。

エグゼイド「大大大大変身!」

『ガシヤット！ガチャー！レベルアップ！マイティアクションX！アガツチャ！パク
パクパツクン！アドベンチャー！（ヨー！）パク！パク！パツクマン！』

ウイザード「え？何それ！そんなの始めて見るけど手加減はしないぜ！」

ウイザードガンガンガンモードにして撃とうとしたけど

エグゼイド「に…逃げろー！」

エグゼイドはウイザードから離れて全力で走って逃げた。

ウイザード「は？逃がさないぞ！」

そのままエグゼイドを追い掛ける中、皆はトレーニングルームの2人を見ていた。

紗奈「お父さんってあんな風に逃げて戦うの？」

調「紗奈…誤解しないでね？祥平のあのガシヤットは私も始めて見るから多分それだ

と思う」

皆はちよつと自分の父親があんな人？なのと思っていた中、紗奈は調に質問をした。

紗奈「お母さん…」

調「何？」

紗奈は私に真剣な顔をしていて聞いて来た。

紗奈「お父さんの強さの秘訣を教えて欲しいんだけど…」

那奈「どういう事？」

紗奈「私はお父さんがこの世界を救ったのは聞いてるけど……本当に強いのか?」

紗奈が言いたいのは今、特訓でふざけてる用に見えるけど、あれでも祥平は強く成長してて優しい人だから私は……好きになったんだと思う。

紗奈「お母さん?」

調「紗奈、それならやれば解るよ?」

お母さんがそう言うけど……他の仮面ライダーの人達は真面目なお父さんは……

レン「父さん強いや……紗奈の番だぞ?」

紗奈「うん……」

私は確かめたい!お父さんが何であんなガシャットを使って戦ってるの?ふざけて戦うなんておかしい!

エグゼイド「お?紗奈が相手か?」

紗奈「お父さん……行くよ『ジョーカー!』……変身!」

『ジョーカー!』

私は仮面ライダージョーカーに変身をしてパンチをしようとしたけど

エグゼイド「悪いがパツクンアドベンチャーはそう言うゲームだから……逃げる!」

！……絶対に逃がさない！あんなふざけてやるなんて！はあああ！

エグゼイド「うおっ！あぶな！」

俺は紗奈のパンチや蹴りをギリギリ避けてるけど普通にやばいな……それに何かこのガシヤットじや不満そうだな

エグゼイド「よっ！なら……」

『シヤカリキスポーツ！』

エグゼイド「大大変身！」

『マイティアクションX！アガツチャ！シヤカっ！リキっ！シヤカリキスポーツ！』

俺はスポーツアクションゲームになり右肩のタイヤを取り外し投げた！

ジョーカー「自転車……ふざけないでよ！そんなのに！うぐ！」

避けたと私は思っていたけど後ろからタイヤが来ていて当たった！

ジョーカー「何で！……「シヤカリキスポーツを甘く見ない方が良いぜ？」そんな物で！」

紗奈は何か怒っているのか？そんな覚えはないけど……おつと……

エグゼイド「紗奈？どうしたんだ？「何で！そんなふざけた物で！」よつと……まじでどうしたんだ？」

俺は紗奈のパンチを右手で掴んで聞くが蹴りを貰ってしまっ!

ジョーカー「仮面ライダーが自転車やあんな逃げて戦うなんておかしいよ!お父さんは何でそんなに強いのか!何でふざけてられるのか!」

紗奈が怒っているのはそう言う事か…確かにふざけてるが俺はそんな風には思っていないけど、紗奈にとってはふざけてる用に見えたんだな。

エグゼイド「紗奈……「今のは聞き捨てなりませんよ!紗奈!」刀……」

ジョーカー「刀お姉ちゃん……だけど!」「だけどじゃないわよ!」!……………」

あんな怒った刀は始めて見たがどうするんだ?ん?那奈?

那奈「紗奈……お父さんに謝って!」

ジョーカー「那奈お姉ちゃん……何で!」

那奈「お父さんはふざけていない!真面目に戦って来たんだよ!お母さんや私達を守ってくれた!自分を犠牲にしてまで守ってくれた!そんなお父さんは私は大好きなんだよ!」

那奈……お前そんな事を思ったのかよ……ありがとな

刀「紗奈には確かにふざけて見えるかもしれないけど!お父様は自分の事より他人を守る事をした!」

ジョーカー「だったら……私にそれを証明してよ!」

構えるって事は紗奈はまだやるのか？……………なら仕方ない

エグゼイド「分かった……………ただし今からしらないからな？」

俺はスポーツアクションゲーマーからレベルダウンさせた。

『ガチョーン！ガツシユーン！ガチャーン！レベルアップ！マイティジャンプ！マイティキック！マイティ・マイティアクションX！』

俺はアクションゲーマーレベル2になり構えた。

刀「お父様……………」

エグゼイド「心配するな、レベル2だけど、これでも真面目だって証明するんだよ。」

何でレベル2に？……………だけどそんなので私は負けないよ！は！

ジョーカー「え……………止められた！……………きゃ！」

私はパンチをしたけど簡単に止められて投げられた……………

エグゼイド「紗奈、俺は確かにお前から見たらあれはふざけてるかもしれないけど…俺は真面目だ。あれでも使える力だ。ただお前には俺がどれだけ真面目なのか今から

見せるよ……………はあ！」

く！さつきより強く感じる……………それに隙がないけど……………負けない！

ジョーカー「はあ！」

俺は紗奈の蹴りを防いでそのまま投げ飛ばした。

エグゼイド「紗奈一度特訓終了だ…「まだ!」紗奈……………仕方ない」

『マイティブラザーズXX!』

俺はダブルアクションゲーマーレベルXXになった。

エグゼイドL「アーナス…紗奈を任せて良いか?」

エグゼイドR「うん、解った…」

俺は一度アーナスに任せて後ろに下がった。

ジョーカー「ふざけないでよ!」

『ジョーカー!マキシマムドライブ!』

ジョーカー「ライダーキック!」

大きくジャンプした紗奈はエグゼイドRにライダーキックを決めたと思ったが吹っ飛ばされた。

エグゼイドR「ごめんね…『ガチョーン!キメワザ!』これで終わりに……………!…警報!」

その時翼がトレーニングルームに入って来て俺達を呼びに来た。

翼「皆!急いでくれ!」

エグゼイドL「翼があんなに慌ててるって事はまじで大変な事が起きたのか?」

俺達は急いでその場所に向かったがとんでもない光景だった。

レン「父さん……あれって母さん達だよな？」

祥平「どうなってんだよ……」

俺達、皆は驚いた理由はそこには街で暴れていた、セレナ達装者がいた。

セレナ「何で私達が！「来たね」貴女は私なの……」

白いアガートラームは黒色だった、イグナイトを使ってる訳ではないのはすぐに分かる。

祥平「だけど街で暴れる何て許せるかよ！やるぞ！皆！」

皆『変身！』

それぞれシンフォギア、仮面ライダーになり黒いセレナ達と戦う事になるが特に俺はやりにくかった。

エグゼイド「はあ！」

俺はパンチして黒いセレナを吹っ飛ばし追い詰めたと思っただが

セレナB「痛いよ……祥平……」

俺はガシャコンブレイカーで決めようとしたが……出来ない！

エグゼイド「……」「甘いね！」ぐあー！」

俺はアガートラームの短剣で斬られて転ばされた。

オーブ「祥平！」「がら空きだぜ！」くー！」

黒いクリスマスさんのガトリングで撃ちまくられて更に追い討ちで黒い響さんが拳でパンチをしてきた。

響B「何だ、その程度なの？」

オーブ「それなら！」

『仮面ライダーオーブ…ハリケーンズラッシュ！』

オーブスラッガーランスを持って攻撃をするけど防がれた！

響B「はあ！」

いきなり走って来た黒い響さんは私のお腹をパンチして私は倒れかけた！

オーブ「かは…はあ…はあ…はあ…」

『クロスアウト！』

オーブから変身解除してしまったセレナは気絶をしてしまった！

マリア「セレナ！「遅いデスね！」く！」

やはりガングニールではきついわね…：…なら！

マリア「クリスタル！セレクト！」

『仮面ライダーロツソ！フレイム！』

私はロツソになり黒い切歌に攻撃をする！

ロツソ「はあ！」

パンチで吹っ飛ばすけどやっぱ強いわね…

切歌B「ぐ！このぐらい！」

耐えられた！流石に参ったわね。ぐ！後ろから攻撃！

調B「1人だと思ったら間違いだよ」

黒い調まで！つくづくむかつくわね！だけど負けられない！

ロツソ「貴女達こそ！舐めないでよ！」

マリアと黒い切歌、調で戦うがレン達は物凄くやりにくかった。

ウィザード「母さんの偽者いないのは良かったけど！やっぱやりにくい！」

それぞれまだ残っていた母さん達の偽もんに苦戦をする俺達だ。

ドライブ「確かにな…ぐぐ！」

ハンドル剣で翼さんの剣で防ぐが強いぞ、これ！

翼B「やはりその程度だったな！」

その言葉に言われるがあまり否定は出来ないが…

ジョーカー「そんなのやって見ないと分からないでしょ！はあ！」

私は黒い翼さんにパンチをしたけど剣で見えない攻撃をされて倒れた。

エグゼイド「紗奈！「行かせないよ！」ぐ！君も同じセレナなら止めてくれ！」

俺は黒いセレナの短剣の刃先を思い切り掴み聞く。

セレナB「同じじゃない!私は憎しみで生まれた!セレナ・カデンツアヴナ・イヴ。光を求めては駄目なんだよ!」

く!やっぱり駄目だ!セレナに攻撃何て俺には!

セレナB「死になさい!」

しまった!

アーナス「はあ!」

私は黒いセレナに蹴りを入れて吹っ飛ばしたけど、何なの本当に!

エグゼイド「アーナス:」

アーナス「祥平は休んで:」

そう言ったアーナスはゲーマドライバーとガシャットギアデュアルZを取り出してルミナスになって攻撃を仕掛ける。

ルミナス「はあ!」

ガシャコンレーヴァティンで連続で斬っていくけど……流石にやりにくいね。

エグゼイド「何か方法はないのか?ぐ!」

俺は黒いセレナ達を見て何か方法がないのかを考えていたら後ろから攻撃を喰らうてしまう!

エグゼイド「黒いオーブ:それにエボルト!」

エボル「よお？どうだい俺からのプレゼントは？」

そう言ったエボルトの言葉に俺はあそこにいる黒いセレナ達を見た。

エグゼイド「エボルト！何が目的なんだ！」

俺はガシヤコンブレイカーソードモードでエボルトに攻撃をするが防がれた！

エボル「全てはお前の娘達を消す為だ！」

エグゼイド「ぐあー！」

那奈達を消す為だと？……許さねえ……許さねえ……絶対に許さねえぞ！

エグゼイド「そんな事させると思うと思ってるのか！はあ！」

エボルトに蹴りを入れるが止められ言い返された。

エボル「出来るんだよ！」

拳に不気味な黒色のオーラを纏った手でパンチをしてきたが俺は防ごうとしたがやられた。

エグゼイド「ぐあああああ！」

強力なパンチを俺は喰らい変身が解けてしまった！

祥平「あ！く……くっそ！」

不味い！お父様が！

鎧武「お父様！『カチドキ！』はっ！」

『カチドキアームズ! いざ! 出陣! えいえいおー!』

刀はカチドキアームズになり火縄橙DJ銃と無双セイバーを合体させて大剣にさせてエボルトに攻撃しようとするが黒いマリアが黒いオーブになった!

『仮面ライダーオーブダーク…』

オーブダーク「行かせないわよ?」

鎧武「そこを退いて下さい!」

大剣でオーブダークに攻撃するがオーブダークカリバーで防がれ蹴りを喰らい吹っ飛ばす。鎧武は変身が解けてしまった!

那奈「刀!」

那奈は刀の所に行こうとするがジオウビルドアーマーの未来が止めに入った。

ジオウ「那奈ちゃん! 待って! 今の貴女は変身出来ないんだよ!」

そんなの解ってる! だけど…私は………

那奈「例え! 仮面ライダーに変身出来なくても! 私は…仮面ライダービルド! 皆の姉さんなんだよ!」

私は未来さんの手を弾いてそのまま刀の所に走る!

ジオウ「那奈ちゃん……」後ろがから空きだぞ! ジオウ! く! 黒い翼さん…紗奈ちゃん! 手が相手してた筈!」

黒い翼のアームドギア剣を右手のドリルで防ぐ！

翼B「あんな奴は他の者に任せてある……そして私はあそこにいる、風鳴翼の憎しみの存在だ！」

どうして憎しみから生まれるの……あの響も憎しみからなの？く！……

翼B「終わりだ……小日向よ！な！」

……いつまでも翼Bが未来を刺さなかつたのは何故なのか目を疑った！

エボル「何！」

憎しみの存在だとしてもあいつにとつては陽だまりなんだ……ありがとな黒い響

！

響B「……………」

翼Bは後ろに下がり響Bに聞いた

翼B「立花……裏切るのか！「私は未来を見捨てる事なんて出来ない……」なら2人まとめて斬る！」

未来に攻撃しようとするが響Bが翼Bの前に立ち向かう！

響B「……」「響！」……大丈夫だよ、未来は早く行きなよ、私は翼さんを止める！」

ジオウ「……うん！」

私は黒い翼さんを黒い響に任せて那奈ちゃん達の所に向かう。やっぱり響は響で変

わらないんだね……ありがとう響……

エボル「何故だ!何故!憎しみの奴が相手を助けるんだ!」それが解らないならお前は俺達には勝てない!」……なら!このまま!」

俺だつて!諦めたくないんだよ!こんな所で……終わらせちゃ!駄目なんだ!

エボル「死ねえ!」

エネルギー弾を撃つてきて俺は立ち上がろうとしても力が入らなくて無理だった。

祥平「くそおがあ!動けよ!俺の身体!頼むから!」

もう駄目かと思つたが……那奈、刀!

刀「お父様!大丈夫ですか!」

祥平「刀……お前は大丈夫なのか?」今は何とか」そうか」

那奈「お父さんは休んで……」

そう言つた那奈と刀は立ち上がりエボルトの前に向いた。

エボル「ほう?死にに來たのか?」

刀「違います!貴方を倒す為に來ました!」

俺をか?ははははは!傑作だな?父親と同じく頭が悪いのかね?

那奈「これ以上誰かの悲しむ顔を見たくない!だからエボルト!貴方を倒す!」

エボル「だが!お前達はぼろぼろじゃないか?そんなんでは俺は倒せないぜ?」

確かに私達はぼろぼろだけど！そんな事で諦めない！

那奈「私は……私達は諦めない！どんなピンチでもそれを乗り越える！」

刀「私達はお父様！高田祥平の娘です！舐めないで下さい！」

2人とも……なら頼む！皆さん！2人に力をかけて下さい！

エボル「なら此処で父親と同じく死んで貰おうか！」

『レディーゴー！エボルテックアタック！チャーオー！』

エボルは走ってライダーキックを私達にしてくれるけどそんな時に光の壁が私達を守ってくれた。そしてそのまま新たなフルボトルとロックシードが生まれた！

那奈「これは……刀！」

刀「分かりました！」

2人『変身！』

エボル「何！」

2人は変身をしたが見た事ない姿のフォームになった！

『平成パワー！ロックオーブン！極アームズ！大大大大將軍！』

『掴み取れる未来！フューチャーズ！ビルド！とれえ！とれるぜえ！』

鎧武「此処からは！」

ビルド「勝利の法則の！」

2人『ステージを見付ける!』
S e e y o u e n d g a m e

第8話打ち勝て！エボルトの最後！

鎧武「此処からは！」

ビルド「勝利の法則の！」

2人『ステージを見付ける！』

那奈と刀の諦めない気持ちが奇跡を起こしてくれたのか？けど……エボルトを倒せるかはお前達にかかっているぞ！那奈！刀！頼むぞ！俺は……あのセレナと語り合っている！

エボル「お前達がどんな力を手にしたとしても！俺には勝てないぜ！」

赤いエネルギー弾を2人に撃つがそれを避けてエボルト目掛けて走って行く2人！

ビルド「はあ！」

私はエボルトに蹴りを入れてパンチもしダメージを与えた。

エボル「く！人間ごときが！」

エボルトの攻撃に鎧武が武器を召喚した！

『ライドブツガー！ドア銃！』

鎧武「喰らいなさい！」

私は銃系の武器を召喚し撃ちまくってエボルトは倒れかけた!

エボルト「ぐ!うが!このお!」

俺を舐めるのもいい加減にして貰うぞ!

他の皆様の方では黒いセレナ達に苦戦はしていた!

ドライブ「くっそ!それなら!」

俺はベルトのキーを回してシフトスピードのレバーを3回倒してシフトアップさせた!
た!

『スピード!スピード!スピード!』

スピードを上げて黒い奏さんを攻撃し夏目が追い撃ちをかけた。

ローグ「貴方は母さんであつて……母さんじゃない!だからここで!終わらせる!流星行くよ!」

『クラップアップファイニッシュ!』

ドライブ「了解!」

『ヒツサーツ!フルスロットル!スピード!』

奏B「ぐあああああ!」

俺達は黒い奏さんを何とか倒したけど後味、悪すぎだろ。他の皆も頑張れ…

ゴースト「はあ!」

ガンガンセイバーで俺は未来さんに攻撃するが流石は鏡獣神を使う未来さんだ！
未来B「く！早く倒れて！」

やば！あのレーザーは避けないと！

ゴースト「よっ！こいつで！」

『カイガン！ムサシ！決闘！ズバツと！超劍豪！』

俺はムサシ魂になり、ガンガンセイバーを二刀流にして攻撃をする！

ゴースト「はあ！」

ガンガンセイバー二刀流モードで攻撃したが避けられた！

未来B「その程度では倒せないよ！」

くっ！やっぱりレーザーを何とかしないと接近出来ない………なら！力を借りるぜ

！エジソン！

『カイガン！エジソン！エレキ！閃き！発明王！ダイカイガン！オメガシユート！』

未来B「きやあああああ！」

オメガシユートで未来Bを撃って爆発して消えた。

エグゼイド「く！止めるんだ！ぐあ！」

俺は憎しみのセレナの攻撃を防ぐがやっぱり出来ない……

セレナB「そんなので私は止められない！さあ！やってみなさいよ！」

アガートラームの短剣で攻撃するがそれを俺は防ぐ!

エグゼイド「君も同じセレナだ!俺は戦いたくはないんだ!」

セレナB「そんなの本当に世界を救った仮面ライダーなの!それでも仮面ライダーエグゼイドなの!」

!.....このセレナはもしかして、憎しみに染まっではないのか?

エグゼイド「.....」「お前もか!」!いつの間に!」

エボルトは黒いセレナの後ろに瞬間移動をして俺は驚きを隠せなかった!

エグゼイド「な!」

ロツソ「セレ.....ナ.....セレナ!」

エボルトは黒いセレナを刺してそのまま倒れるのを俺は変身を解除して受け止めるがエボルトが邪魔をしようとしたが那奈達が食い止めに来てくれた!

ビルド「早く行って!」

鎧武「ここは私達に任せて下さい!」

2人とも.....ありがとう!

祥平「とどつ!.....けえええええ!」

俺は黒いセレナを抱き抱えて転がって岩にぶつかったが俺は自分の事よりセレナに声をかけた!

祥平「おい！しつかりしろ！」

セレナB「なん…で…助けた…の？」

祥平「そんなの関係ない！お前もセレナだ！愛してる奴と同じ姿で死ぬのなんて俺は許さないぞ！」ポロポロ

こんな憎しみの私でもそんな風に思ってくれる何て………やつぱりあなたも変わらないのね……う！

祥平「大丈夫か！『きやああああ！』那奈！刀！」

エボル「そいつは失敗作だ！そのままそいつはスクラップだ！」

こいつ！許さない！セレナ達は憎しみから生まれたかもしれない！だからって！

祥平「このセレナはお前の道具じゃないんだぞ！」

エボル「いやいや？道具だぜ？お前達の娘を消す為のな！ははははは！」

……もう我慢出来ない！こいつだけは！

翼「今のは許せないぞ！私達の憎しみから産んどいてその言い方があるか！あの私達には命があるのだぞ！それをそんな風に！クリスタル！セレクト！『ウルトラマンギンガ！』纏うは水！紺碧の海！」

『仮面ライダーブルー！アクア！』

デイケイド「そんな勝手な人は絶対に倒す！」

それぞれ黒い装者達からエボルトに目を向ける!

ジオウ「そんなの許せない!」

響B「……………」

やっぱりなんだね、それがエボルトのやり方なんだね……………

祥平「…………絶対にしなせない……………アーンズ、パラド…………やるぞ!皆!」

それぞれが頷きエボルトに攻撃をし俺はアクションゲーマーレベル2になってエボルトに向かつていった!

エグゼイド「エボルトおおお!」

『ジャッキーン!』

上からガシャコンブレイカーを振り下ろしてエボルトを斬ろうとするが抑えられた!

エボル「その程度じゃ!効かないと言っただろ!」それはどうかな!」何!ぐ!」

後ろからドライブとウイザードの攻撃を同時に喰らいエボルトは飛ばされて倒れる。

エボル「ぐ!くそが!」

エボルトは立ち上がろうとしたがジョーカーがそのままキックをしてきた!

ジョーカー「はあ!」

エボル「ぐは!」

人間ごときが俺を倒そうとするなんて！認めるかあああああ！

デイクライド「はあ！」

ライドブツガー銃モードでエボルトを連続で撃つ！

エボル「ぐあ！」

この人だけは許せない！絶対！

ロツソ「翼！」

ブル「ああ！」

2人『フレイムアクア！ハイブリッドパンチ！』

2人の炎と水のオーラを纏った拳でエボルトを殴り吹っ飛んだエボルトの身体は電撃がバチバチしていた。

ジオウ「はあ！」

エボルトにドリルで攻撃するがそれを蹴られてしまうジオウは飛ばされた。

エグゼイド「未来！「がら空きなんだよ！」ぐ！」

こいつのパンチが重い！だけど……負けられない！

エボル「お前の力はこの程度か！」

んな訳ないだろ！那奈達の前で俺はもう！負けられないんだ！

エグゼイド「確かに俺は限界かもしれない！だけどな！1人で俺は戦っていないんだ

!だから!俺は負ける気がしないんだよ!

俺はエボルトを吹っ飛ばして更に那奈と刀が同時にキックをエボルトに直撃させた!

2人『はあ!』

エボル「ぐあ!」

鎧武「お父様!」

ビルド「お父さん!」

エグゼイド「決めろ!2人とも!」

2人はお互い見つめて頷きそれぞれジャンプして必殺技を発動させてエボルトにライダーキックをかました!

『レディゴー!フューチャーズファイニッシュ!』

『ソイヤツ!極スパーク!』

2人『はあああああ!』

エボル「ぐ!俺がこんな所で!ぐ!う!ぐあああああ!」

ライダーキックがエボルトを貫通し爆発した!

フォーゼ「終わったのか?」

ドライブ「なら良いんだけど」

エボルトは爆発して消滅したのかは解らないがエボルトに生み出されたセレナ達も消えていた。悔しいがあれがあれがいつらの運命なのかは解らないけど俺はまた何処かで会える気がする。それからエボルトとの戦いから3日が過ぎた。

3日後

那奈「……………」
「那奈どうしたの？」
刀、ううん…………ちよつと考え事してた。」

刀「考え事？」

私はあのフューチャーズフルボトルが消えたけどビルドにはやっぱりなれなかった事が解ったけど

那奈「あれが何で私達の前に現れたのか、考えてたんだよね」

刀「そうなんだ」「そう言えば今更だけど」
なに？」

那奈「刀が敬語使わなくなったなと思ったけど何で？」

刀「多分あの時のロックシードかもしれない」

そう、私はエボルトとの戦いで私はあのロックシードを使って敬語は少しずつ何故かなくなつて言っていた。

刀「それでも私は変わらないよ♪」

刀は笑顔でそう言つてそのまま出掛けた。

那奈「大丈夫だよね？」

そして更に1週間がたち紗奈はお父さんとあの時に特訓で使ったガシヤットの事を
仮面ライダーの先輩達に聞いて何とか仲直りは出来たけど………私はどうすればビル
ドの力が戻るのかな?

??? 「あれが祥平の娘か?」

??? 「ああ、あいつだ。前に1度この世界に迷い混んだからな」

謎の2人は何処から来たのかは不明そして何者なのか?

See you Next Game

第9話 天才と筋肉馬鹿そして取り戻す力

エボルトとの戦いが終わってあれから平和に暮らしていたが流星達はまたすぐに旅に出てしまったが俺は止めなかった。あいつらはあいつらの考えがあるのだと……

祥平「んー！あれから平和になったな……良しちよつと調べるかなつと……」どうしたの祥平？」「ん？アーンナス、実は那奈がビルドに何で変身出来なくなったのか調べようとしたんだよ。」

確かにそれはどうしてなのかは調べとかないと……しかしジオウ……ちよつとあの人に聞いて見るか。

那奈の自室

那奈「……………」

私はハザードトリガーを見つめていた。もしかしたらこれを使って変身出来るんじゃないのかを考えただけ……怖かった、自分の意識がなくなつて目の前の物を破壊するまで止まらない。もしかしたらお父さんやお母さんに攻撃してしまうと考えたら恐怖も感じた。

那奈「コントロール出来る用にフルフルラビットタンクフルボトルでコントロールは

出来るけど……やっぱり怖いな……」

暴走して大切な家族に攻撃なんて、私は絶対に耐えられないって言えると思っていたら景色が変わった！え？何処なの！？

??? 「よっ！久し振りだな」

那奈 「万丈さん……お久し振りです、えつとそつちの人は？」

万丈さんの後ろからもう1人男性が歩いて来た。

万丈 「こいつは仮面ライダービルド。桐生戦兎だ。」

戦兎 「始めましてだね？高田那奈さん。」

なんで私を知ってるの？と疑問はしたけどお父さんと関係あるのかな？

那奈 「そうですね？なんで知ってるんですか？」

私は戦兎さんにそう答えるのか聞いてみた。

戦兎 「万丈から聞いたんだ、彼の娘が俺と同じビルドになっていったってな」

そう言う事だったんだ……それより本題に入らないと……

戦兎 「それじゃあ……実験を始めようか？」

実験って何の!？

祥平の部屋

祥平 「はい、はい……ありがとうございます！」

そうか！だからなんだな！そうしたら急いでやらないと！「祥平！」ん？翼？
祥平「どうした？」

翼「大変だ！謎のエグゼイドが現れた！」

何だと！そうしたら行くしかないな！俺は翼と一緒に向かったが公園で暴れていた！

公園

祥平「あれもあの時のアナザーライダーなのか？」

それより人を襲うなんて許せない！俺と同じエグゼイドの力を！

『マイティアクションX！』

祥平「大変身！」

『マイティ・マイティアクションX！』

俺はエグゼイドになりガシャコンブレイカーソードモードを手にとって俺はアナザーライダーに攻撃をする！

エグゼイド「あの時のビルドと同じなのか？だけど効いてるのか？なら！」

俺は連続で斬って行くがだんだん異変に気付いた！

翼「祥平！身体が！」

エグゼイド「はあ！ぐ！」

その瞬間俺はエグゼイドから変身が解除され頭から全て消えてしまった…

翼「祥平！大丈夫か！」

アナザーライダーが消えて翼は祥平に近付き聞くが大丈夫そうだった。

祥平「翼どうしたの？」

翼「いや、何でもないがそれよりあのエグゼイドを倒さないとな」

私はそう言っていたら祥平が聞いて来た。

祥平「えつとき、翼、エグゼイドってなに？」

な！忘れたのか！何故だ！それにあのエグゼイドも消えている！

翼「何故忘れているんだ！」

翼が俺の肩を掴んで揺さぶるが何の事か分からなかった。

祥平「翼、痛いから離して」

翼「それはすまなかった…」

これは非常に不味いな…あのアナザーライダーを倒すのには確か小日向にも聞いた
が同じ仮面ライダーの力じゃないと倒せないと…小日向の所に行くか。

アーナス「これは非常に不味い…祥平のエグゼイドの力が消えたって…ただ
ど信じてるよ」

そのままアーナスは消滅してしまい、同じくパラドも消滅してしまった。街ではどん

どんクリア出来ないゲームが広がりアナザーエグゼイドは暴れている！

アナザーエグゼイド「うがあ！」

人々がどんどん倒れていってしまうがセレナとマリアがオーブとロツソになってアナザーエグゼイドを攻撃するがやはり効いてなかった。

オーブ「これ以上やらせない！」

ロツソ「セレナ！行くわよ！」

2人がアナザーエグゼイドをまだ攻撃をするがやはり効いてなかった！

アナザーエグゼイド「ふっ！」

凄いジャンプ力！あれが本来のエグゼイドなの！

オーブ「きゃー！」

ロツソ「くー！」

あれがアナザーエグゼイドの力なの？けど負けない！

『仮面ライダーオーブエメリウムスラッガー！』

オーブ「治癒創成……光となりて！」

頭のスラッガーを手に持ってアナザーエグゼイドを連続で斬って倒すが復活をした

！

オーブ「嘘！」

ロツソ「それなら！フレイムスファイアシュート！」

炎の光線でアナザーエグゼイドを倒すがやはり復活をした！

オーブ「きりがいいよ……」

セレナの体力もそろそろやばいけど私も辛いわね……こんな時に祥平は何を！

ロツソ「いいえ！そんな事で倒れないわよ！クリスタルセレクト！」

『仮面ライダーロツソアクア！』

ロツソ「ループスラッガー！」

このエグゼイドは私達じゃ倒せないのは解るけど……街の人達を守る！

謎の空間で戦兎は何か那奈との実験を終えた。

那奈「これで終わりなん……ですよね？」

戦兎「ああ、後は急いで行け！」

私はそのまま送り返されたけど何かエグゼイドの化物がお母さんとマリアさんと

戦ってる！どうなってるの！

那奈「取り敢えず！……変身！」

『鋼のムーンサルト！ラビットタンク！イエー！』

特訓の成果見せてやる！勝利の法則を見付けるよ！はあ！

ロツソ「く！倒せない！ぐあ！」

私はロツソから変身が解けてしまいアナザライダーにやられると思っていただけドリルクラツシャーで吹っ飛ばされた！

ビルド「お母さん！マリアさん！大丈夫！」

オーブ「もしかして那奈！」

どうして変身が出来るの？それにあいつをどうやって倒せば！

ビルド「2人は休んで！『マックスハザードオン！ラビット！』ビルドアップ！
『紅のスピーディージャンパー！ラビットラビット！ヤベェー！ハエー！』

私はラビットラビットフォームになりアナザライダーに攻撃してダメージはあるけど止めは無理だと思ってるけどやらないといけない時が私にはあるんだよ！

その頃那奈達とは別で未来はジオウビルドアーマーになってゲイツと戦っていた！

ジオウ「く！」

私は多少避けられるけど攻撃の隙がなくて苦戦している。

ゲイツ「どうした？その程度か！」

重い一撃を防げなかった未来は吹っ飛ばされ変身が解けてしまった。

ジオウ「きやああああ！」

ゲイツ「ふっ…これで終わりだ！小日向未来！」

私は此処で終わっちゃうの？そんなの嫌だよ……祥平、助けて……

祥平「らあ！」

俺は赤い奴に蹴りを入れる！

ゲイツ「く！何者だ！」

ん？こいつは！

祥平「未来に何するんだ！」

ゲイツ「未来の為だ、そいつには死んで貰う為だからな！」

こいつ……絶対許せない！

祥平「うおおおおお！」

俺はパンチをするが赤い戦士に防御せれて俺は吹っ飛ばされる。

祥平「あ！ぐ！」

未来「祥平！」「お前はそのまま消えて貰う！」く！」

未来に！……手を出すんじや！

祥平「ねえええええええ！」

その瞬間、祥平の身体が光輝き始めた！

ゲイツ「この光は「うあああああ！」ぐ！」

こいつ！生身なのにこの威力は！くそ！

祥平「逃げるな！ぐ！……！」

ゲイツを撤退して未来はそのまま離された！

未来「けほけほ！祥平！」

私は祥平を家に連れて運ぼうとしたけど地面が揺れた！

未来「何これは！」「我が魔王」貴女この間の？」

私の前に現れたのはまたあの女性だった……

???「私はウイズです。それよりこの現象はかなり厄介になります。」

紫のロープで茶髪の女性はウイズと教えてくれるけど厄介な事って何なの？

ウイズ「高田祥平、仮面ライダーエグゼイドに過去が改変されています。」

これは彼の初めて仮面ライダーエグゼイドになった時のお話しに戻ります。

『ガシャット！レッツゲーム！メツチャゲーム！ムツチャゲーム！ワツチャゲーム！ア

イムアカメンライダー！』

エグゼイド「すげえ！変身出来た！よーし！ノーコンティニューでクリアしてやるぜ

！」

本来は翼達3人がいなかった。タイムジャッカーのウールは翼に近付いてアナザー

エグゼイドにしてしまった。

エグゼイド「よーし！今度は大へ……」

いきなりエグゼイドから変身が解けてしまった。

祥平「あれ？俺は此処で何を？……まあいつか……」

祥平はそのまま何処かに行ってしまう

ウール「これで今日から君が仮面ライダーエグゼイドだ！」

アナザーエグゼイド「これで奏を助けられる！」

と此処までが大きな影響です。果たして我が魔王はこの運命を変えられるのか楽しみですね。そして此処から大変な事件になっていきますからね♪

別の場所での零達は崖の所にいる。

ブレードソウル「く！うわあ！」

謎のレーザー砲で零はフィギュアにされてしまった！

クリス「零！ぐあ！」

レーザーターボ「一体なんなんだよ！うわあ！」

響「貴利斗さん！皆！」

それぞれ台座のフィギュアにされてしまいそのまま消えてしまった。

See you Next Game

第10話謎の事件そしてコピーされた悪の零達！

翼「私は……………」

あの時の男が私に何か身体の中にあのウォッチは何だったのだ？ だけど……………奏を……

祥平「翼どうしたの？」

俺は翼が最近調子が悪そうだったから声をかけたのだが手を弾かれた……

翼「……………す！ すまない！」

翼はそのまま走って行ってしまった……

祥平「翼……………」
「祥平どうしたの？」 未来、実はいま翼が心配で近付いたら手を弾かれたんだ……………やっぱりあのライブの時に奏さんが死んだからなのか？……………デリカシーのない俺は……………」

祥平のせいじゃないのに私や皆も同じだよ……………

未来「心配しないで、私が何とかするから」

祥平「未来……………ありがとう」

そのまま未来は走って行くが俺のポケットにはエグゼイドライドウォッチを取り出

して見つめていた。

祥平「やつぱりこれって……!うわあ!」

いきなり謎の時空間に俺は吸い込まれた。エグゼイドライドウオッチはそのまま落としてしまった。

刀「あれ?これってエグゼイド?……お父様は?」

私はエグゼイドライドウオッチを手に持つてお父様を探しに出掛けました。

その頃セレナの方はアナザーエグゼイドに苦戦してしまっている。

ビルド「やつぱりエグゼイドの力がないと倒せない!」

ドリルクラツシャーを手に持ちアナザーエグゼイドに攻撃をしようとしたけど!

オーブ「消えた!……!」

私達はそれぞれ変身を解除するけどどうやってアナザーエグゼイドを倒せば。

マリア「1度戻り……!2人とも下がりな!」

謎のレーザー砲がマリアを当ててそのままファイギュアにされた!

セレナ「マリア姉さん!那奈!逃げて!」

私はオーブになり構える!

那奈「お母さん!「早く!」……ごめん!」

私はホークガトリングになりそのまま振り向かないで撤退をした!絶対に助けるか

ら待ってて、お母さん！

調「何でなの！切ちゃん！私が何をしたの！」

私は仮面ライダークロウズの力でシュルシヤガナを仮面ライダーギアにしてビート
クローザーで防ぐ！

切歌？「黙れデス……」

あの切ちゃんは何で私に攻撃してくるのか分からなくて苦戦してしまい……謎のレ
ザー砲にやられてしまった。

調「ごめん……皆……」

そのままどんどん翼、祥平、刀、那奈、未来以外は全てやられてしまいフィギュアに
されてしまっている。

那奈「どうしてこんな事に……それにあの空に浮いていた奴は一体……」

刀「確かに……そう言えばお父様は？」

那奈「え？見てないけど……」

え？では一体何処に？お父様……助けて下さいよ

???

祥平「いてて……此処は？」

俺はあたりを見渡すが廃墟か？それにここって……

利奈「無事で良かったわ、祥平……」

祥平「姉さん一体此処は何?」

利奈「此処は亜空間の狭間、私達はここでの調査をしていたのよ」

亜空間の狭間?それに私達って?

玲奈「祥平元気にしてた?」

祥平「玲奈さん久し振りです、そう言えば調査って何をしてたの?」

俺は2人に聞いたがこの後、とんでもない事を言われた。

利奈「零や貴利斗や他の皆が何者かにやられた……」

祥平「え?兄さん達が!」

玲奈「それに行方不明なんだよね」

誘拐なのか?それに行方不明って兄さん達が簡単にやられるなんて考えられない!

それに俺は……これは?

玲奈「それはクラッシュバンディクーガシャット、難易度が鬼畜なゲームガシャットを檀黎斗が残した物だよ」

え?ガシャット?ゲーム?何の話し?それに檀黎斗?誰なの?

祥平「う!頭が!ぐ!あああああああ!」

祥平はいきなり頭を抑えてしやがみこんだ!

利奈「祥平！」

玲奈「いきなり何があつたの！」

祥平「ぐ！あ！ああ！………」

え？倒れるの！取り敢えず祥平を運ばないと…

未来の方

未来「零さん達？それに響！」

私は響達に声をかけようとしたけどいきなり攻撃をされた……

未来「え？響何をするの！」

響？「未来を倒す……」

ガングニールでパンチや蹴りをしてくるけど私はジオウライドウォッチを取り出した！

『ジオウ！』

未来「変身！」

『ライダータイム…：仮面ライダー…：ジオウ！ジカンギレード！ケン！』

ジカンギレードケンモードで防ぐけどやっぱり響に攻撃なんて出来ない！ぐ！

零？「変身……」

『レベルアップ！黒の剣士キートー！』

二刀流で連続でジオウを斬っていく!

ジオウ「2人とも止めて下さい! きゃ!」

どうしたらいいの? こんな………

ジオウ「信じたくないよお! うわああああ!」

『フイニツシユタイム! タイムブレーク!』

そのまま2人にライダーキックを喰らわせて倒したけど……え?

ジオウ「金の砂? これは一体どういう事なの?」

私はこれを持って帰ろうとしたけど……ゲイツ

ゲイツ「悪いが死んで貰うぞ!」

『ジカンザツクス! オーノー!』

オノの攻撃をジカンギレードで防ぐけどやっぱ強い! 一体どうすれば!

??? 「はあ!」

2本の探検でゲイツを切り裂く物が現れた。

ゲイツ「ぐ! 何者だ!」

??? 「俺か? 俺は仮面ライダークロースだ!」

何? だが仮面ライダークロースは確かもう……いいやそんなのは関係ない!

クロース「悪いがこの子は俺が守らせて貰うぞ? 『ボトルバーン! クロースマグマ!」

アークユーレディ?』クローズアップ!」

『極熱筋肉クローズマグマ!アーチチチチチ!アチー!』

クローズ「力がみなぎる!魂が燃える!俺のマグマはほとばしる!」

いきなり現れたクローズはクローズマグマにフォームチェンジをしてゲイツを殴り飛ばした!

ゲイツ「ぐ!流石に仕方ない……」

ゲイツはそのまま撤退しクローズマグマから変身を解いたのは誰もが知っていた人物であった。

祥平「大丈夫か?」

変身を解除したのは万丈と同じ服装の祥平だった!

未来「祥平!「ちよつと待ってくれ俺はこの世界の者じゃないんだ。」え?それじゃあ?」

祥平「この世界ではアリスやアリスがお世話になったよ」

え?それってアリスさんが言っていた祥平が目を覚ましたって事!

祥平「それよりこの世界でもあいつが復活してしまったんだな」

未来「あいつって何者なんですか?」

祥平「………かつて、俺は紫によって仮面ライダークローズ、オーズ、エグゼイドに

なつてそいつを倒したんだがあの爆発でこの世界に移動したつて紫や霊夢に聞いたんだ。」

それつてさっきの響と零さんとか関係あるのかな？

祥平「さてと、君は俺の事を知つてそうだったけどもしかしてこの世界でも俺がいるの？」

未来「はいいるんですが、物凄く同じ顔だから見分けるのが大変かも……」
んーそうなると服装はやっぱり万丈さんと同じ服装のままでもいいかもな
祥平「まあ、それだとここから急いで移動しよう」

See you Next Game

第1話 幻想郷から来た祥平そして集まる戦士達！

祥平異世界「へえ、この世界の俺は未来や他の装者と結婚してるんだな？」

未来「そうなんですけど……」

ん？なんか元氣ないけど、どうしたんだ？

祥平異世界「どうしたの？」

未来「あの時の響達は何者だったのかを考えてました。」

それだとやっぱりそうなるな。この事件の根元はやっぱりあいつだな。

祥平異世界「やっぱりこうなったか。小日向さん！氣を付けて！」

そして目の前に現れたのはセレナとマリアだった！

未来「セレナちゃん！マリアさん！「駄目だ！あの2人もだ！」それって響と零さんと同じ？」

祥平異世界「そう言う事だね。ここは俺に任せて行け！」

『ウエイクアップ！クローズドラゴン！』

ビルドドライブバーにクローズドラゴンをセットし俺は仮面ライダークローズに変身して2人を誘き寄せた。

未来「急がないと!」

私は急いで祥平を探しに向かおうとしたけど、また!

ゲイツ「言った筈だ! お前を倒して未来を変えろと!」

『ジカンザックス! ユーミー!』

ジカンザックスユミモードにして未来を狙い撃つがそれを何とか避けてジクウドライバーを取り出しジオウになる!

ジオウ「貴方に構ってはいられない!」

『ジカンギレード! ジュウ!』

ジカンギレードジュウモードでゲイツを撃ちまくるがやはり苦戦はしてしまふ!

ジオウ「それなら!」

『ケン!』

ゲイツ「こっちもだ!」

『オーノー!』

両方とも近距離武器に切り替えそのままぶつかり合うが吹っ飛ぶ!

ゲイツ「くっ! 流石はジオウ……なら!」

『ゴースト!』

ゴーストライドウォッチをジクウドライバーの左から入れてドライバーを回転させ

た。

『ライダータイム…仮面ライダーゲイツ…アーマータイム！カイガン…ゴーストー！』

ゲイツはゴーストアーマーになりパーカーでジオウに攻撃をする！

ジオウ「くっつ！」

これは不味い…うっ！

ゲイツ「はあ！」

ゲイツは容赦なくジオウに連続でパンチをする。

ジオウ「私だって…負けれない…：…祥平に助けられてばかりにはいかない

！」

『ビルド…ライダータイム…仮面ライダージオウ…アーマータイム…ベストマッチ…

ビルドー！』

ジオウはビルドアーマーになりドリルでゲイツを攻撃する！

ゲイツ「ぐ！さつきより強くなってるだど？ぐあ！」

ゲイツはそのまま吹っ飛ばされゴーストライドウォッチが外れてアーマーは解除さ

れた。

『フィニッシュタイム！ビルド…ポルテックタイムブ레이크！』

色んな数式が出て来てそのままゲイツを挟み技を当ててゲイツはそのまま倒れた。

ジオウ「……勝てたの?」

そのままジオウから変身解除をし、ゲイツに近付いた。

ゲイツ「なんだ:俺を笑いで来たのか?」

未来「ううん、違うよ。実は今の事件を解決するのを手伝って欲しいの」

こいつ何を言ってるんだ? まあ、だがこの事件は厄介だからな。仕方ない。

ゲイツ「まあ良いだろう……ただし!俺は手伝うのはこの事件だけだからな!」

そのままゲイツは何処かに行き、未来も祥平を探しに向かった。一方那奈と刀の方はエグゼイドライドウオッチを持ったまま祥平を探していた。

那奈「見つからない……」

刀「お父様は一体何処に……」

私達が悩んでいたら未来さんが来ていた。

未来「2人とも大丈夫!」

那奈「大丈夫だけど?どうしたんですか?」

私達は未来さんに事情を全て聞いた。未来から来た仮面ライダーゲイツは未来さんを倒す為に来たけど、負けてこの事件の解決を手伝う事になったけどお父さんの行方がわからないままなのが嫌だな。

刀「それにしても響さんや皆さんが謎の敵にやられてその偽者と戦わせるなんて最低

ですね……」

那奈「それはどうしようもないけど、問題はアナザーエグゼイドの正体だよ！」

アナザーエグゼイドの正体はまだ私にもわからない状態だったのを考えてたら現れた！

アナザーエグゼイド「奏を……この手で！」

アナザーエグゼイドの攻撃を避けて未来はジクウドライバーを取り出し腰につけジオウライドウオッチを取り出したが考えた。

未来「奏さんって……もしかして翼さん？ 貴方は翼さんなんですか！」

その攻撃は一瞬止めアナザーエグゼイドから信じられなかったがああ翼だった。

刀「お母様？ 何ですか？ 何故そんな物に！」「貴女の事は知らないわ」え？」

その言葉で刀は言葉は出なかった。その事に対して、那奈は睨んだ。

那奈「翼さん……なんで自分の娘の名前を！ 刀を忘れてるの！」

翼「？、よく解らないが貴女達の生命力を貰うわ！」

『エグゼイド……』

翼はアナザーエグゼイドになり3人を襲うが未来はジオウに変身しジカンギレードで防ぐ！

ジオウ「翼さん！ 何故貴女がこんな事をするんですか！」

ジカンギレードでアナザーエグゼイドを斬るがダメージはほぼない。

アナザーエグゼイド「貴様に何が解ると言うのだ!」

ぐ!この一撃!……だけど負けられない!

那奈「刀!しっかりして!このままでいいの!」

刀「……解ってるけど……お母様があんな「私の考えだと多分あの翼さんは本来の時系列の翼さんかもしれない。」え?」

那奈「何かの拍子にそこから変わっちゃったんだとおもうけど。本来の時系列はお父さんから聞いた。奏さんあの時に死んだと思ってたって翼さんは思ってたけど……仮面ライダーゲンム檀黎斗さんが最初は殺したらしい。その時に仮面ライダーエグゼイドの世界に飛んだって。それから奏さんはお父さん達の所に戻って来たらしいって。」

それではあのお母様は……別の時系列の人?

那奈「話して解決したいけど……あれは1度目を覚まさせないとね?」

那奈……やるしかないね!

『オレンジ!ロックオン!ソイヤッ!オレンジアームズ!花道オンステージ!』

鎧武「ここからは私達、家族のステージ!」

那奈「なら、私も『ラビットタンク!ベストマッチ!』変身!」

『ラビットタンク!イエー!』

ビルド「家族の物語は終わらせない！勝利の法則は絶対につける！」
2人が並んでアナザーエグゼイドに攻撃をした！

ジオウ「2人ともありがとう……」

ビルド「それより未来さん、これを……」

那奈ちゃんが私に何かを出してきたけどこれって！

ジオウ「ライドウオッチ……」

鎧武「私達で別の世界のお母様を」

別の世界の翼さん……うん！やろう！

『エグゼイド……ライダータイム……仮面ライダージオウ……アーマータイム！レベルアップ！エグゼイド！』

ジオウはエグゼイドアーマーにアーマータイムをした。

ウイズ「祝いなさい！全ライダーの力を受け継ぎ、時空を超え、過去と未来をしろしめす時の王者。その名も仮面ライダージオウエグゼイドアーマー。まさにライダーの力を継承した。瞬間です。」

そしてウイズは姿を消しそこに利奈さん達が現れた！

ビルド「お父さん！」

そこにはお父さんもいた！

祥平「皆、大丈夫か？」

私達に心配してるけどお父さんも何か震えてる？

ジオウ「祥平……未来。大丈夫だったか？」心配したんだよ？それに」

祥平「話しは後で聞こよ」

何かいつもの祥平の感じじゃない？それより翼さんを止めないと！

ジオウ「ノーコンティニューでクリアしてみる！」

私は右手を上上げてそのまま攻撃を始める！

祥平「もし……未来が可能性があるなら。最高の魔王になれる筈だ。だから俺は信じる……大変身！」

『クラッシユバンディクー！ガシャット！ガチャーン！レベルアップ！ジャンプにスピ
ンでスライディング！落ちる！焦げる！クラッシユバンディクー！』

姿はエグゼイドのままだが色がアンダーズーツが茶色になりズボンに青いジーンズ
に変わり目の色もそのままである。（言っちゃうとクラッシユバンディクーの姿のまま
になります。）

エグゼイド「ノーコンティニューでクリアするぜ！」

祥平は何故か仮面ライダーエグゼイドに変身出来た！

ビルド「え？お父さん何で変身出来るの！」

！
皆は驚いてるが俺は気にしてはないでアナザーエグゼイドにパンチやキックをする

ジオウ「私もやらないと！」

腕のガシヤコンブレイカーで攻撃をする未来はアナザーエグゼイドに語り合う！

ジオウ「翼さん！そんな事をしてても奏さんは生き返っても喜びません！目を覚まして下さい！」

未来……こいつが翼なら話しが通じる筈だ！

エグゼイド「翼！奏の何があつたのかは今ので解つた！だけど！人を！街の人達をやるなんて！そんなの間違つてる！」

く！この2人は何も解つてない！奏が！私のせいで！

ビルド「翼さん！私も大切な人達が死んだら確かに生き返らしたいけど！そんな事しても何も解決になってない！その人の笑顔が見れなきや！自分も幸せにはなりません！」

ドリルクラツシャーで連続で斬つて行き、鎧武がそのまま斬りに来た。

鎧武「本当にそれで何が救えるんですか！お母様！」

その言葉でアナザーエグゼイドから翼の姿に戻った。

翼翼世界「貴方達に何が解るの！大切な仲間が目の前で「俺にも解るよ！」……何

で？」

それぞれライダーから変身を解除をしていた。そんな中、祥平が翼翼世界に抱き付いた!

祥平「俺もそんな事があつたから解るよ、だけど仲間が支えてくれたんだ、それに別の世界の翼だとしても1人じゃない……皆や俺が翼を助けるよ。必ずね……」

この優しい笑顔は……ああ、そうだ……何処かで見えた事あると思つたが忘れていた。懐かしい温かさだ。……祥平なんだな、奏が死んで1週間がたつたあの日だ……

別の平行世界、奏が死んでから1週間後の話し

翼「……」

奏「……私のせいだ……」

弦十朗「本当ならこんな事を任せたくはなかつたが……祥平、翼を任せて貰つても大丈夫か？」

弦十朗さんは申し訳なさそうに言うが俺は返事をするがやはり辛いけど、もつと辛いのは翼さんの筈だ。

祥平「はい……」

翼さん、奏姉さんが失つたのは貴女のせいじゃない……そのまま翼さんの部屋の前までは来たけど…………良し!

祥平「翼さん失礼しますよ?」「来るなど言った筈だぞ!」でも……翼さん」

俺は部屋のドアを開けたがめっちゃ拒否られるが諦めない!なんとしてもだ!

祥平「翼さん!」

祥平は私の肩を掴み真剣な目をしていた。

祥平「そんなに自分を責めないで下さいよ……俺はそんなの嫌ですよ? 奏姉さんも絶対に思ってますよ。」

そのまま優しく抱き締められた私は涙を流した。そう泣かないと決めた筈が彼の優しさにはやはり敵わなかった。

回想終了)

翼翼世界「……そうだったな、ありがとう、この世界の祥平……」

祥平「ああ……」

別の世界の翼からライドウオッチが出て来てそのまま壊れて光に包まれてそのまま消えた。

那奈「あの翼さん、大丈夫だよね?お父さん。」

俺もそう思いたいと思っていた瞬間空に何かが現れた!

祥平「なんだあれは!」

未来「解らない!」

そのままレーザーを撃ってくるがそれを俺達は避けるが多すぎるだろ!

刀「これは不味いです!」

このままじゃ! やられる!

??? 「避けなさい!」

『シングル! ツイン! ツインファイニッシュ!』

女性の声が入る。ツインブレイカーでレーザーを跳ね返す!

祥平「貴女はアリスさん!」

グリス「久し振りね?」

グリスになつてゐるのはかつて一緒に戦つた人物、アリス・マーガトロイドであつた!

グリス「まさかキラーが復活するなんてね! 貴方達! 変身しなさい!」

そう言われ仮面ライダーに変身をした。

エグゼイド「アリスさん、キラーって何者なんですか?」

俺はその疑問を聞くがまた撃ってきた!

エグゼイド「まだ来る!」

そう思つてた時、レーザーを撃ち落とされていた!

??? 「またあいつと戦うとはな!」

エグゼイド「あれは仮面ライダー達!」

そこには何人も並んでいた仮面ライダー達がいた！

グリス「魔理沙！ 霊夢！ 皆も油断しないで！」

霊夢「当たり前よ！」

それぞれドライバーを持ち腰に巻き付けて変身する！

ドライバー「ひとつ走り付き合いなさいよ！」

マツハ「追跡！ 撲滅！ いずれも弾幕はパワーだぜ！ 仮面ライダーマツハー！」

クロノス「貴方の時は私が支配します！」

ビルド「さあ、実験を始めましょうか？」

バースト「この世界の奴らには手を出させないぞ！」

イーター「お前の全てを食ってやるよ！」

スナイプ「ミッション開始ですね！」

ファイズ「私は嫌われるけど守りたい物があるんだ！」

それぞれ台詞を言いこつちに来た。

エグゼイド「貴方達は別世界の仮面ライダーですよね？」

ドライバー「まあ、アリスの頼み出しね。それにあいつもね？」

え？ あいつって誰の事だ？

ビルド「ビルドがもう一人？」

ビルド異世界「私はこれでも医者よ?それよりキーラを捕まえて実験させて貰うわよ」
♪

別の世界のビルドの人って何か……怖い、と言うよりこの人達誰なの?

ファイズ「皆さん、来ます!」

俺達の前には貴利斗兄さんやクリスさん達だ!まじかよ!

ドライブ「それじゃあ!キーラをさっさとぶっ倒すわよ!そしてこの世界の祥平の仲間を救出よ!」

皆『おお!』

遂に始まった。戦い、果たして祥平達は貴利斗達を救えるのか?

See you Next Game

第12話可能性は無量大！そして現れたバーコードライダー

エグゼイド「貴利斗兄さん達までかよ………だけど！やるしかない！」

レーザー「行くぜ？」

『ガシャコンブレイカー！ガシャコンスパロー！』

2人の近距離武器でお互いはぶつかりあう！

クリス「喰らいな！エグゼイド！」

くっ！クリスもかよ！ぐあ！

ジオウ「祥平！「こっちもいるデース！」切歌ちゃん！」

私はジカンギレードで防ぐ！

切歌「貴女達もキーラ様にやられるデース！」

くっ！こんな事で戦いたくない！

ファイズ「はあ！」

切歌を蹴りで吹っ飛ばした！

ジオウ「貴女は？」

ファイズ「ん? 私は今泉影狼です。貴女が守りたいと思ってる物は私にも守らせて貰いますよ!」

左腰の物を取り出し右手につけ、ミッションメモリをそれにつける。

『エクシードチャージ…』

携帯を開いてボタンを押して携帯を閉じて、赤い線が右手に光る。

ファイズ「たああ!」

そのまま切歌の腹にパンチをする!

切歌「ぐ!」

そしてそのまま金の砂になった!

ジオウ「やっぱり零さん達といた皆も……く!」

この攻撃って何!

???「貴女が魔王?」

マゼンダの戦士がジオウに攻撃する!

ジオウ「何者?」

???「ちよつと遊んで上げるよ……」

いきなりまた剣で攻撃してくる!

ビルド「未来さん! わっ!」

いきなりヨーヨーが私達を襲う！

鎧武「くっ！調さんまでも！」

調「はあ！」

また来る！なら！

『イチゴ・ロックオーン！ソイヤツ！イチゴアームズ！シュツシュツとスパーク！』

イチゴクナイを調さんに投げるがそれを弾かれた！

鎧武「これは厄介……」「はあ！」誰？」

調さんを蹴りで吹っ飛ばしたのは何者？

バースト「お前がこっちの祥平の娘か？」

鎧武「は！はい！」

そっか、あつちでは助けられたんだ。ここは俺達が助けてやるか！

イーター「雄介！まだ来るぞ！」

なら！禁断の力見せてやるぜ！

バースト「これでも喰らいな！」

『ガツシューーン！ガシャット！キメワザ！最終禁断クリティカルエックス！』

バースト「おらあ！」

調や他の敵を封印の槍が飛ぶがマゼンダの戦士は封印されてなかった！

??? 「成る程ね、ならこいつね……」

剣のケースから1枚カードを取り出しバツクルに入れる。

『カメンライド……エグゼイド!マイティ・マイティアクションX!』

マゼンダの戦士は姿をエグゼイドに変えた!

ビルド「嘘!あれって!」

エグゼイド「姿を変えるライダーって何だよ」

祥平……貴方は私を守るって決めてるの、だから……ごめんね

??? エグゼイド「行くわよ、魔王!」

剣を持ちジオウに攻撃をしかける!

ジオウ「そんな簡単にはやられない!」

エグゼイド「未来!」祥平は先に行つて!……解つた。無茶するなよ!皆さん!行

きましよう!」

ジオウ以外は皆でキララの所に向かった。

??? エグゼイド「貴女が私に勝てるだけでも?」

ジオウ「やつて見なきゃ解らないよ!」

『ビルド……アーマータイム!ベストマッチ!ビルド!』

ジオウはビルドアーマーになり??? エグゼイドに攻撃を仕掛けるが簡単に避けられて

しまう！

ジオウ「早い！「何処を見るの？」きゃ！」

ガシャコンブレイカーでジオウの背中にダメージが入る！

???「エグゼイド」「今度はこれね」

『カメンライド…アギト！』

また姿を変えた！このままじゃやられる。

???『はあああ！』

謎の光線と銃弾が???アギトに命中した！

???アギト「くっ！何者！」

キャロル「俺達は」

サンジェルマン「錬金術師だ！そして！」

2人「祥平に救われた者だ！」

くっ！錬金術師がいると厄介に！「なるワケだろ？」な！いつのまに！

ジオウ「キャロル！サンジェルマンさん！」

この人達は今まで何処に行ったのかは考えてたけど、今はそんな事！どうでもいい

！

キャロル「久しいな、世界の破壊者デイケイド！」

え? デイクイドって何? それに世界の破壊者!?

デイクイドアギト「確かに私は破壊者だ。だけど! あのキーラって奴を遂に見付けたけど、ジオウの力も必須だった。大事な人を助ける為に!」

大事な人を助ける為に……もしかしてこの人も私達と同じ?

ジオウ「それなら1度、話しを聞かせて!」

私は攻撃を避けて話しを聞こうとしたけど、かなり不味いかも……

デイクイドアギト「話しを聞かせて……ですって! そんな甘さのせいで! あの人が!」

『カメンライド……龍騎! アタックライド……ソードベント!』

また姿を変えた! やばいかも

デイクイド龍騎「その程度で魔王の力を持つとは情けないわね!」

連続でジオウを斬って吹っ飛ばし、反動で変身が解除された。

未来「この……ままじや……」

剣を私の首に向けられた。

デイクイド龍騎「これでさようなら……」

未来「ううん……さようならはしないよ、こんな事を止めてくれる人がいる!」

デイクイド龍騎「この女……なら望み通りに死になさい!」

そのまま大きく振り下ろされやられそうになったが
未来「やつぱり来てくれた……」

その戦士は、デイケイド龍騎の剣を弾いた！

???「ふ！」

デイケイド龍騎「な！このお！」

『アタックライド……ストライクベント！』

右手にドラゴンの顔が取りつき炎を吐いたがその戦士は未来を抱えて避けた。

未来「ありがとうね、別世界の祥平……」

私は知ってる、あの時の平行世界の祥平だって……

クロス「いきなり飛ばされて来て見たら、あんたがやられそうのを見たからな。それ

よりあの仮面ライダーってなんだ？」

キャロル「世界の破壊者仮面ライダー、デイケイドだ。」

クロス「ん？こいつらは？」

俺は始めて見た気がする。この2人は何者だ？

サンジェルマン「私達は錬金術師であり、祥平と結婚しているわ」

うわあ……やつぱりか、だがこの世界の事だ。何も言わねえわ。

クロス「だったら、デイケイドを倒せば良いんだな？」「待って！」何だ、違うのか？」

未来「あの人も大切な人を救う為に戦ってるの!」

成る程な、だが1度戦闘不能にしないとな!

クロス「1回あいつの変身を解かせるからな!」

『響…ライダータイム…仮面ライダー…クロス!アーマータイム!…へいき、へっちゃら!…響!』

手にはロケット形状のガングニールと足にはジャツキが取り付かれ首の後ろからはマフラーがあり、肩にはシンフォギアペンダントがついていて、顔にはローマ字でH I B I K Iと書いてある。髪型もそのままだった!

未来「え!響!え!なんでなの!」

クロス「行くぞ!」

俺はデイケイドにパンチをするが流石に防がれるよな!

デイケイド龍騎「ちっ!ならこいつで!」

『カメンライド…ファイズ!』

クロス「姿を変えるのかよ!だからって甘くないぜ?はあ!」

空を飛べるのね、厄介だけどこいつね!

『アタックライド…オートバジン!』

バイクがロボットに変形しクロスにマシンガンで撃ってくる!

クロス「ぐあー！」

俺はそのまま撃ち落とされるがキリトライドウォッチを起動させキリトアーマーに変えた！

『アーマータイム…リンクスタート！キリトー！』

2本の剣を持ち、デイケイドファイズに襲い掛かる！

デイケイドファイズ「くっ！」

ファイズエッジで防ごうにも2本じゃ厄介！なら！

クロス「これならどうだ！」

『アタックライド…イリニュージョン！』

な！分身するのかよ！だがやられてたまるかよ！

未来「あのままじゃ！」

サンジェルマン「ならいきなさい。」

キャロル「立花響ならこんな所では諦めない筈だろ！」

そうだ…響だったら、諦めない！私だってやれるんだ！

その頃キーラの所に向かう祥平達の方は？

エグゼイド「今度もコピーされた母体なのか？」

俺達の前に現れたのはセレナと奏だったがコピーされた母体なのかをアリスに聞く。

グリス「違うわ、あれは本物よ。倒せば、正気に戻るから気を付けなさい!」
成る程ね、なら俺が目覚まさせてやる!

エグゼイド「皆は先に行って下さい!」

ビルド「お父さん……解った!お母さんを助けてよ!」

鎧武「行きましょう!」

俺以外は先に向かうが絶対にやってやる!

エグゼイド「ノーコンティニューでクリアして見せる!行くぞ!はあ!」

俺は奏に蹴りを当てようとしたがガングニールの槍で防がれセレナは仮面ライダー
オーブエメリウムスラッガーになっていてスラッガーで攻撃をしてくる!

エグゼイド「ぐあ!」

まともにダメージは喰らったがまだ負けないぜ!

『ガシヤコンブレイカー!ジャツキーン!』

エグゼイド「これならどうだ!」

ガシヤコンブレイカーで斬りにかかるがまた防がれるのかよ!ぐ!

エグゼイド「やべっ!」

奏の攻撃を避けられるがオーブのスラッガーが無数に襲って来て俺は追い込まれて
しまう。

エグゼイド「お前らを取り戻すまで！諦めない！絶対に！」

『必殺ブレイク：ワイドスラッグーシヨット！』

オーブはエグゼイド目掛けて光線を撃ってきた！

エグゼイド「こんな所で！」

『ゲキトツロボッツ！ガシャット！』

エグゼイド「大大大変身！」

そのまま光線で爆発しエグゼイドは倒されたと2人は思いその場から離れようとしたがゲキトツロボッツのパンチャーが飛んで来たのを跳ね返した！

『アガツチャー！ぶっ飛ばせ！突撃！ゲキトツパンチャー！ゲキトツロボッツ！』

エグゼイド「まだ終わらないぜ！」

祥平 side end

グリス「着いたわ！」

鎧武「これがキーラ……」

ビルド「でかい……」

真ん中の玉みたいなのが本体なのかな？それに皆の気迫がさつきより違う。

スナイプ異世界「師匠、これは私達で倒せるのでしょうか？」

ビルド異世界「優曇華、あの時は彼と一緒に倒したのよ？ここで来るのを信じて耐え

るのよ!」

ですよね、私は当然信じてるんだけど、それまでに耐えられるのかな?

クロノス異世界「鈴仙、もしかしてビビってるの?」

スナイプ異世界「そんな訳ありませんよ!」

その元気があればまだ大丈夫ね。来るわ!

ドライブ「なら!ドア銃!」

マツハ「霊夢行くぜ!」

2人は銃でキーラの出してくる爆弾を撃つて弾き他の皆もキーラの出してくる青く染まった零達が攻撃してくる!

ビルド異世界「それなら!」

『ライオン!コミック!アークユーレディ?』

ビルド異世界「ビルドアップ!」

違う世界のビルドはライオンコミックフオームになりどんどん敵を斬っていく!

ビルド異世界「はあ!この程度で私達を倒せると思わない事ね!」

『レディゴー!ボルテックファイニッシュ!イエー!』

そのままコピーの母体は倒し別のフルボトルを取り出した。

『ラビット!消防車!アークユーレディ?』

ビルド異世界「ビルドアップ！」

今度はラビット消防車フォームに変わり水の攻撃で相手の動きを封じる！

ビルド異世界「今よ！」

ビルド「はい！」

鎧武「はあ！」

ドリルクラッシュヤーと無双セイバーで母体のコピー達を貫く！

クロノス異世界「あの子達やるわね……なら、こちらも！」

『キメワザ……クリティカルジャツジメント！』

クロノス異世界「はあ！」

バグヴァイザアーツヴァイを銃モードで爆弾を弾きコピー達を倒して行く！

ファイズ「これで一気に行きますよ！」

『コンプリート！スタートアップ！』

ファイズはアクセルフォームになり一気に凄いスピードでコピー体達をなぎ倒して

行く！

ファイズ「襲い！」

『レディ……エクシードチャージ……』

何個のポインターで相手はロックオンされ動けなくなりそのままアクセルクリムゾ

ンスマツシユが炸裂!

フアイズ「たああ!」

『3…2…1…タイムアウト…インフォメーション!』

アクセルフォームから元に戻り相手は爆発していったが数が多過ぎて苦戦をしている。

ビルド「このままで諦めない!」

『ラビットタンクスパークリング!アークユーレディ?』

ビルド「ビルドアップ!」

私はラビットタンクスパークリングフォームになってドリルクラッシュャーと4コマ忍法超を持ってキーラに向かって行く!

ビルド「はあ!」

キーラに攻撃しようとするがいきなり現れた線はビルドを襲う!

ビルド「うぐ!今のなに!」

グリス「キーラはとんでもなく強いから気を付けなさい!」

そう言われてもどう判断すれば……

鎧武「那奈!皆さん!あの球体は何ですか!」

あれは不味い!これじゃあ間に合わない!

『レディゴー！ドラゴニックファイニッシュ！イエー！』

クローズ「アリス達に手を出すんじゃない！」

球体を1、2個を壊したのは仮面ライダークローズに変身している別の世界の祥平だった！

グリス「祥平！遅いわよ！」

クローズ「悪かったよ……それよりキーラは倒した筈だよな？なのに生きていやがった。どうしてだ？」

それは確かに思ったけど考えてなかったわね。

クロノス異世界「それだと一体……それは私から話すわ。」八雲紫、どういう事かしら？」

目玉の空間から現れたのは金髪の女性だった。キーラが何故生きてるのかを説明しようとするがキーラはまだ攻撃を止めなかった！

紫「これはやばいわね。」

このままじゃ、皆がやられちゃう。お父さん、お母さん、一体どうしたら良いの？

グリス「那奈危ないわよ！」

え？……これで私、終わっちゃうの？いつもそうだ。私は考えてばかりで動けないでいつも周りに迷惑かけたり、助けて貰ってばかりで私は悔しい……あの時だって変身出来

なくてピンチだった時にあのフルボトルが現れて私は変身出来たのは良かったけど、私は何も変わってないんだ。

クローズ「不味い!間に合わない!」

那奈がレーザーに当たる瞬間、那奈を抱き抱えて助けたのはエグゼイドだった!そしてそのままある2人がコピー体達を吹っ飛ばして来た!

2人『はぁー!』

エグゼイド「セレナ!奏!今度はやられないでくれよ!」

お父さん……お母さん……私はまた

セレナ「那奈!大丈夫!」

オーブから変身を解いて那奈を心配するセレナは必死だった。それもそうであった、セレナはキーラに操られていてももしかしたら那奈に攻撃をしたのかと思っけていてもおかしくはない。

エグゼイド「那奈、大丈夫か?」

いつの間にか私はビルドから変身を解除をしていた。

那奈「私は強くないといけない……」

エグゼイド「那奈?」

『ガチョーン!ガッシュョーン!』

祥平「強くなりたい事は解るがそれを今は「いつもそうだよ！」え？」

那奈「私は皆を守る力あるのに！それが一步足りなくて！お父さんやお母さん！皆に助けられてて！……怖いよ、置いてかれるのは怖いよ！」

那奈はそう言うが解らなくはないんだよな。俺は別にそんな事を考えた事がなかった。だけどな、もつと大事な事がある。

祥平「那奈……お前が言ってる事は間違つてはない。」

那奈「それなら！」「けど違うぞ？」じゃあなんなの？」

セレナ「祥平！来るよ！」

たく、邪魔をしやがって！なら見せてやるか！力だけじゃないって証明してやるよ！

『マイティアクションX！』

祥平「那奈、力だけが全てではないんだ。誰にもある気持ちだ。それは諦めない気持ちだ！人間には無限な可能性を秘めてるのを俺は知ってる！大変身！」

『ガシャット！ガチャーン！レベルアップ！マイティジャンプ！マイティキック！マイティ・マイティアクションX！ガシャコンブレイカー！』

エグゼイド「ノーコンティニューでクリアして見せる！はあ！」

俺はキーラに向かって走って行くがやっぱり光のレーザーが邪魔をするんだな！

エグゼイド「ならこいつだ！」

『高速化!高速化!』

エグゼイド「おらあ!」

凄いで速さでキーラにガシャコンプレイカーハンマーモードで2回当てる!

クローズ「始めてダメージを与えたのか!流石は別の世界の俺だな!負けてられるかよ!」

『ヒツパーレ!スマッシュヒット!』

ビートクローザーのレバーを一回引つ張りそのままコピー体達を倒す!

クローズ「これでもか!」

相変わらずね、だけど私はそこが好きになつたもんね……あれをやるしかないわね!

『ボトルキーン!グリスブリザード!アニューレディ?』

スクラッシュドライバーを外しビルドドライバーに変えてブリザードナックルを入れた!

グリス「……出来てるわ」

『凍結心火!グリスブリザード!ガキガキガキキーン!』

クローズ「アリス!それは大丈夫なのか!」

グリスブリザード「当たり前でしょ?私は祥平の力になりたくて成長したのよ?」

ぐっ！言い返せないが全くその通りだな……なら！

『ボトルバーン！クローズマグマ！アークユーレディ？「ドラゴンアップ！」獄熱筋肉！クローズマグマ！アチャチャチャチャチャチャアチャー！』

クローズマグマ「魂が燃える…力が溢れる…俺のマグマは迸る！」

グリズブリザード「心火を燃やして……魂を燃やす！」

2人はコピー体達をなぎ倒して行き、そのまま皆を一気に助け母体にされていた。零達も助けた。

ブレイブ「あれ？此処は？」

レーザータボ「おい！零！あいつは！」

あいつは時空間から現れた奴！祥平達が頑張ってるんだ！

ブレードソウル「俺達もやるぞ！」

母体から解放された、零達はそれぞれキーラに向かって行く！

挿入歌 (Be The Oen)

那奈「……皆は諦めてない。なのに私は……そうだ、忘れてた……私は……私は！」

高田祥平とセレナ・カデンツアヴナ・イヴの娘！高田那奈！そして仮面ライダービルドだ！

『ラビット！タンク！ベストマッチ……』

忘れていた。どんなに強敵でも立ち上がる、それが仮面ライダーだ!私は諦めない、お父さん……………ありがとう…

『アークユーレデイ?』

那奈「……………変身!」

『鋼のムーンサルト!ラビットタンク!イエー!』

那奈……………立ち上がったな…もう大丈夫だな。さあ、やれ!

ビルド「勝利の法則を見付けた!」

See you Next Game

第13話 キーラの最後！そして開いた闇の暴走！

那奈：「お前なら立ち上がれると信じてたぞ、さあ！やるか！」

ビルド「行くよ！」

私はドリルクラツシャーでキーラに攻撃を仕掛けるのけどやっぱり爆弾がある！

鎧武「はあ！」

鎧武が無双セイバーのレバーを引っ張り爆弾を壊し、ビルドの隣に来る。

ビルド「刀！」

鎧武「那奈：やろう！」

ビルド「うん！」

2人はそれぞれの武器を持ち構える。一方、ダイケイドとクロスとのぶつかりあいが終わってはなかった！

クロス「やるな！」

ダイケイドファイズ「そっちもね！」

1度、後ろに下がった2人は空を見た。

クロス「なんだよ、あれ！」

「デイクライドファイズ「私にも解る訳ないでしょ!」

あれってキーラ!祥平達はまだ戦ってるんだ。この人を絶対に話し合おうって決めたんだもん!え?ライドウオツチ?

『フォーゼ!鎧武!』

ブランクライドウオツチが未来の前に現れ、フォーゼと鎧武に変わりそれを持つ。

デイクライドファイズ「何!?!ライドウオツチが2つとも現れたっての!」

未来「……けど、これを使ったら……」「やるんだ!」え?」

クロス「お前が守りたいと思うなら!きつとウオツチも答えてくれる筈だ!」

祥平「……うん、ありがとう!」

未来「変身!」

『ライドータイム…:仮面ライダー…:ジオウ…:アーマータイム…:3!2!1!フォーゼー!』

未来は仮面ライダーフォーゼの力を宿したフォーゼライドウオツチで仮面ライダージオウフォーゼアーマーに変身完了した!

ウイズ「祝いなさい!全ライダーの力を受け継ぎ、時空を超え、過去と未来をしろしめす時の王者。その名も仮面ライダージオウフォーゼアーマー。まさにライダーの力を継承した。瞬間です。」

プレラーティ「誰に言っているワケだ？」

む？これはちよつといたいですね？だけどこれが我が魔王の継承なのでやめません。

ジオウ「行くよ！」

デイクイドファイズ「フォーゼにはこれが一番ね？」

『カメンライド…ウイザード…プリーズ…ヒーヒー…ヒーヒー…』

クロス「またか！な！なんだこれ！」

いきなり俺は鎖に縛られて動けなかった！くそ！動けねえ！

デイクイドウイザード「はあ！」

ジオウ「もう止めようよ！こんな事をしても貴女の大切な人は喜ばないよ！「うるさい！」ぐー！」

デイクイドウイザード「何が解るの！私の目の前で姿が消えたのよ！貴女達に私の気持ち解るって言うの！」

『アタックライド…ビッグ！』

巨大な手だど！これはやばいぞ！あいつも何で避けないんだ！

ジオウ「貴女の怒りと悲しみを全て受け止める！」

デイクイドウイザード「ふざけるなあー！」

ウイザードガンソードモードを持ちジオウを攻撃するが怯まずに立っている！

クロス「止めるろ!お前死ぬぞ!」それでもこの子の怒りや悲しみはほっとけない!」
「この!外れろよ!」

くそ!外れねえ!どうすれば良いんだよ!

ジオウ「う!貴女の思う事は解るよ!だけど!」黙りなさいよ!」うぐ!」
不味いわね、このままじゃ小日向未来が!

キャロル「サンジェルマン待て」

サンジェルマン「何故止める?」小日向未来を信じるんだ。祥平が任せただ。……
そうね、信じましょう。」

2人は黙ってこの戦いには手を出さないと見守る事にした。

ジオウ「う!……ま!まだ!」

こいつ……うざい!これなら!どうだ!

『ファイナルアタックライド……ウィウィウィウィザード!』

足の下に魔方阵が浮き上がりそのままストライクウィザードをジオウに当てに入ろうとしたがジオウは両手を開いてそれを受け止めた!

デイクイドウィザード「な!」

ジオウ「私は貴女と!……話し合えるって信じてる!……だから言ってみて、ね?」
なんで倒れないの?ふざけないでよ!……こんなじゃ!私!私は……ああああああ

あああああ！

クロス「……おっと、鎖が解けた……」

こいつも大切な人、嫌、愛してた奴をどうにか助けたいと思っ
てこんな風に変わつち
まったんだな……

クロス「それよりあれをどうにかしないと……」

と言いたいがこのデイケイドになっていた奴はそのままジ
オウの子に任せて俺は強
制転送された。

未来「もう大丈夫？」

???「ごめんなさいね、迷惑だったでしょ？」

そしてキーラとの戦ってる組は！

ビルド「これでも喰らえ！」

『レディゴー！ボルテックブレイク！』

ドリルクラッシュャーにゴリラフルボトルを入れてキーラに喰ら
わせるけど流石に硬
い！

ドライブ「ならこれよ！」

『ドライブ！ターイブ！デッドヒート！』

そのままデッドヒートドライブになりキーラをパンチするけどや
っぱり簡単じゃな

いわね!なら!

ドライブ「魔理沙!同時に行くわよ!」

マツハ「オツケー!行くぜ!」

2人『はぁー!』

2人のパンチするがキーラの羽がいきなり上から下に突き刺す用に攻撃してきた!

クローズズマグマ「させるか!」

『レディゴー!ボルケニックアタック!アチャー!』

俺はキーラの羽のボルケニックアタックを咬まして吹っ飛ばすがもう一本を喰らってしまった!

グリスブリザード「祥平!」

クロノス異世界「よくも!」

2人『はぁー!』

『クリティカルサクリファイイス!グレイシャルフィニッシュ!』

2人の技でキーラに攻撃してキーラは叫び攻撃が更に激しくなっていく!

エグゼイド「皆!気を付けろ!」

『鋼鉄化!』

俺はセレナ達を鋼鉄化して守るが耐えられなかった!

エグゼイド「ぐあー！」

調「祥平さん！」

セレナ「祥平！」

奏「この野郎！良くもやりやがったな！」

このままじゃ不味いなだけど……この程度で終わる俺じゃねえんだよ！

エグゼイド「皆……諦めるな！最後の最後まで諦めるな！俺は死なない！」

ビルド異世界「やっぱり違う世界でも、彼は彼なのね。優曇華まだ行けるわよね？」

スナイプ異世界「当たり前ですよ！師匠！」

それぞれの諦めない気持ちがあんどんどん1つになっていき、立ち上がっていく！

ドライブ「魔理沙！まだやれるわよね！」

マツハ「当たり前だぜ！」「デッドヒートよ！」「サンキュー！」

『シグナルバイクシフトカー！ライダーデッドヒート！』

『ファイヤー！オールエンジン！ドライブ！タイプ！トライドローン！』

2人は最終フォームになりその他の皆もパワーアップフォームや最終フォームになっっていく！

ブレードソウル「俺達の世界は絶対に守って見せる！」

レーザーターボ「どんな状況でもな！」

その思いで人間は成長するんだ!キーラ!お前はこれで終わらせてやる!

ビルド「例え、どんなに強敵でも!」

鎧武「私達は立ち上がる!それが仮面ライダーだから!」

私は1度心が折れたけど……もう迷わない!何度も壊されそうになるなら!

ビルド「私がこの手でビルドする!」

俺だつて!守る物がある限り!何度でも立ち上がってやるよ!こいつら家族は!

エグゼイド「俺が守ってみせる!!」

セレナ「私達!皆の可能性は!」

皆『無限大だ!』

そしてキーラはエネルギー弾を放つがそれを打ち緒としたのはランサーとトライ
テールがいた!

ランサー「今の内にやって!」

トライテール「早くして下さい!」

利香姉さん、榛名姉さん、ありがとう!

エグゼイド「今度は青い兄さん達か!」

オーズ「ならやるわよ?」

姉さん?

ブレードソウル「だな、久し振りの3人姉弟プレイでもやるか！」
兄さん………だな！たまにはやるか！

エグゼイド「那奈達は進め！此処は任せろ！兄さん！姉さん！ノーコンティニューで！」

3人『クリアしてやる！』

お父さん、頑張つて！そのまま私達はキーラに攻撃を始める！

バースト「これでもくらいな！」

バーストは槍でキーラに当て、イーターはそのままジャンプしキーラにパンチして更に！

『アルティメットマッチブレイク！』

ビルド異世界「はあ！」

別の世界のビルドがフルボトルバスター大検モードでキーラを上から振り下ろし斬る！

スナイプ異世界「これでなら！」

『ガチョーン！キメワザ！ガチャーン！バンバンクリティカルファイヤー！』

スナイプ異世界「全弾発射！」

何発か外れたけどキーラにダメージが入ってる！後、少し！

ビルド「これが私達!皆の力だ!ビルドアップ!」

『紅のスピーディージャンパー!ラビットラビット!ヤベーイ!ハエーイ!レディゴー!
!ラビットラビットファイニッシュ!』

鎧武「これで最後!」

『カチドキスパークキング!』

『ガツシューン!ガシャット!キメワザ!タドル!爆走クリティカルストライク!』

『スキヤニングチャージ!』

『ヒツサーツ!フルスロットル!トライドロン!』

『ヒツサツ!バーストフルスロットル!デッドヒート!』

7人『はぁー!』

そのまま7人のライダーキックがキーラに大ダメージを与えて倒したと誰もが思っていた。

エグゼイド「あれ?終わったのか?」

ブレードソウル「これで長い戦いは終わったな。」

オーズ「ん?ねえ、空にヒビが入ってない?」

ん?なんだあのヒビは?と思った次の瞬間!

クローズマグマ「なんだあれ!目玉なのか!」

グリスブリザード「分からないけど気を付けて！」

そう思っていたら出て来てしまった。キーラを倒したと思ってたが空間からキーラとは真逆な奴が現れた！

ビルド「何あれ……」

鎧武「気味が悪い……」

その姿はツタ見たいで中心に目玉があり、空も同時に暗くなっていた。

エグゼイド「これってどうなってるんだ？」

と考えてたのだがあつちには確か那奈達がいる筈だ！行こう！

ブレードソウル「おい祥平！姉さん行くぞ！」

オーズ「分かってる！」

3人はその場所に走って向かった。

那奈達の方

ビルド「これって一体……うわあ！」

鎧武「那奈！きやつ！」

2人は何かの穴に吸い込まれてしまう！

クローズマグマ「くそ！アリス達は待機してくれ！俺が行ってくる！はあ！」

グリスブリザード「分かったわ！」

祥平はそのまま2人を追い掛けて行き私達は1度此処から離れる事にした。
穴の中

ビルド「これってどうなるの?」

鎧武「分からないけど、この状況はやばい!」

だよ、本当になんのこれ?うわあ!

ビルド「痛い……」「那奈、此処は?」え?」

私達が見たのは暗い空に変な道が3つあるのを確認したけど穴から更に出て来たのは別世界のお父さんだった。

クローズマグマ「よつと!……2人とも大丈夫か?」

そう言いながら変身を解除をする。

ビルド「はい何とか」

鎧武「この世界は一体何なんでしょうか?」

2人も変身を解除する。

祥平異世界「取り敢えず、この世界を調べよう。」

私達はこの世界に巻き込まれたけど別の世界のお父さんとこの暗い世界を調べに1ヶ所目の所に行く。

See you Next Game

第14話闇の世界の母体!?:そして最悪な敵の復活!

あれから那奈達がああの空間に吸い込まれてから数時間が立っていた。

祥平「あの目玉が現れてか……………」

アリス「随分落ち着いているわね?」

アリスさん……………

祥平「まあ、正直…………不安なものもありますよ。那奈と刀があんな奴に吸い込まれて、落ち着かせてるつもりですがやっぱり心配もします。」

雄介「大丈夫だろ?お前の娘達なら乗り越えられるだろ?」

そうだけど…………アリスさん?

アリスさんは俺の手を握り締めて言ってくれた。

アリス「信じなさい、貴方の娘達と私達の世界の祥平を。」

祥平「ありがとうございます。」

そうだ、いつまでも俺がうじうじ心配しても何も変わらないだろ?信じて待つとする
が…………

???「……………」

祥平「未来が言つてた、君が仮面ライダーデイケイド?」

???「私は高田奈由(たかだなゆ)です。」

祥平「高田つて事はもしかして別の俺がいるのかな?」

奈由「あ……あ!……ああああ!」

いきなり俺に抱き付き泣き始めた。待つてどうしたんだ!那奈達も無事だと良いんだが……大丈夫だよな?

闇の世界

祥平異世界「ふう、コピー達がやっぱり邪魔をしてくと厄介だな」

この人は1人でコピー達を倒して行くけど、私達を戦わせないようにしているけど

那奈「やっぱり私達も一緒に戦わせ「駄目だ」でも!」

祥平異世界「君達は別の俺の娘だ。今、戦つて怪我でもしたら困る。」

やっぱりお父様とは別、だけど!私達は!

刀「私達はそれでも戦います!例え!どんな困難でも!」

祥平異世界「そうか……!避けろ!」

いきなりの銃弾が何発か売つて来た!

???「お前達は光の世界から来たんだな?」

祥平異世界「ならなんだ?」

腰に巻き付けたのはロストドライバーをつけた！

??? 「排除する……変身……」

『フアング！』

な！フアングの単独変身だと！なら！

祥平異世界「変身！」

『ウエイクアップバーニング！ゲット！クロースドラゴン！イエー！』

クロース「行くぞ！」

??? 「ふ！来い！」

2人のパンチがぶつかりあいが始まりそのまま蹴りもする！

クロース「くっ！強い！だけど負ける訳には行かねえ！」

??? 「遅い！」

『ショルダーフアング！』

2回フアングのレバーを叩き、肩から刃を出してそのままクロースに投げる！

クロース「ぐあ！」

右足が……くっ！まだ来るのかよ！

クロース「ぐ！この程度で！」

こいつ耐えるとは驚きだ。今度はこれだな。

『アームフアング!』

??? 「はあ!」

右手の刃で連続でクローズを追い詰める!

??? 「終わりだ「させない!」!邪魔をするな!」

那奈 「これ以上好きにはさせない! 『マックスハザードオン!ラビット!』 変身!」

『紅のスピーディージャンパー!ラビット!ラビット!ヤベー!ハエーイ!』

刀 「別の世界のお父様はやらせません! 『カチドキ!』 変身!」

『ソイヤツ!カチドキアームズ!いざ!出陣!えいえいおー!』

2人が武器で攻撃しようとしたが避けられた!

??? 「面白いがまだまだ!」

『フアングマキシマムドライブ!』

大きくジャンプし右足から刃を出してそのまま回転キックをかます!

2人 『きやー!』

その勢いで変身解除され気絶をした。そして男も変身を解除した。

??? 「また楽しみにしている」

ぐ!逃げられた!それよりこの2人を!

光の世界

祥平「大分落ち着いたかな？」

奈由「うん……」

それよりこの奈由って子はどうしてデイケイドに？それにまた別の世界の俺が関わってるのか。一体、何人いるんだよ……

未来「奈由さんはその世界の祥平どんな人だったのか教えてくれる？」

奈由「え？でも私「私も気になる」えつと……」

おいおい、待ってくれよ調までもか。

奈由「分かったけど本人がいると恥ずかしいから……」

ああ、これはどっかに行きますかな。

奈由「……祥平はこの世界とは少し性格は違うかな？」

セレナ「それはどんな感じなんですか？」

えつとこの人は確かセレナさんだっけ？何かこの世界は凄いかもね。

奈由「えつと、性格はまあ同じだけど……まあ、たまに甘えるかな」

皆『ええー！』

まあ、それは驚くよな、そんなの聞いて普通の反応なんだが大丈夫なのか？それより別世界の祥平は無事だと良いんだが……

闇の世界

祥平異世界「よし、これで大丈夫か？」

那奈「ありがとうございます。」

刀「この恩は必ず」

私達は謎の仮面ライダーにやられて、別の世界のお父さんに治療をしてもらい何とか動けるけどこれからどうしよう。

祥平異世界「此処からは俺、1人でやっぱり何とかするから2人は「駄目!」だが……あーもう!分かったよ……好きにしな、だけど今は休め」

て、言ってたら母体だけど、こいつって鎧武だけオレンジの色が青色?てかコピー鎧武か?

祥平異世界「ちっ!変身!」

『ゲットクローズドラゴン!イアー!ビートクローザー!』

クローズ「はあ!」

俺はビートクローザーで鎧武の母体を攻撃し何とか倒せそうだがやっぱり強いな!

クローズ「だったら!」

ビルドドライバーをスクラッシュドライバーに取り替える!

『ドラゴンゼリー!潰れる!流れる!溢れ出る!ドラゴンインクローズチャージ!ぶらあー!』

クローズチャージ「力がみなぎる！はあ！」

『ヒツパーレ！スマツシユヒツト！』

嘘だろ！こんなに硬いのかよ！なら！

『オレンジオーレ！』

そのまま無双セイバーと大橙丸で斬ってくるが俺は耐える！

クローズチャージ「ぐ！負けるかよ！」

『スクラップブレイク！』

そのまま鎧武を倒したがまだ来るのかよ！な！あれって！

光の世界

祥平「あれって！」

セレナ「ありえない！」

アリス「完全に倒した筈なのに！」

俺達は信じられなかった、その正体は星の夢！

See you Next Game

第15話止まらない崩壊!?敵の総攻撃!

俺達はキーラが現れた場所に星の夢が現れた事に驚きその場所に向かっていった!

祥平「何で星の夢が：急がないと!」

俺は急いで夢の星の所に走って向かう!

セレナ「ついた……」

零「まさか、復活なんてするとはな」

雄介「やるぞ!皆!」

皆『変身!』

それぞれ仮面ライダーになり星の夢に向かって行くがまだ何かが現れた!

オーブ「嘘!あれって!」

切歌「カイザーGも復活デスか!」

調「流星にやばい」

カイザーG「久しいな、貴様達よ、変身!」

カイザーGは仮面ライダーバグゼイドになりやがった!これは流星にやばいな。

バグゼイド「覚悟は出来てるか?」

オーブ「負けない！」

星の夢とカイザーGを同時に相手するなんてどうしたらいいの？

ジオウ「それならカイザーGは任せて！」

『鎧武……アーマータイム……ソイヤツ！ガイーームー！』

ウィズ「祝いなさい！全ライダーの力を受け継ぎ、時空を超え、過去と未来をしろしめす時の王者。その名も仮面ライダージオウ鎧武アーマー。まさにライダーの力を継承した。瞬間です。」

また変な所から現れたなあー、けどやろう！

ジオウ「此処からは私のステージだよ！「未来！何それ！」響……うん、ちよつとね。」

そう言えば響は知らないもんね、それは仕方ないかな？

響「未来のそれってもしかしてジオウなの？」

ジオウ「うん、けど私は悪い魔王になるつもりはないよ？響や皆の陽だまり、だけど、その陽だまりを壊されるのが嫌なの。だから守る為にこの力を使ってる。」

そうなんだ、未来がそんな風に考えてるなら、私はその助けをしないとね！

響「未来！行くよ！」

響は構えて、ジオウの隣に立つ。

ジオウ「うん！」

2人はバグゼイドに向くが流石、かつての敵だった為、威圧感がある!

祥平「はあ!」

バグゼイドにパンチをしたのは祥平だった!

バグゼイド「ぐ! 貴様は!」

祥平「久し振りだなカイザーG、お前どうやって生き返った?」

その疑問を質問する。

バグゼイド「教えるとも思ったか?」

だよな、ならやるしかないな! 変身!

『レベルアップ! マイティアクションX!』

エグゼイド「ノーコンティニューでクリアするぜ! 未来! 響! 同時に行くぞ! 『ガ

シャコンブレイカー!』はあ!」

俺はガシャコンブレイカーを持って2人と同時に走って行く!

響「はい! でや!」

ジオウ「分かった! はあ!」

3人は同時にバグゼイドに攻撃しダメージを与えたと思っていたら

エグゼイド「ぐあ!」

ジオウ「きや!」

響「うぐ！」

3人に謎のダメージが入っていた！

ブレードソウル「くそ！星の夢がいるからバグゼイドの攻略が出来ねえ！ぐあ！」

レーザーターボ「これはやばいぞ！ぐ！」

2人は星の夢の隕石攻撃でダメージを喰らう！

ランサー「零！」

クリス「貴利斗！」

このままじゃ皆が……お願い、私達に力を！皆を助ける力を！お願い！

エグゼイド「これなら！」

ガシャコンブレイカーソードモードからハンマーモードに変えてバグゼイドに攻撃

するがやはり弾かれた！

エグゼイド「ぐ！」

そのままパンチで吹っ飛ばされて倒れる。

バグゼイド「これでおしまいだ！」

『ガツシューーン！ガシャット！キメワザ！』

まだ……だ！まだ！終わってねえ！何がなんでも諦めちゃいけないんだ！だから！

エグゼイド「人類の運命は俺達が変わって見せる！」

バグゼイド「立ち上がった所で貴様達では倒せないぞ!くたばれ!」

『カイザークリティカルデリート!』

赤黒いノイズの玉がエグゼイド目掛けて撃つ!

エグゼイド「俺は負けない!愛と平和の為に立ち上がる!」

『ガシャコンキースラッシュャー!』

エグゼイドはそのままガシャコンキースラッシュャーを立てに振り下ろして、カイザークリティカルデリートを弾き落としそのまま走って行く!

エグゼイド「響!未来!同時に行くぞ!」

ジオウ「うん!」

『ビルド!アーマータイム!ベストマッチ!ビルド!』

響「はい!イグナイトモジュール抜剣!」

2人はイグナイトとビルドアーマーになりそのままバグゼイドに向かって行く!

ジオウ「はあ!」

ドリルでバグゼイドに貫くように攻撃する。

バグゼイド「ぐ!」から空きです!」しまった!」

その瞬間、響の拳がバグゼイドに当てる!

響「でやあああああ!」

右手のガングニールのパンチャーの形を変えてバグゼイドの腹にぶん殴り吹っ飛ばす！

バグゼイド「ぐああああ！」

チャンスだ！このまま！

エグゼイド「これで！」

2人『終わりにする！「します！」』

『ガツシューーン！ガシャット！キメワザ！』

『フィニッシュタイム！ビルド！』

3人は体勢を取り大きくジャンプをする！

『マイティクリティカルストライク！』

『ボルテックタイムブ레이크！』

響「どおりやああああ！」

エグゼイドはキックでビルドは方程式に乗ってそのまま貫き、響はガングニールのパンチャーをロケット形状にして右足で蹴りを入れる用に決める！

バグゼイド「ぐ！流石だな、だが！これで終わったと思うな……よ！ぐああああ！」

『Game Clear！』

響「どういふ事なんだろう。」

エグゼイド「分からない、てか、星の夢を倒しに行くぞ!」

俺達はそのまま兄さん達の方に向かう。だがこれで大丈夫なのか? 那奈、刀、無事でいてくれよ!

闇の世界

祥平異世界「まだ怪我が治ってないから無理に行く訳には行かないし、それにさっきのライダーはフアングの単独変身をするとは一体なんなんだ?」

あいつはかなり強いな、だがこの世界のボス的な奴を倒さないと多分出れないかもな。

祥平異世界「!、この揺れはなんだ!」

地面から現れたのは目玉の化物だった!

那奈「何あれ……」

刀「もしかしてあれが……」

俺達は絶望しそうになるがやらなきゃいけないんだ!

祥平異世界「2人とも……やるぞ!」

2人『はい!』

『オレンジ!』

『ラビット! タンク! ベストマッチ!』

『ウエイクアップ！クローズドラゴン！』

3人『変身！』

『オレンジアームズ！花道・オンステージ！』

『鋼のムーンサルト！ラビットタンク！イエー！』

『ウエイクアップバーニング！ゲット！クローズドラゴン！イエーアー！』

俺達はそれぞれの武器を持ち、この世界のラスボスの奴の所に向かう！こいつを倒せば……全て終わる筈！

See you Next Game

第16話VSダース!そして最後の決戦!

闇の世界

ゆっくり空から現れる目玉の化物は気味が悪かった。だがこいつを倒せばきつと!

鎧武「来ます!」

いきなり回りに丸い球体が現れる!

クローズ「あれはキーラと同じ物だ!避ける!」

俺達はジャンプをするが今度は避けた空中の位置に謎の空間の裂け目に入り遅く
なった。

ビルド「遅くなってる!これじゃあ!」

裂け目のせいで自由に動けない!どうすれば!

クローズ「くそ!」

駄目だと思ったがいきなり裂け目が消えた!

鎧武「いきなり消えた?何故?」

疑問を思うが今は言ってられない!

クローズ「上から来るぞ!」

そいつ自信の一部が此方の上から攻撃をしてくるがそれを上手く避ける！これじゃあ、攻撃が出来ない！

クローズ「だつたら！」

俺はスクラッシュドライバーに変えてスクラッシュゼリーを取り出す！

『ドラゴンゼリー！潰れる！流れる！溢れ出る！ドラゴンインククローズチャージ！ブラアア！』

クローズチャージになり、ビートクローザーとツインブレイカービームモードを持つ！

クローズチャージ「今の俺は負ける訳にはいかねえ！はあ！」

ジャンプして目玉の化物に近付き攻撃を仕掛ける！

ビルド「ダメージは入ってる！それなら！」

『マックスハザードオン！ラビット！』

私はハザードトリガーとラビットタンクフルフルボトルを取り出して直ぐに使った！

ビルド「ビルドアップ！」

『紅のスピーディージャンパー！ラビットラビット！ヤベー！ハエーイ！』

ラビットラビットフォームになり、フルボトルバスター大剣モードを持って私も目玉

の化物にジャンプしながら攻撃をする!

ビルド「けど!厄介過ぎる!く!」

爆発に当たって少し飛ぶけどまだ大丈夫!

鎧武「く!それなら!」

『ミックス!オレンジアームズ!花道・オンステージ!ジンバーレモン!ハハア!』

ソニックアローを持ち撃つが流石に簡単にはいきませんよね!もう!

『ロックオン!レモンエナジー!』

レモンエナジーロックシードを取り外しソニックアローに着けて撃つが少しダメー

ジが入った!

クローズチャージ「それなら!」

スクラップシュドライバーのレバー押してジャンプをする!

『スクラップブレイク!』

クローズチャージ「おらあああ!」

そのままライダーキックを喰らわせるが弾かれる!

ビルド「はあ!」

『フルフルマッチデース!フルフルマッチブレイク!』

フルフルボトルをフルボトルバスターに入れて目玉にダメージがようやく入ったが

祥平に近付いて無事か確める。

ビルド「大丈夫ですか！」

クローズチャージ「何とかな、それより今度は3人同時に技を当てるぞ！」

やっぱりお父さんと同じだ。諦めない気持ちで誰かの為に戦う、そんなお父さんが私は好きなんだね。

鎧武「はい！」

『カチドキアームズ！いざ！出陣！えいえいおー！』

アームズチェンジし火縄橙大DJ銃を持ってカチドキロックシードを着ける！

『ロックオン！悪霊退散！』

『シングル！ツイン！ツインフィンツーシュ！』

『ラビット！タカ！ハリネズミ！オクトパス！アルティメットマッチデース！アルティ

メットマッチブレイク！』

3人『はあああ！』

3人の技は目玉の化物に当たり先程よりダメージがありふらふら状態になっていた！

クローズチャージ「止めだ！」

『スクラップブレイク！』

大きくジャンプしライダーキックをかまし、何とか倒した!

ビルド「これでこの世界から出れるの?」

と、私は思っていたのだがさっきの化物は上に飛んでいった! 私達もそれを追い掛ける行く!

外の世界

エグゼイド「ぐ!」

星の夢が隕石攻撃でダメージが入り後ろに吹っ飛ばされる!

調「祥平!」

『レディゴー! ドラゴニックフィンニッシュ!』

仮面ライダーギアの調はドラゴニックフィンニッシュで隕石を弾くが数が多すぎた。

オーブ「調さん! 祥平!」

このままじゃ皆が終わる! どうすれば!

誰もが思ったその時!

『ブラックホールフィンニッシュ! チャーオ!』

隕石がブラックホールに吸い込まれて消えた? 後ろを振り向くとそこには仮面ライダーエボルがいた!

エボル「よお? 大丈夫か?」

俺達は警戒する！

エグゼイド「お前！なんで！」

エボル「それよりも星の夢は倒したぜ？」

後ろを振り向くとブラックホールに吸い込まれて消えてるよ！次は俺達か？

エボル「おっと、待てよ。この世界の危機に助けてやるって言ってるんだよ？」

エボルトが助ける？そんなの冗談にしか聞こえないんだが……

ブル「そんなの信じてでも思うのか！」

翼が剣を向けてエボルトに言う。

エボル「そうだろうな、だがあれを見ろ」

指を差す方に振り向いた瞬間、目玉の化物が出てきた！なんだあれ！

エボル「あいつはダーズ。闇の世界の奴だ。そしてあれもだ！」

更になから来ていたのはキーラだった！倒した筈のキーラが生きていたのかよ！

エグゼイド「これはやばそうだな……」「だとしても！」響？」

こっちに歩いて来るが皆も集まる。

響「私達は色んな経験をした筈です！こんな所で諦めちや駄目ですよ！」

その一言で皆は頷く……

グリズブリザード「諦めないわよ、もう2度と……あんな思いはしない！」

アリスさん……おし!

エグゼイド「皆!あの2体を倒せば全て終わる!そしてこの世界に平和を!」
皆『おー!ー!デース!』

それぞれの武器を持ち構える!

エグゼイド「行くぞおおお!」

俺の合図でキーラとダースに向かって行き攻撃を始めるがまだ星の夢が残ってるのか!

『スクラップブレイク!』

『カチドキスパークング!』

『ラビットラビット!フィニッシュ!』

3人のライダーキックが星の夢を貫き爆発した!那奈と刀そして別世界の俺!

クローズチャージ「悪い!時間がかかった!」

そのままこつちに来るがキーラの攻撃が来ていた!

エグゼイド「危ない!」

俺は言うが那奈が武器で防ぎ、弾き返した!

ビルド「流石に危なかったかもね。」

それはこつちの台詞だ!と心の中でそう突っ込むが今はやはり心配もしてる。

エグゼイド「那奈、大丈夫だったか？」

ビルド「高田那奈、ただいま帰還しました。」

鎧武「高田刀もです。」

そうか、娘達が無事で良かったよ。って感動してる場合じゃないな！

ブル「これではきりがない……む？これは？」

ブルの姿から元のシンフォギアに戻るが少し何か変わってる？てかもしかして調と同じ現象か？

翼「これは月読と同じ仮面ライダーギアか？「いや違う」え？ではこれはなんだ？」

別世界の俺が知ってるらしい？じゃあ何なんだ？

クローズチャージ「そいつはウルトラマンの力だ。この世界で何故、仮面ライダーとして変身出来てるのか聞きたいがそれはまたとして、今のそれはウルトラマンギアだ。」
ウルトラマンギア……ウルトラマン……あ！ゼロさんも確かウルトラマンだったの忘れてた！

マリア「それって私もそのウルトラマンギアなのかしら、これ？」

マリアさんのガングニールは黒い所が赤に変わっていたけど頭の所にはロツソのパーツが付いてるけど手足も似た感じだな。てか翼も頭にブルのヘッドパーツ付いてるし手足にも……なんかすげえな「祥平？」ん？セレナ？

セレナ「私も変わってるんだけど？」

え?セレナのアガートラムまでもか!てか何でこんな急に皆のギアが変わるんだよ!うわ!来る!

クローズチャージ「これは心強いな!今の俺達は負ける気がしない!行くぜ!

俺はツインブレイカービームモードにして射ち続ける!

ブレードソウル「貴利斗!同時にだ!

レーザータボ「あいよ!

2人はジャンプして同時に武器で攻撃をするが流石に強いが互いに攻撃をしているのか?あいつら?

エグゼイド「なら!こいつだ!

『ゲキトツロボッツ!ガシャット!キメワザ!』

ガシャコンブレイカーハンマーモードにしてゲキトツロボッツガシャットを入れてジャンプをする!

『ゲキトツクリティカルフィニッシュ!』

エグゼイド「はああああ!」

俺はキーラにぶちこむがやはりそんなに聞いてなかった!

エグゼイド「ぐああああ!」

光の球体がお父さんを墜落させ倒れる。

ビルド「お父さん！」

いこうとしたけどダースもいて助けるのが困難だった。だが誰も諦めてはいなかった！

レーザーターボ「悪乗りした事を後悔しろよ！」

ブレードソウル「例え、俺達が倒れようとも！何度だつて立ち向かう！」

響「私達は諦めない！」

翼「色んな困難もあつたが！」

クリス「それでもあたしらは全力で救う！何度だつてな！」

切歌「私達は1人じゃないデス！」

調「誰かを守りたい気持ちがある限り！」

マリア「私達は倒れない！」

ジオウ「私達はずも！」

セレナ「愛と平和の為に戦います！」

それぞれの思いで皆が強く光り始めた！

響「うおおおおお！シンフォギアアアアアアアアアア！」

それぞれパワーアップフォームになって、セレナと奏以外のギアは変わっていた！

クローズチャージ「すげえな、この世界の俺達は……へっ!負けてられるかよ!アリス!皆!やるぞ!」

グリスブリザード「分かってるわよ!」

それぞれ武器を構えて幻想郷組はダーズに向かって行く!

エグゼイド「ま!だ!終わらせない!」

ガシヤコンブレイカーを使って何とか立ち上がる。

クローズチャージ「おい!俺!」

こっちに走って来たのはクローズチャージに変身した俺だった。

エグゼイド「どうしたの?」

クローズチャージ「このままじゃ、全員やられてしまう、だから一撃デカイのでキー

ラとダーズにダメージ与えないか?」

一撃デカイのか……それもありか……皆を救う為だ。やろう!

エグゼイド「分かった」

同時に頷きキーラとダーズに向き直し技を決める体勢に入りジャンプをする!

『スクラップブレイク!』

『ガシヤット!キメワザ!マイテイクリティカルストライク!』

2人『はああああ!』

！、祥平！何をしてんだ！……まさか！相討ち狙いとか考えてないよな！

セレナ「祥平！「来るなあああ！」でも！」

エグゼイド「俺達が大きいダメージを与える！そしたら次の一撃を当てろ！」

クローズチャージ「チャンスはこの1度だけだ！頼むぞ！」

2人のキツクの威力がどんどん上がって行きそのまま貫く！

翼「貫いた！」

その一瞬だった！祥平が叫ぶ！

エグゼイド「今だああああ！」

皆『ああ！』

『ガシャット！キメワザ！爆走！クリティカルストライク！』

『ガシャット！キメワザ！黒の剣士！クリティカルストライク！』

『レディゴー！ラビットラビット！フィンニッシュ！』

『ソイヤツ！カチドキオーレ！』

『フィンニッシュタイム！タイムブ레이크！』

『ガシャット！キメワザ！タドル！クリティカルフィンニッシュ！』

俺の合図で皆もそれぞれ必殺技をキーラにぶちこむ！響達も新たなギアの力で続い

て貫く！

クローズチャージ「アリス達も今だあああ!」

グリスブリザード「ええ!」

『レディゴー!グレイシャルフィニッシュ!ガキガキガキーン!』

『キメワザ!クリティカルジャツジメント!』

『ガシャット!キメワザ!バンバンクリティカルフィニッシュ!』

『レディゴー!ボルテックフィニッシュ!イエー!』

幻想郷組の人らも必殺技をダーズにぶちこみ、キーラとダーズはそのまま消滅していった。

エグゼイド「遂にキーラを」

クローズチャージ「ダーズを」

2人『倒した!』

俺達は喜び、変身が解けて倒れる。皆も変身を解除していた。

アリス「ほら、2人とも大丈夫?」

祥平異世界「何とかな、それに直ぐに戻らないとな」

異世界の俺は立ち上がり、俺も立ち上がった。寂しいがお別れなんだな。

祥平異世界「そんな顔をすんな、世界は違えとも俺達はもう仲間だ!仲間がピンチな時は助けに行くからな!」

背中を強く叩くがちよつと痛い……けど、元気になるな！

祥平「俺もだよ。皆さん……ありがとうございます！」

そして互いに握手をし、幻想郷の人達は帰って行くのだがエボルトも、もういなくなつた。敵だったあいつが少しだけ助けてくれたんだ、ありがとな……俺もけじめ付けるか、もう俺がいなくても那奈達ならきつと乗り越える筈だしな。

セレナ「どうしたの祥平？」

俺は振り向いてセレナ達に言わなきやな。

祥平「これで俺も安心出来たよ、俺は旅に出るよ。」

俺は旅に行く事を伝えるがマリアが聞いて来た。

マリア「何か理由があるんでしょ？」

マリアがゆつくりこつちに来て頭を撫でて来る。てか止めてくれ。

祥平「ああ、色んな物を見てみたくなつたんだ。だから旅に暫く出るけど「行つてき

て」セレナ……」

更に後ろからセレナが歩いて来る。

セレナ「私もいつまでも甘えなくても思わなくて大丈夫だよ。例え離れていても私達は繋がってる。」

そうか、なら行くか。

那奈「お父さん……大丈夫だ。」え?」

那奈はまだ心配してるが俺も同じだが……大丈夫だ。こいつは俺の自慢の娘だ。どんな奴にも負けないと思う。

祥平「那奈、このボトルをお前に託すよ……じゃあな」

お父さんは時空間の壁に入っていた……このフルボトルは何かは知らないけど、お父さんありがとう。

崖の上

???「元の世界に戻ってしまったが、好都合かもしれない。高田那奈は潰すべき存在……」

END

第17話 那奈を狙う者

特訓ルーム

ビルド「はあ！」

ドリルクラツシャーで特訓用のスマツシユを斬つて攻撃するけど、こんなんじや……
ううん！まだまだ！

ユウ「那奈姉は相変わらず特訓なんだなあー」

父さんが旅に出て1週間が過ぎた。那奈姉はいつもあんな風に特訓をしている。

ビルド「この組み合わせで！」

『タカ！コミック！アークユーレディ？』

ビルド「ビルドアップ！」

タカコミックフオームに4コマ忍法刀を持って特訓用のスマツシユに攻撃をしよう
としたが警報がなった！

ビルド「え？警報！」

私は特訓を中止しようとしたげ特訓用のスマツシユが暴れた！どうして！

ビルド「どうして！く！」

『分身の術!』

『レディゴー!ボルテックファイニッシュ!』

4コマ忍法刀で分身を出して特訓用のスマッシュは壊してしまったけど、何でいきなり暴れたの?

??? 「流石はビルドだなあ!」

何この男は?腰にはエボルドライバーを付けてる!……まさかこいつが特訓用スマッシュを?

ユウ 「那奈姉に何か用か?」

男はあのドライバーに使うボトルを取り出した!

『星の夢!ライダーシステム!エボリューション!アーユーレディ?』

??? 「変……身……」

『星の夢!星の夢!エボルギンガ!ふわっ!ははは!』

姿は仮面ライダーエボルコブラフォームだが色が全身白と金色になっていた!

??? 「俺は仮面ライダーエボルギンガだ。星の夢の成分をあのキーラとダースが召喚してお前らが倒した隙に成分をボトルに吸収したんだよ!」

こいつは凄い厄介になりそう……

ビルド 「それだったら此処で倒す!」

エボルギンガ「無駄だぜ？お前にはジーニアスがいないからな！」

ジーニアス？そんなボトルは聞いた事ないけど、こいつは何が目的か分からない。

『ラビット！マックスハザードオン！』

ビルド「ビルドアップ！」

『ラビット！ラビット！ヤベー！ハエー！』

私はフルボトルバスターを手に持ち構える。

ユウ「悪いが俺も行く！変身！」

ユウもフォーゼになって構える。

エボルギンガ「行くぞ？」

え？消えた！何処に……「ぐあ！」！、ユウ！

ビルド「いつの間に！」

ユウの方へ移動してるなんて！

エボルギンガ「俺は仮面ライダービルド。高田祥平の娘、高田那奈！お前を抹殺する

からな！」

な！ガシャコンブレイカー！それってお父さんの！く！

エボルギンガ「驚いてる用だが星の夢の成分を使ってお前らの戦闘データは全てイン

プットしてるからな。武器も自由に使えるって訳だ！」

く！ラビットラビットフォームじゃ防御は任せられないって訳か！なら！

エボルギンガ「ほお？別のフォームになるのか？だが無駄だぞ？」

それはどうか？私はフルフルラビットタンクボトルはこっちは使っていないから分からないと思うよ！

『タンク！ガタガタゴツトズツタズタン！ガタガタゴツトズツタズタン！アーユーレディ？』

エボルギンガ「何！タンクだと！ぐ！」

戦車達が現れエボルギンガを攻撃をする！

ビルド「ビルドアップ！」

『鋼鉄のブルーウオーリアー！タンクタンク！ヤベー！ツエー！』

ユウ「那奈姉のあれは始めて見るフォームだ……」

ビルド「エボルギンガ！私は負けない！お父さんが守って来たこの世界を今度は私が守って見せる！はあ！」

腕の戦車のタイヤを回転させ、エボルギンガに攻撃をする！

エボルギンガ「く！そんな程度で俺がやられると思うな！」

！、隕石！、だったら！

『タンク！ガトリング！ジャストマッチデース！』

私はフルボトルバスターをバスターモードにして構える。

『ジャストマッチブレイク!』

ビルド「はあああ!」

な!隕石を一瞬だと!

翼「さつきから何の音だと思つたら敵がいたのか!」

ちつ!シンフォギア装者がいるんじや分が悪すぎる!撤退だ!

調「逃げた?」

セレナ「那奈!大丈夫!」

お母さんがこつちに來るけど私は変身を解除して倒れた。

ユウ「那奈姉!おい!」

倒れた那奈はすぐにメディカルルームに運ばれるがタンクタンクフォームの力が強すぎた為、疲れて気絶をしたただけだったとサンジェルマンさんが言っていた。

メディカルルーム

セレナ「あの敵、エボルトに似ていたけど何者なんですか?」

サンジェルマン「私にも分からないわ、それに今は祥平には頼れないからね。」

そう、祥平はあれから1週間過ぎてるし、旅の邪魔なんか出来ない。

未来「あの敵が那奈ちゃんを狙いなら流石に祥平も「いやそれは出来ない」奏さん?」

後ろから奏さんがいきなりそんな事を言うってどういう訳なんだろう？

奏「祥平に心配ばかりはかけられないだろ？あたしはいつもそうやって甘えてたんだよ。」

確かにそうだけど……でも！

調「私も奏さんと同じ意見だと思う。それに私達は全員で戦えばまだ何とかかなると思う。」

うん、調ちゃんの言う通りだ。私達はもう戦えるんだ！守る為の力を！、また警報！

???「……これ……か……た……む……！」

モニターの通信は砂嵐で何も見えないけどかすかに声がするけどなんの声？

那奈「これって何？」

モニターには砂嵐が酷くて映ってはなかったが声は確かにしていた。

藤堯「声だけは何とか拾えそうだ。」

弦十朗「それなら急いでくれ！「司令！」どうした！」

あおいさんが慌てていたけどどうしたんだろう？

あおい「この中に侵入されてます！」

弦十朗「なんだと！」

ここに向かってるのは一体なんだ！それにあいつがない以上は俺達がやらなけ

れば！

那奈「私……行きます！」

刀「那奈！」

司令室を飛び出した那奈は侵入者の所に向かっていた！

???「何処だ？仮面ライダービルドよ！」

何あれ？仮面ライダーにも見えるけど怪人なの？

那奈「私がビルドだけど！何が目的なの！」

???「目的はビルドの抹殺なんだよな、だから丁度良いな！」

え！針があんなに！嘘でしょ！

『マックスハザードオン！ラビット！』

那奈「変身！」

『紅のスピーディージャンパー！ラビットラビット！ヤベー！ハエー！』

ラビットラビットフォームになり敵に蹴りを入れたと思っただけ、片手で止めていた！

???「この程度か！」

そのまま私は吹っ飛ばされるけどフルボトルバスターを持ちバスターモードで攻撃する！

ビルド「はあ！」

連続で発射したけど打ち落とされてこっちに走って来た！

??? 「遅いんだよ！」

蹴りとパンチを連続でくらい、変身解除まで追い込まれる。

??? 「なんだもう終わりか？折角、変身して止めを決めようとしたのによ！でもそれでも良いかもな？」

男はそう言つてドライバーを出して腰に着けた！

那奈「あれって何？」

??? 「お前は何も知らないで終わるが教えてやるよ。俺の名は高田セイヤ。てめえらを潰しに来た者だ！」

え？高田つて！私達と同じ名字？

セイヤ「変身……」

あの姿は何？見た事ないライダー？

??? 「俺は……笑顔を守る為に戦う者だったが今はお前らを倒す！」

高田と名乗る青年は何者なのか？そしてクワガタの赤い戦士は何なのか？

See you Next Game

第18話古代の仮面ライダーその名はクワガそして狙われる破壊兵器

クワガタの仮面ライダーになったこいつはいきなり構えていた！

??? 「行くぞ！高田祥平の娘！」

いきなり意味が分からないし！

那奈 「ちよちよ！」

避けながらドライバーを付ける！

『ラビット！タンク！ベストマッチ！アークユーレイ？！』

那奈 「変身！」

私はビルドになり、相手のパンチやキックを避ける！

ビルド 「本当なんなの！もう！」

私は避けるけど赤いクワガタの仮面ライダーの攻撃の猛攻は止まらない！

??? 「超変」

『ギリギリスラッシュ！』

赤いクワガタが何か言おうとしたけどジオウになってる未来さんがいつの間にか攻

撃をしていた！

ジオウ「那奈ちゃん！大丈夫！」

ビルド「何とか大丈夫ですけど、いきなり攻撃をして来ました」

大切な家族に何でこんな事をするの……

???「流石に分が悪い……」

そう言つて消えた……これはウオツチ？

???

セイヤ「あんな奴ら相手か……」

俺はそう思つて変身を解除していたら後ろから足音が聞こえた。

???「まあ、あいつらは化物のあたしらを受け入れた奴らだけ怒るなよ？」

そこに現れたのは羽をはやした女性ミラアルクがセイヤの近くに近付いて頭を撫でる。

セイヤ「もう子供じゃないんだ、母さん」

ミラアルク「それにあの男だけは否定しないでくれ、ヴァネッサとエルザそしてあたしと言う化物を受け入れてくれたんだ。」

確かにそうだが父さんが俺を見捨てたことは事実なのは変わらないだろ。

ミラアルク「祥平はセイヤを捨てた訳じゃないぜ」

その言葉にセイヤは反応をする

セイヤ「は？何の話しだ？」

俺は疑問を聞くが更に足音が聞こえた

祥平「久し振りだなミラルク、そして……………セイヤ」

そこにいたのは俺を見捨てた親父であつた！

セイヤ「何しに来た？」

セイヤは身構えるが俺はゆっくりと腰を下ろして座る……

祥平「セイヤ……すまない！」

この親父は何故なのか土下座をした、何でだ？

セイヤ「何故謝る？」

やっぱり怒ってるよな、でも逃げる訳には行かない……

祥平「俺はお前を捨てた訳じゃない、あれにはちちゃんとした理由があるんだ」

ちちゃんとした理由？

セイヤ「なら教えろ」

祥平「ああ、今の俺は人間だが昔は敵にも狙われていた破壊兵器でもあつたんだ。敵はそれを狙つて娘や息子達を危険がないよう、ミラルク達と逃げて貰つたんだ。もしセイヤが仮面ライダーの力を手に入れてたら迎えに行くつて約束だつたんだ……本当

にすまない」

それじゃあ、親父は俺達を守る為に……

セイヤ「だがすぐには無理だ、俺はそんな簡単には受け入れられん」

だよな……でも

祥平「自分のペースでゆっくりでも良い、自分が本当に辛くなったり困った時はいつでも来い」

俺はセイヤにそう言いミラアルクの方を向く

祥平「ミラアルクもな」

ミラアルク「分かっているぜ」

なら俺は行くかな、まだまだやる事あるしな

祥平「んじや、俺はまだ旅の途中だから……!、ぐ!」

いきなり親父はフードを被った奴に飛ばされた!何者だこいつ!

ミラアルク「祥平!大丈夫か!」

こいつの気配を気付かないとは平和ボケしちまったのかもな……

祥平「な、何とか!」

俺が気付かないとはめんどくさい奴が現れたな……

???「破壊兵器って人間の高田祥平はお前か?」

俺の方に指をさす

祥平「だったら何だ？俺はもう人間だ！もう破壊兵器はない！」

???「いいや？残念ながらお前は人間にはなれてないのだよ！」

な！あれは！

『ガチャーン！』

フードからガシヤットを取り出した、つてあれつて！

『デンジャラスネフィリム！ガシヤット！バグルアップ！デンジャー！デンジャー！デスザクライシス！デンジャラス・ネフィリム！』

その姿はゲンムデンジャラスゾンビの姿だが白い所がネフィリム第1形態の色になっている

祥平「ミラアルク！セイヤを連れて逃げろ！こいつは俺が止める！」

本気でやらないとやばい！それにあのガシヤットは前に竜也との戦いでもう無く
なつたと思つたが……聞くしかなさそうだな

『マキシマムマイティX！ハイパームテキ！』

祥平「ハイパー大変身……」

『マキシマムガシヤット！ガチャーン！レベルマツークス！ドッキンク！パッカーン！ムーティーキー！ハイパームテキ！エグゼーイド！』

俺はムテキゲーマーになり右手と左手にはガシャコンキースラッシュヤーとガシャコンブレイカーソードモードを両手に持ち構える！

エグゼイド「行くぜ！」

俺はキースラッシュヤーとガシャコンブレイカーで攻撃をしたのだが

???「俺に攻撃は効かねえよ！」

く！ダメージが入らないとなるとめんどいな、あの時よりやばいだろう

エグゼイド「攻略法を見つけろしかなさそうだな」

ミラアルクとセイヤは何とか逃げてくれれば良いんだが……！、ぐ！

???「おいおい？考え事なら意味ないぜ？」

不気味な言い方で言うけど意味がない？

エグゼイド「どういう事だ？」

この男の言ってる事が分からねえ……

???「この世界を壊す程の破壊兵器を起動させるんだよ！」

何を言ってるんだ？破壊兵器を起動して……出来ない筈だ！あの時に俺はウルトラマンヒカリに命を助けられたと同時に人間になった筈だ！

エグゼイド「俺はもう人間なんだよ！」

俺は構えて答える！

???「そうだろうな？高田祥平よ、お前は本当に……人間になれたと思ってるのか？」
本当にこいつは何者なんだ……

エグゼイド「お前何を知ってる！」

俺は攻撃を弾き飛ばしたがこいつ……強い

???「お前の中にはまだ破壊兵器があるのは知ってるんだよ！例えば人間になれたとしても……な！そんなんで人間になれたとでも思ったか！」

俺が人間になれてない事は……！

エグゼイド「そんなの嘘に決まってる！」

俺はキースラツシヤーとガシヤコンブレイカーで防ぎながら話す！

???「確かにな？でもな……お前は失敗したのさ！高田ナガレや色んな敵に破壊兵器を起動に無理矢理されてた所に実は調べたのさ、完璧な破壊兵器としてお前を生まれ変わらせてやるよ！」

こいつは何を言っ……！、何だこいつらは！

『ガツシューーン！』

男達数人に抑えられてしまった俺はガシヤットを抜かれて強制解除された！

???「お前に自由はないさ……もう兵器として生まれ変わるんだからな♪」

この時の俺は思った。もうセレナ達の所に戻れるか分からない、でも……那奈、刀

……皆、後は任せた。例え俺がもう元に戻れなくても世界を守れ！

（???）
（???）

??? 「今の感じ……………」

そこで首から下には茶色のマントを着けている黒髪ロングヘアの女性がラーメンを食べるのを止めた。

??? 「どうしたの姉さん？」

隣にいる女性も姉と同じマントを着けていて黒髪ポニーテールをした女性は姉に聞く。

??? 「……………兄さんの声が聞こえたの」

兄さん?……………ええ!

??? 「祥平兄さんに何かあったの!」

分らない、でも行かないと駄目な気がする!

??? 「行くわよ!ロア!」

姉さんはお金を払って直ぐに出る事にした!

ロア「待つてよ!姉さん!」

私もお金を払って店を出た!

??? 「兄さんに何が会ったのか!一度セレナさん達の所に向かうからね!」

ロア「分かってるよ！」

姉さんはやっぱり祥平兄さんの事を口では嫌ってるけどやっぱり好きなんだもんね



??? 「ほら！」

私達はセレナさん達の所に時空間の穴を開けて入る。

ロア「待ってよ姉さん！」

私はそのままついていく……祥平兄さんが無事なら良いけど

See you Next Game

第19話祥平を助ける者達の集結そして運命

俺と母さんは親父に逃がして貰い、少し離れた場所だとある奴に連絡をする！

セイヤ「……繋がった！」

繋がった場所はまさかだった。

那奈『誰ですか？』

セイヤ「すまない！時間がないんだ！助けてくれ！」

俺が連絡した奴は親父の娘、高田那奈だ！

那奈『貴方は………！、その声はさっきの！』

どうして攻撃してきた奴が連絡してきたの！

セイヤ「時間がないから今からそっちで話しがしたい！」

いきなりこの人は何を言ってるの？

那奈『何を言ってるの？私を攻撃して来た人の話しを聞くとおもうてるの？』

それはそうだよな、でも！そんな時間がまじでない！

セイヤ「その事は謝らせてくれ！高田祥平！俺達の親父が破壊兵器を狙ってる奴が現

れたんだ！」

え？破壊兵器って確か昔にもう無くなってるって……それが本当なら1度こっちで話しを聞いた方が良さそう。

那奈『それから1度こっちのトレーニングルームに来て、そこで話しをする。』

セイヤ「分かった……」

俺は電話を切って母さんと時空間を超える事にした……親父この借りは返すからな

（???）

祥平は縛られて横にされていたが気絶をしている。

???「カイト博士、これはかなり嚴重なシステムです」

それなら仕方ない

カイト「もしたら戦闘データを無理矢理にでも読み込め、したらこのチップを使って記憶を消して俺の下部だ。」

ウイルスチップを研究員に渡し、そのまま戦闘データを無理矢理にでも読み込み終わらせてからウイルスチップを機械に入れて祥平の中の記憶を消し初めていた！

祥平「あああああああ！」

良いぞ！このままシステムを起動させる為にお前の記憶はウイルスに消去させ次々目を覚ましたら貴様は俺の下部になるのだよ

祥平「が！ぐ！あああああああ！」

俺はそんな簡単には屈しない！でもなんで思い出が消え！

祥平「うあああああ！あああああああ！」

俺の記憶が！消えて！

カイト「耐えるなど不可能だよ？君はこのまま破壊兵器を起動させてくれれば良いんだから」

黒い何かが祥平を蝕んでいる。

くトレーニングルームく

私はお母さんと皆にさっきの事を話したら冷静には入れなかったと思う、お母さんは直ぐに行こうとしたけどマリアさんに止められて落ち着かせてから数分後に来てくれた。

那奈「……来た」

そこにいたのはクワガタの仮面ライダーに変身した人と女の人と一緒にいた。

マリア「ミラアルクが来るとは久しぶりね」

ミラアルク「悪いな家の息子が妹さんの娘を襲った事は謝らせてくれだぜ」

頭を深く2人は下げていた。

セレナ「それで祥平は！」

お母さんは悲しそうな顔をしていた……

セイヤ「すみません、その後の事は不明です……」

マリア「セレナ！」

お母さんは走って行こうとしてる！

???「久し振りに来れば何かあったのか？」

え？半分機械のお父さん？

セレナ「カオス祥平さん！」

俺の前に倒れてるセレナに手を伸ばし起こした。

カオス祥平「まあ……ウルトラマンゼロから連絡は貰った、あの祥平がまだ破壊兵器

あるとは思わなかった。だろ？あんたら？」

その後ろから来たのは零さん達だった！

貴利斗「久し振りと言いたいが」

零「あいつがさらわれたってカオス祥平とゼロから呼ばれて来た」

利香「それでこっちはこっちで祥平の電波をキャッチはしたよ」

パソコンのモニターを皆で確認したけど……こっつて！

翼「元リディアン学院の場所……」

榛名「ですが今回の敵は凄く厄介になります」

榛名さんもパソコンで調べていたのを見たら何か怖そうな顔のおじさんだった。

那奈「カイト博士？この人はどんなに厄介なんですか？」

榛名「これです……」

更にちよつと下の文を読んで見たのだが……え！

那奈「世界滅亡……でもどうしてお父さんの破壊兵器が必要なんですか？怪人やアルカノイズとかでなら世界滅亡出来そうなの？」

私の疑問だった、何故お父さんの破壊兵器が必要なのかを。

零「俺もそれは調べた、だからそれを含めて1から話す。だがこれには最初から仕組みまれた事だったんだ」

最初から？え？どういう事？

零「今までを振り替えたなら最悪だったんだ。その条件が1つは竜也との戦いの時に起きたアガートラムセレナガシャットの起動、2つ目がマイティアンリミテッドXDの起動、3つ目は異次元達との絆、4つ目は戦いの恐怖、5つ目が奈南姉さんのプロگرام、6つ目がアンコントロールハザードガシャットの無理矢理の破壊兵器の起動、7つ目は祥平の消失、8つ目はエグゼイドゼロと言うとんでもない変身、そして最後がウルトラマンヒカリの生き返らせ人間にしたかと思っただがそのまま人間ではなく生命体として変えられていた。これらが全ての条件を達してしまい、祥平はカイト博士と言う

男に狙われていた。」

つまりここまでずっと……！

那奈「見逃して完全に狙ったのはどうしてですか？」

零「失敗作で破壊兵器であった祥平の成長を見ててそれでこの時期だと親父から教えられて調べたらこの有り様だ。」

セレナ「まだ間に合いますよね！」

セレナは零の服を掴み聞いた。

零「急げば間に合う！だがもし間に合わなかったら……もう元には戻らない……」
拳を強く握り締めていた零の手から血が出ていた

那奈「それなら今から行きましょうよ！」

貴利斗「だな……零！行くぞ！」

そうして元リディアン学院の場所に向かって行こうとしたが外の様子がおかしかった！

く高田家玄関外

零「何だこれは……」

色んな所にアルカノイズに似たロボットが街を破壊していたり人々を殺していた！

利香「零！このアルカノイズ見たいなロボットは何！」

貴利斗「こいつらまさか俺達を通さない用に作られたのか？」

分からねえが俺達の邪魔をするとはいい度胸だ！

優奈「急がないとやばい！」

響「皆で突破しましょう！」

そうしようとしたが上から何か来た！

那奈「お父……さん？」

更に上から大きいモニターも来た

カイト『揃っていますな仮面ライダーとシンフォギア装者よ！』

あの男はカイト博士か！

クリス「お前がカイトって博士か！」

カイト『そうだとも？私がカイト博士だ！そして時間はかかったがそこにいる高田祥

平はもう君達が知っている高田祥平ではない！全てを破壊するまで止まらない破壊兵

器の高田祥平だ！』

なん……だとお！

切歌「何をデタラメを言ってるデスカ！祥平さんは私達の大切な仲間デスよ！そんな

簡単に！」

カイト『言ったでしょ？時間かかったと？ウイルスチップを使い感情と記憶を全て消

して俺の下部なのだよ！はははははは！』

嘘だろ……

カオス祥平「お前見たいな人間は絶対に潰す！」

パイルバンカーを右腕に取り付けて構え攻撃体勢に入る！

カイト『やれるならな！やれ！破壊兵器よ！』

祥平「了解マスター」

ゲームドライバーとガシャットだがあんなに黒いのかあの2つ!?

『マイティアクションZERO！』

祥平「変身……」

『ガシャット！ガチャーン！レベルアップ！全てを破壊！ゼロの世界！マイティアクションZERO！』

姿はアクションゲームレベル2であるが全身黒で所々は深紅になっていたのだが目が黒に染まっている……

エグゼイド？「俺は破壊兵器としての仮面ライダーエグゼイドZEROだ。全てを破壊させて貰う。」

この雰囲気はやばい……本気だ！

零「全員……撤退だ！」

貴利斗「零？」

撤退って何でだ？

零「今すぐに撤退だ！あれから今すぐに……！、があ！」

見えない衝撃波が零を吹っ飛ばす！

利香「零！か！」

利香さんまで！

響「私が時間を稼ぎます！」

貴利斗「そんな事させるかよ！」

響の隣に走って怒鳴った貴利斗は響を後ろに下げた

響「貴利斗さん」

貴利斗「それは男の俺の役目だ、響達は祥平の娘達を連れて逃げろ！」

……ごめんなさい！

響「後は任せます……死なないで下さいよ！」

そのまま全員を連れて撤退をさせるが残ったのは貴利斗と零そしてカオス祥平だっ

た……

貴利斗「なあ、祥平覚えてないか？零を助けたあの時の事をさ」

そう零が最初に祥平とセレナを襲いかかった時だ。

祥平「何を言っている？貴様はここで破壊して後の奴らも破壊しに行かせて貰う。それがマスターの命令だ。」

あんな糞野郎に記憶を消されて悔しいんだよな？……………お前はここで壊す……………前の祥平なら絶対に言うもんな、自分がセレナ達を傷付ける前につてな！

『爆走バイク！ギリギリチャンバラ！』

貴利斗「3速……………」

響、皆、悪いな……………もしこいつを止められたらまた全員でゲームしような！

貴利斗「変身！」

レーザレベル3になりガシヤコンスパローアローモードを持ち構える。

カオス祥平「てめえは絶対に目を覚まさせる！例え俺が壊れてもな！」

幻想郷の全員よ、俺はこいつを助けてから戻るから待っててくれよ。にとり、その時はまた修理を頼むな……………痛い いやだがな

零「あいつ痛かったぞ、にやろう！」

『黒の剣士キリト！』

利香それに他の皆、祥平を絶対に連れ戻す。例えこの身に変えてもな……………もう祥平には嫌な思いをさせたくないからな……………だから！

零「大2斬り……………」

帰ったらゲームしような！

零「変身！」

3人は祥平に攻撃を始めるのだが、凄いい雨がふっていて、それは一瞬だった……

『ガチョーン……ガツシューーン……』

祥平「3人の生命力……ゼロ、それが人間の限界だ。」

そこには剣で串刺しにされていた3人倒れていた。

祥平「残りの者達の場所は？……了解しました。直ぐに行きます……」

（???）

一先ず時空間を越えて安全な場所にいた

那奈「零さん達大丈夫ですよね？」

刀「お父様のお兄様なら大丈夫だとは思いますが？」

そう思いたいけど嫌な感じがした……

祥平「その者達はもう亡くなった」

！、お父様!?

榛名「本当にもう……」

利香「祥平を壊してでも止めるわよ！」

2人『変身!』

2人は仮面ライダーになってお父さんに攻撃をしようとしたけど

祥平「これが人間の力か？遅すぎるんだよ！」

2人をそのまま串刺しにされてしまった！

セレナ「止めてよ！祥平！」

セレナの必死の声でこちらを向くのだが全く思い出す反応がなかった！

祥平「貴様も死ぬんだな……」

死ぬのも嫌だけでもっと嫌なのは祥平が罪もない人を殺す事と自分の意思じゃないなら絶対に言う

セレナ「意地でも止めてって！」

『覚醒せよ！オーブオリジン！』

オーブオリジンギアになりオーブカリバーで祥平に攻撃をする！

祥平「無駄だ」

！、片手で止められた！でも！

祥平「お前でも止められると思うな！」

セレナの腹諸に蹴りを入れて吹っ飛ばす！

セレナ「く！負けません！これなら！」

『フュージョンアップ！ウルトラマンオーブ！ハリケーンスラッシュユ！』

セレナやマリア、翼、調はウルトラマンギアと仮面ライダーギアになります。

セレナ「オーブスラッガーランス！」

なら全力で破壊だ……

『ガシャット！ガチャーン！レベルアップ！マイティアクションZERO！』

エグゼイドZERO「やってみろ」

『ガシャコンブレイカー！』

セレナ「負けません！」

互いの武器がぶつかりその衝撃波で爆発するがその中から調、翼、マリアがギアを纏って祥平に攻撃をする！

マリア「もう迷わないわ！」

『ウルトラマンロッソ！フレイム！』

マリアは仮面ライダーロッソだったのがウルトラマンロッソに変わりそのウルトラマンロッソギアになっていて両手にはルースラッガーロッソであった！

翼「私達が止める！」

『ウルトラマンブル！アクア！』

翼もマリアと同じように仮面ライダーブルからウルトラマンブルに変化をする。武器もルースラッガーブルの大剣を持っていた！

調 「大事な人がこれ以上利用されるのは見たくない！」

『ウエイクアップバーニングゲットクローズドラゴン！イエアー！』

調も仮面ライダークロースギアを纏い右腕にはビートクローザーを持って攻撃をする！

エグゼイド ZERO 「そんな他人の力を借りて破壊に勝てると思うな」

祥平……………何で……

セレナ 「何でなの！あんなに優しくかった私達の高田祥平は何処に行ったの!？」

涙を流すセレナはそう言うが今の祥平には届かなかった

エグゼイド ZERO 「そんなの知るものか」

ガシャコンブレイカーソードモードで横に振り回して翼達を吹き飛ばした！

翼 「くー！」

マリア 「ぐあー！」

セレナ 「くっ！」

お母さん、皆さん……………

那奈 「お父さんを絶対に元に戻す！」

『ラビット！タンク！ベストマツチ！』

刀 「私達はお父様に頼ってばかりでした！」

『オレンジー！ロックオーン！』

させると思うな

エグゼイドZERO 「くたばれ」

『高速化！高速化！』

2人 『きやああああ！』

高速化のエナジーアイテムを使われ2人の変身を邪魔をしベルトを破壊した！

未来 「皆！」

響 「祥平さん！目を覚まして下さい！」

シンフォギアを纏った所で人間の力には限界があるんだよ

エグゼイドZERO 「なら破壊されるんだな」

『ガツシユーン！ガシャット！キメワザ！』

ガシャットをガシャットホルダーにさし、そのままジャンプをする！

響 「させない！」

響は右腕をパイルバンカーにして飛んでエグゼイドZEROに一撃を当てようとしたが遅かった。

『マイテイクリテイカルストライク！』

エグゼイドZERO 「はあ！」

響「うわああああ！」

ライダーキックを響は諸に喰らってしまいギアは解除され気絶をした！

未来「響！」

エグゼイドZERO「お前達では俺に勝てない」

く研究所く

カイト「くつくつくつ……まさか上手く行くとは思わなかったよ、ウイルスで記憶を消して破壊兵器としての起動が楽に出来て良かった……誰だ？そこにいるのは？な！何故お前が！」

俺は後ろを振り向きそこにいたのは有り得なかった！何故ならモニター映ってる高田祥平がいるからだ！

祥平「あんたが時空間を超えて悪さをしているカイト博士だな？」

カイト「それがどうした！俺はあの破壊兵器で全ての時空間を破壊する為に起動したんだよ！」

こいつ勝手過ぎるだろ……なら

祥平「なら連行してこの時空の俺を止める！これ以上はやらせない！」

そう言った俺は赤いデイケイドドライバーを腰に巻き付ける。

カイト「なんだそのドライバーは！」

祥平 「こいつはディケイドドライバーでもあるがちよつと違うんだよな、変身！」

『クロスライド！ディケイド！』

ディケイドに変身したと！

カイト 「なんだそのディケイドは！マゼンダじゃなく赤だと！」

ディケイド??? 「まあ、俺は仮面ライダークロスディケイド。全ての異世界の奴らと戦った事があるんでな」

クロスディケイド……ならそのデータを取らせて貰う！

『デンジャラスネフィリム！』

カイト 「変身」

『ガシャット！バグルアツプ！デンジャラス・ネフィリム！』

へえ？見た事ないライダーだな

??? 「この姿ではゼノン、仮面ライダーゼノンだ。さあ、お前の戦闘データを貰うぞ！」
クロスディケイド 「やってみな？」

一方セレナの方ではエグゼイドZEROに全滅されていた

エグゼイドZERO 「ミッション完了……」

俺はマスターの場所に戻ろうとしたが……

エグゼイドZERO 「まだ立つのか？鬱陶しいな」

セレナ「……また私は祥平が離れるのは嫌だ！」

こいつ……ならこの場で殺させて貰うぞ……

エグゼイドZERO「ここで殺す……何も守れるずにな！」

守れる！絶対！

『マイティクリティカルストライク！』

エグゼイドZERO「消えろ……」

ライダーキックがセレナに直撃するかと思ったがエグゼイドZEROは弾かれた！

エグゼイドZERO「誰が邪魔をし……貴様は何者だ？」

そこに物静かに立ち上がり女性の名乗った。

???「私？私は未来から来た高田祥平と高田セレナの娘！高田那奈だ！」

未来から那奈が何故来たのか？そしてこの結末はどうなっていくのか！？

See you Next Game

第20話とんでもない戦いそして意外なタッグ!?

『マイティクリティカルストライク!』

エグゼイドZERO「消えろ……」

ライダーキックがセレナに直撃するかと思つたがエグゼイドZEROは弾かれた!

エグゼイドZERO「誰が邪魔をし……:……:貴様は何者だ?」

そこに物静かに立ち上がり女性は名乗つた。

???'私?私は未来から来た高田祥平と高田セレナの娘!高田那奈だ!」

未来から来ただと?そんな馬鹿な事が……

那奈(未来)「さあ、実験を始めるわよ?」

『ラビット!タンク!ベストマッチ!』

エグゼイドZERO「させると思ふか?」

そう言つてこつちに走つて来るのは分かつてるんだけどね、だから助つ人もいるんだ

よ

那奈(未来)「未来さんお願いします!」

『エグゼイド!電王!』

いきなり那奈（未来）の上から扉が開きそれぞれの仮面ライダーが現れた！
エグゼイドZERO「な！ライダーが現れるだと！」

くそ！邪魔しやがって！

ジオウ「悪いけど好き勝手にはさせないよ！那奈ちゃん！」

『アーユーレディ？』

那奈（未来）「変身！」

『鋼のムーンサルト！ラビットタンク！イエーイ！』

ビルド「さてと……行くよ！」

ドリルクラツシャードで攻撃を始める私は未来さんとやるけどそれだけじゃないんだよね！

エグゼイドZERO「召喚されたライダーに俺はやれんぞ！」

そう言いエグゼイドと電王は切られてしまい消えるが更にそこから現れた2人がエグゼイドZEROを吹っ飛ばす！

ビルド「遅いですよ！ロアさん！ユリさん！こっちは未来から超特急で来たのに！」

ロア「それは失礼しました。ですが私達にも準備はあったので」

ユリ「祥平兄さん……何があったのですか！」

こいつらも破壊対象で良いのか？マスターに連絡を

『ダブル！キバー！』

ちっ！また召喚か！

ビルド「行くよ！はあ！」

数の猛攻でエグゼイドZEROを押ししているのだがロアとユリは倒れていた皆に回復をした。

エグゼイドZERO「回復などさせん！」

ジオウ「こっちの台詞だよ祥平！」

『オーズ！』

タツチした場所からメダガブリユーバズーカを出して射ち放った！

『プートーティラーノーヒツサーツー！』

ジオウ「はあ！」

エグゼイドZERO「ごはあ！」

このままではやられてしまう……………

ビルド「逃がすと思わないで父さん！」

『ニンジャ！コミック！ベストマッチ！アユーレレイ？』

ビルド「ビルドアップ！」

『忍びのエンターテイナー！ニンニンコミック！イエーイ！四コマ忍法刀！』

ニンニンコミックフォームになった私は直ぐに四コマ忍法刀の分身の術を発動させる！

ビルド「は！」

縄で縛り動きを封じる！

エグゼイドZERO「く！この！」

長くは持たない！

ビルド「過去の皆さん！父さんとの今までの事を思い出して下さい！貴女達はそんな簡単に倒れちゃいけない！く！」

那奈……………私は祥平を……………

エグゼイドZERO「俺はマスターの下部だ！お前らを壊す為に戦う！」

ビルド「だったら聞くよ！壊したらその後父さんはどうするの！」

壊したら……………そんなの決まってる！

エグゼイドZERO「この世界そして異世界を壊す！マスターと共に！」

ビルド「あんな奴に利用されないでよ！カイトと言う博士は父さんを捨てるんだよ！」

エグゼイドZERO「そんな事有り得ないだろ！」

縄が持たない！このままじゃ！

エグゼイドZERO「貴様も破壊する！」

そうしていたら縄が壊され、武器が私を狙って投げて来たけどそれを未来さんが召喚したライダーに助けられた。

ジオウ「させない……セレナちゃん！皆さん！後は貴女達がやるべき何です！」

未来の未来さん……そうだ。私達はそうやって何度でも祥平が敵に狙われたのを何度も乗り越えたんだ！

セレナ「私は何度でも立ち上がる！例えば祥平の記憶が失っても私が覚えている！祥平との大切な思い出がある限り！」

『覚醒せよ！オーブオリジン！』

セレナ「オーブオリジン！」

マリア「ええ！私達が覚えている限り祥平は諦めない！」

『ウルトラマンタロウ！ウルトラマンロツソ！フレイム！』

マリア「ロツソフレイム！」

翼「祥平は私達を何度も救ってくれた！だから今度は私達が救うんだ！」

『ウルトラマンギンガ！ウルトラマンブルー！アクア！』

翼「ブルーアクア！」

調「祥平が教えてくれた！諦めなければ奇跡は何度でも起きるって！」

『ウエイクアップ！クローズドラゴン！アークレディ？ウエイクアップバーニング！
ゲットクローズドラゴン！』

調 「仮面ライダークローズ！」

4人は仮面ライダーギアとウルトラマンギアを纏いエグゼイドZEROの前に立つ
！

セレナ 「オーブカリバー！行きます！」

オーブカリバーを両手で持ちエグゼイドZEROに振り下ろすがガシヤコンブレイ
カーに止められる！

エグゼイドZERO 「貴様の攻撃で俺を止めるなんぞ！出来ないんだよ！」

マリア 「どうかしらね！祥平！」

翼 「こちらにもいるぞ！」

ルースラッガーを持つ2人はエグゼイドZEROを同時に背中を斬った！

エグゼイドZERO 「ぐあ！」

こいつら！ぐあ！

調 「後ろが空いてるよ！」

調子に乗りやがって！

セレナ 「那奈……一緒に祥平を助けよう！」

お母さん……………

那奈「うん！」

???『ならこれを使え！』

この声はゼロさん！

ゼロ『あいつを取り戻す為に行くぞ！』

那奈「はい！」

『ネオクロスドライバー！』

那奈「游鬼さん！永流さん！」

2人『行くぜ！おう！』

那奈「お父さん！健介さん！」

2人『負けない！共に行くぜ！』

那奈「私達に限界はない！はあ！」

『仮面ライダーゼロビブrost！』

ゼロ「ゼロビブrost！」

ゼロビブrostって書くのと長いのでゼロだけになります。ただし「」で分けてありますのでそれをお願いします。

エグゼイドZERO「そんな物で！」

ゼロ「いきます！」

ガシャコンブレイカーソードモードとライオンソードを両手で持ってビルドになっている私の隣に立つ！

ビルド「遅れない用にね！」

ゼロ「分かっているよ！」

雑魚どもめ！俺はお前達を壊すって言っただろ！こんな所で俺はやられんぞ！

調「はあ！」

青い炎を纏ったヨーヨーで少しづつダメージを与える！

エグゼイドZERO「そんなおもちゃに！」

翼「これならどうだ！」

『ウルトラマンティガ！』

ループスラッガブルにティガクリスタルをはめて4回振り回して必殺技を放つ！

翼「ウインガースラッシュ！」

Xを描きループスラッガーを横に降ってXマークがエグゼイドZEROを襲う！

エグゼイドZERO「が！」

馬鹿な！こんな筈では！

『ウルトラマンゼロ！』

マリア「ゼロツインスラッガー!」

マリアも4回振り回して両手のループスラッガーロツソを上から振り下ろし炎の玉が放つ!

エグゼイドZERO「甘いんだよ!」

と思ったがセレナが後ろにいた!

セレナ「オーブフレイムカリバー!」

エグゼイドZERO「ぐ!こんな物!」

オーブフレイムカリバーを弾き飛ばした!そんな!

ゼロ「でも甘いよ!はあ!」

二刀流の攻撃でエグゼイドZEROの武器を弾き飛ばし更にビルドのドリルクラッシュヤーと四コマ忍法刀の連続攻撃が炸裂した!

エグゼイドZERO「ぐは!」

このまま終わりにする!お父さん!思い出して!

ゼロ「絆の力で今!終わらせる!」

『ネオヒッツサツブレイク!』

ジードライザーを読み込ませてジャンプをする!

ゼロ「お父さん!目を覚まして!」

『ドラゴンウオータームーン!』

青色の光がエグゼイドZEROを包み込んでいき、そのままエグゼイドZEROから変身を解除される。

『ガッシューン!』

その反動でマイティアクシオンZEROガシャットは壊れていた。

祥平「こんな所でやられてたまるか!」

まだ立ち上がるのか!

セレナ「もう止めて祥平!」

祥平「貴様ら人間が破壊兵器の俺にたてつくんじゃねえ!」

破壊兵器の力が祥平をこんな風に……

セレナ「もう終わらせる……」

4つの紋章が光始めオーブカリバーを上へ上げ回しそしてそのまま振り下ろす。

セレナ「オーブスプリームカリバー!」

虹色の光線が祥平を狙い放つがそれをシールドを張って抑えていた!

祥平「ふざけるな!こんな所で俺が人間ごときに!」

凄い力で塞がれてるけど絶対に破壊なんてこれ以上させない!

〈研究所〉

クロスディケイド「く！こいつはめんどくさいな……ならこいつか」

腰のホルダーからカード一枚を取り出してドライバーに入れる！

『クロスライド！ウルトラマンゼロ！』

クロスディケイドドライバーからゼロスラッガーが現れクロスディケイドの姿からウルトラマンゼロに変わった！

ゼノン「別の者になっちゃったと？」

まあ、ディケイドは仮面ライダーだったからな、俺のクロスディケイドはちよつと特殊なんだな

クロスディケイド「行くぜ！」

ゼロスラッガーを頭から取り、両手で持ちながらゼノンに攻撃を始める！

ゼノン「来い！クロスディケイドよ！」

ゼロスラッガーの攻撃を防ぎ蹴りでクロスディケイドを飛ばすがゼロスラッガーをゼノンに向け投げる！

クロスディケイド「流石に強いな！でも負けねえぜ！」

ゼノン「お前が勝てると思うな！」

な！異空間の穴に入りやがった！

クロスディケイド「待ちやがれ！」

そのままそれを追い掛けていったがそこにはとんでもないのがいた。
くセレナ達がいる場所く

セレナ「はあああああ！」

祥平「ぐ！こんな物で！」

セレナの技が押してる！これなら！

翼「空に穴が！」

そこから出て来たのは仮面ライダーゼノンであつた！

クリス「あれって！仮面ライダーゼノン！何で竜也が！」

翼、クリス、響は驚いていた。竜也のガシャットはあの時にもう失くなっていた
と思っていた物が再び出て来るとはびっくりしていた。

ゼノン「破壊兵器の祥平よ！何をしている！そんな屑どもに負けるとは貴様はそれ
も破壊兵器か！」

マスター……：そうだ、俺はこんな奴らに負ける訳には！

翼「そんなの勝手に言うな！」

マリア「そうよ！無理矢理に破壊兵器を起動しといて！祥平は私達の大切な人よ！」

人間が俺をだど？ふざけんじや……

祥平「ふざけんじやねえええええ！俺はお前らを壊す！」

空にもう一つの穴からゼロの姿のクロスデイケイドも来ていた。

クロスデイケイド「カイト博士よ！逃がさねえぜ！」

え？ゼロさん？でもデイケイドのドライバー？

クロスデイケイド「俺は仮面ライダークロスデイケイドだ。まあ訳あつてカイト博士を捕まえに来たんだ。」

ビルド「それなら協力をお願いします。あの人は大切な人なんです、だから」

成程、ここではもう本当に幸せだったのがあんな風に……

クロスデイケイド「ならカイト博士は任せろ！君達は大切な人を取り戻すんだ！」

クロスデイケイドはゼロのポーズを構えてゼノンに立ち向かう！

ゼノン「奴らでは破壊兵器を元には戻せん！」

クロスデイケイド「やってみなきやわかんねえだろ！」

パンチや蹴りのラッシュは止まらず、セレナ達は破壊兵器の祥平との戦闘はまだ長く続いていた！

マリア「フレイム！」

翼「アクア！」

2人『ハイブリッドシュート！』

炎と水のアームドギアから放つ！

祥平「そんなんでやられるか！
な！素手で！」

調「それなら！」

『ボルケニツクアタック！アチャー』

マグマナツクルで追い討ちをかけ吹き飛ばす！

祥平「く！調子に乗るな！」

ゼロ「甘いよ！お父さん！」

ゼロスラツガー4本が祥平を切り裂く！

祥平「が！」

破壊兵器の機能を完全に停止させるしかない……それなら！

『ヒツサツブレイク！』

ゼロ「これ以上お父さんを苦しめるのは許さない！」

『マキシマムウオーターキック！』

走りながらライダーキックを祥平に向かってやるのだが

ゼロ「素手で止めるなんて強すぎる、でも！負けない！」

両手で防いでるが跳ね返せない状態だった！

祥平「お前もつもらん！が！ぐ！力が！」

祥平の後ろにはエグゼイドマキシマムゲームャーがリプログラミングを射っていた！
ジオウ「もう終わりにしよう」

ビルド「父さん……」

マキシマムウオーターキックとリプログラミングの力で祥平の動きが少しずつ止まっていく。

祥平「俺は！俺は！……！ぐ！ああああああ！」

2人の技を諸に浴びた祥平からもう1人の祥平が出て来たが元々の方は黒くなっていた。

祥平（黒）「お前達覚悟は出来てるかああああ！」

黒い威圧感が祥平（黒）の方に向く。

セレナ「何なのあれは祥平なの……」

祥平（黒）「死ねえええ！」

黒い破壊玉がセレナ達に何個も射っていたが全て撃ち落とされていた。

切歌「あ！あ！あれは祥平さんデスカ！」

そこには銀髪の祥平が立っていた。

祥平「悪い皆……待たせたな」

冷静な顔で私達の方に向いてこっちに来た。

セレナ「祥平……本当に祥平なの」

セレナは不安そうな顔で俺に聞く。

祥平「本当に俺だ……心配させて悪かったと……」

セレナ「本当に良かった……戻って来てくれて！」

セレナや皆に迷惑かけちゃったんだ。

祥平（黒）「貴様！何で記憶が！」

俺も驚いてるが多分奇跡何だろうな

祥平「俺も分からない……でも奇跡つてあると思えた！あの時に記憶が消されてもう駄目かと思った！心の中に記憶が瞬時に移動してたんだ。だから心の奥中で悔しかった……セレナ達を傷付けた事が俺は許せなかった！だから！ここでお前を止める！」

ふざけやがって！ならもう一度取り込んでやる！

クロスデイケイド「よつと……なら一緒にやるぞ」

祥平「……」

俺は静かに頷きあつちに向き直す。

ゼノン「完璧な破壊兵器の力を手放すとは勿体無いではないか！今！貴様がやってる事はとんでもない事なんだぞ！」

勿体無い？こいつはそんな風に思ってたんだな、それならもうセレナ達を苦しめるのは

これで本当に最後だ。

祥平「そんなのもう終わりにする……俺の中にある破壊兵器を完全に消し去る！」

……この世界の俺はこんな運命だったのか、それで未来から来たあの2人はそろそろ時間切れだな。

ビルド「後は皆さんの結果次第です」

ジオウ「皆さん……祥平を頼みます」

2人はタイムマジンに乗り元の未来に戻った。

ゼノン「出て来いシヨツカーども！」

シヨツカー達まで現れるか。

祥平（黒）「てめえはただ心の中に戻れば良いんだよ！」

黒い縄が祥平を縛ろうとしたが衝撃波でそれを打ち消した……

祥平「いいや……戻らない、それに那奈達がお前ごときに負けねえよ？」

お父さん……

祥平（黒）「そんな女に負けるとも言うのか？ はははは！ 馬鹿にしすぎだろ！」

確かに私はお父さんの分身とも言える黒い方を倒せるとは私は思えない。

祥平「俺は信じる。自分の娘が負けない事を！そして！那奈達なら出来る！」

祥平（黒）「ならその信じてる物がやられればお前は俺の中に戻れ！」

え！そんな事！

祥平「分かった……」

ゼロ「お父さん……」

俺はゼロビブロストになっている那奈の近くに寄る。

祥平「那奈……自分を信じろ」

お父さん……うん

ゼロ「私は私の全力で戦う！そして守る！」

那奈、お前はもう俺から何も言わなくても大丈夫だ。だから負けるな。

セイヤ「大丈夫なのか？あいつに任せて」

祥平「那奈は俺とセレナの子だ、この状況を引っくり返すかもしれないんだ」

この状況をか？何の事だ？

ミラアルク「それより回りの敵はどうするぜ？」

だな、いつの間にか囲まれてたな

『スキヤニングチャージ！』

『バンバンクリティカルストライク！』

2人『はあああああ！』

シヨツカー達を吹っ飛ばしたのはオーズタトバコンボとスナイプレベル2のキック

で吹っ飛ばしたのはあの2人しかいない!

祥平「利奈姉! 玲奈さん!」

オーズ「心配して全速力で駆け付けたけど無事そうね?」

心配されるとは俺も情けなくなるな

スナイプ「それよりこの数のショットカーは何?」

祥平「あのカイト博士って奴の手下っぽい」

………はあ!

スナイプ「待ちなさい! 今カイト博士って言った! 言ったわよね!」

スナイプから変身解除した玲奈は祥平の肩を両手で掴みブンブン振り回して聞く。

祥平「そうだよ、あいつが俺の破壊兵器を完全に起動させたんだ。」

成る程ねえ……絶対にごぶ倒す!

『バンバンシユミレーション!』

玲奈「第50戦術! 変身!」

『デュアルガシャット! ガチャーン! デュアルアップ! ス克蘭ブルだー! 出撃発進!

バンバンシユミレーション! 発進!』

スナイプ「手加減無用! 全段発射!」

相変わらずの火力だなあ……あれ? 利奈姉?

オーズ「そっかあ、祥平に手を出したんだね？」

あー、これはガチギレだわ、声のトーンがめっちゃ低いって事は……

オーズ「私を怒らせると怖いって教えて上げるよ……」

ホルダーから紫のメダルを取り出したけどあんなの持ってたの？

オーズ「はっ！」

『プテラー！トリケラー！ティラノ！プートティラー！ザウルスー！』

姉さんは紫のコンボプトティラコンボにフォームチェンジをした！

祥平（黒）「絶望にそまって貰うぞお！」

ゼロ「絶望なんかさせない！全てを希望にするんだ！」

これが俺達の最後の戦いだ。

祥平「皆！やるぞ！」

それぞれ回復が終わりドライバーやベルトを壊されたのも直し終わりそれぞれ最強
形態になり構える！

エグゼイド「ノーコンティニューで平和を取り戻して見せる！」

See you Next Game

最終回 いつもの日常そしてさようなら

こいつら……なめやがって！

エグゼイド「行くぞ皆！」

その合図で走ってシヨツカー達に攻撃を始める！

オーズ「はあ！」

メダガブリューを振り回しシヨツカー達を吹き飛ばす！

鎧武「そこです！」

カチドキアームズの旗でシヨツカー達を中に浮かせそのまま走って倒していく！

エグゼイド「はあ！」

『ズキキュキューン！』

エグゼイド「喰らえ！」

シヨツカー『イー！』

ガシヤコンキースラツシャーで乱れ射ちゼノンに攻撃を仕掛ける！

ゼノン「ムテキゲーマーは厄介だがそんなので倒せないぞ！」

エグゼイド「だろうな！だが俺は一人じゃない！」

そんなの無駄に決まっている！

クロスデイケイド「俺もいるんだよ！」

ゼロスラッガーでゼノンの武器を吹き飛ばす！

エグゼイド「ゼロさんの姿ってちよつと違和感あるな」

クロスデイケイド「でも色んなのあるぜ？」

そう言つてカードを取り出してドライバーを開く。

『クロスライド！グレンモルト！』

姿はデュエルマスターズのドラグナークリーチャー龍覇グレンモルトであった！

エグゼイド「ええええええ！何それ！」

クロスデイケイド「ちよつとな、んじや行くぞ！」

そのままゼノンに向かって攻撃を始める！

ゼノン「そんな紛い物で倒せると思うな！」

ちっ！避けるか！

クロスデイケイド「果たしてそう言い切れるかな！」

後ろからエグゼイドの蹴りが諸に入り吹っ飛ばすゼノンは立ち直る。

ゼノン「甘いぞ？そんな生ぬるい攻撃で倒せると思うなよ？」

ムテキゲーマーの蹴りでも何も効かないのかよ。

クロスデイケイド「それならこっちは戻るか」

『クロスライド！クロスデイケイド！』

元のクロスデイケイドに戻ってライドブッガーソードモードを手に持ってエグゼイドの隣に立つ。

ゼロ「ガンガンセイバー！ドラゴンシールド！」

ゴーストの武器とフェイスの盾を持って祥平（黒）の攻撃を防ぎながら攻撃をする！

祥平（黒）「お前に合わせてやるよ！」

そう言い黒いゼロアイを取り出す。

祥平（黒）「はあ！」

それを目に着けて黒いウルトラマンゼロに変わった！

ゼロ「あれって……ゼロさんの姿……」

ゼロ『あれはゼロダークネスだ。那奈此処からはビルドで行け！』

分かりました……

『紅のスピーディージャンパー！ラビットラビット！ヤベーイ！ハエーイ！』

ビルド「好き勝手にはこれ以上させない！」

くつくつくつ！

ゼロダークネス「お前ごときじゃ闇の力と破壊の力には勝てないぜ？」

闇と破壊の力……でも！

ビルド「私はそんな簡単に負けたくない！絶対に闇と破壊に何か屈しない！」

ゼロダークネス「ならやってみろ！」

ゼロスラッガーを飛ばして来たけど私はフルボトルバスターで弾き落とす。

ゼロダークネス「な！速いだと！」

ビルド「そつちこそ甘く見たら痛い目にあうよ！」

ぐ！このガキ……

ゼロダークネス「なめるな！」

ゼロスラッガーはまだ止まらないの！

ビルド「うぐ！」

しかも速い……このままじゃ！

ゼロダークネス「終わりだ！」

ゼロスラッガーをカラータイマーの所に両方着けて放とうとした時にゼロが出て来た！

ゼロ「ウルトラゼロキック！」

炎のキックでゼロダークネスを吹っ飛ばす。

ゼロダークネス「うごあ！」

ゼロ「は！ゼロダークネスでそんな意気がってんじやねえよ！」

この糞ウルトラマンが！俺の邪魔をしやがって！

ゼロダークネス「消えろ！ダークネスツインシユート！」

！、不味い！

ゼロ「ウルティメイトイージス！」

ウルティメイトイージスでダークネスツインシユートを防ぐがあまりにも強すぎる力であつたがそのダークネスツインシユートには恐ろしい力があつた。

セレナ「何これ！いきなり強くなつてる！きや！」

マリア「セレナ！ぐううう！」

セレナ達シンフォギア装者はショッカー達の圧倒的に押され始めていた。

オーズ「何でいきなり！」

そう言つていたら手足が掴まってしまふ！

スナイプ「流石に不味い！この！」

倒しても再生があつて完全にピンチね……

エグゼイド「ぐ！」

クロスデイクイド「く！」

さつきより力が上がつてると……こんなんじや俺達はやられる！

ゼロ「ぐ！一体何が起きてんだ！」

ゼロダークネス「俺のダークネスツインシュートは破壊の力をカイト博士やシヨツカー達に与えたんだよ？」

それは厄介だな……だがな、お前達は分かかってないんだよ、例え闇と破壊があつたとしてもこいつらはそれを乗り越えていったんだ！

ビルド「私達は負けない、必ず平和な日常を取り戻す！」

ゼロダークネス「無駄だよ！高田祥平の破壊兵器がある限り平和なんてないんだよ！」

ゼロダークネスはそう言いきってゼロスラッガーを飛ばす！

ビルド「きゃあああああ！」

ゼロスラッガーを諸に喰らい変身解除され追い詰められてしまった。

ゼロ「那奈！ぐ！」

ゼロさんはもう一度来るゼロスラッガーを受け止めそのダメージが大きいのかすぐにウルティメイトブレスになり私の左腕に戻る！

ゼロダークネス「俺の勝ちのようだな？」

ゼロダークネスから変身を解いてお父さんの方に向いていた。

祥平（黒）「高田祥平！俺はお前の娘に勝ったぞ！約束だ！」

何!? 那奈!

クロスディケイド「があ!」

な! しまった!

エグゼイド「うわああああ!」

そのまま変身解除してしまい倒れてしまう。

祥平「く! くこそ!」

祥平(黒)「約束だ! てめえは俺の中に戻れ!」

……約束だ、後はセレナ達に任せる……

セレナ「祥平……駄目! 戻ったら駄目!」

セレナ……

マリア「私達は祥平がいないと辛い! もうそんな自分を犠牲にするのは止めなさい

!」

マリア……

祥平「……」

俺はどうすれば! セレナ達を救う方法なんて! でも……

サンジェルマン「祥平! 貴方は私達の大切な人よ! こんな所で諦めるなんて言わない

わよね!」

サンジェルマンいつの間に！

キャロル「お前は1人じゃない！俺達がいる！」

キャロル……

プレラーティ「私達はそんな弱い祥平に惚れた訳じゃない！」

プレラーティ……

ミラアルク「祥平ならこんな逆境引っくり返すんだぜ！」

そうだよな！こんな逆境はいつもの事だ！

祥平「俺は高田祥平！見せてやるよ！家族の絆を！」

ん？未来……

未来「祥平……もう自分を傷付けないで」

祥平「分かった……」

『マイティアクションX！』

祥平「変身！」

『ガシャット！ガチャーン！レベルアップ！マイティジャンプ！マイティキック！マイ

ティ・マイティアクションX！』

何？レベル2だと？

祥平（黒）「約束破る気か!？」

エグゼイド「俺だつて約束は破るつもりはない、でも！セレナ達をもう悲しませるのはこれで最後だ……お前を完全破壊してやるよ！」

完全破壊つてこいつ分かつてるのか！

祥平（黒）「それがどれだけの事だと思ってる！」

祥平（黒）は焦っていた。

エグゼイド「分かかってるさ！だからだよ！もう破壊兵器として狙われてセレナ達を悲しませるぐらいなら！そうした方がマシだ！」

こいつうー！そんな勝手な事をさせると思うんじやねえ！

エグゼイド「行くぞ！」

祥平（黒）はエグゼイドZEROになりエグゼイドとのぶつかりあいが始まる！

エグゼイド「はー！」

エグゼイドZERO「そんなんじややれねえよ！」

同時に蹴りで吹っ飛ぶがエグゼイドはガシヤットを取り出す！

『アガートラームセレナ！ガシヤット！』

エグゼイド「大変身！」

『ガチャーン！レベルアップ！マイティアクションX！アツガツチャ！全てを切り裂けー！アガートラームセレナー！』

あれは祥平に昔に渡したガシヤット……まだ大切にしていたんだ。

エグゼイド「遅い！」

アガートラムの剣でエグゼイドZEROを連続で斬って蹴り飛ばす！

エグゼイドZERO「が！調子に乗るなよ！」

流石に硬いな……でも負けねえよ！

エグゼイド「これならどうだ！」

『マッスル化！・高速化！・透明化！』

な！あれはめんどくさい組み合わせだ！

エグゼイドZERO「ぐ！ちっ！」

避けるのは無理だが防ぐのも結構来るな……

エグゼイド「はあああああ！」

エグゼイドはガシヤコンプレイカーを持ちながらエグゼイドZEROを斬ろうと向

かう！

エグゼイドZERO「うおおおおお！」

エグゼイドZEROも同じ武器で立ち向かってエグゼイドを斬ろうと向かう！

2人『でりゃあああああああ！』

お父さん達のぶつかり合いは激しくて近付けない……でも何か……

那奈「悲しいよ」

2人は本気で戦っている用にしてるが那奈からは悲しいと思っっている。

エグゼイドZERO「お前にはまだ足りないようだな！」

エグゼイド「何がだ！」

1度後ろに俺は下がって聞く。

エグゼイドZERO「俺を倒す力だよ！」

………ばれたか、やっぱり本体だもんな、ぐ！

エグゼイドZERO「お前は完全破壊すると言っていたがそんなんじゃないぜ
！」

さっきより力が上がってるのか！

エグゼイド「ぐ！」

エグゼイドZERO「どうした？どうした！そんな物かお前の力つてのよ！」

攻撃を防いでいたのだがガシヤコンブレイカーが弾かれてしまった！

エグゼイドZERO「終わりだ………はあああああ！」

『タイムブ레이크！』

エグゼイドZEROをタイムブ레이크で吹っ飛ばされてしまう。

エグゼイド「未来………」

ジオウから変身を解除した未来がしゃがんで何かを言うつもりだ。
未来「後は任せて……」

『ガッシューーン!』

俺はゲーマドライダー閉じてガシャットを抜く。

祥平「分かった……」

そのままエグゼイドZEROの方に向き直す

エグゼイドZERO「この野郎! 2度もこうなるとは破壊してやる!」

もう2度と……

未来「もう遅れをとらない!」

何だあのウォッチ?

『ジオウII!』

未来「私とシエムハさんの力を一つにしたウォッチ……」

『ジオウ!』

ウォッチの横のハンドルを回転させたら中央のジオウの顔が横にずれ、引っ張り外し
ドライダーに入れる。

未来「変身!」

『ライダータイム! 仮面ライダー! ライダー! ライダー! ジオウ! ジオウ! ジオウII!』

いつもと違う姿のジオウに変身した……

ジオウ「行くよ」

エグゼイドZERO「そんなこけおどしが通じるとでも思うな！」

ガシャコンブレイカーでジオウを刺そうとしたがすんなり避けられた。

エグゼイドZERO「な！ぐは！」

未来の攻撃は効いてるのか！

ジオウ「私は貴方達を許さない、祥平を狙って、祥平の思いも知らないで無理矢理破壊兵器を起動させて！苦しめる！そんな貴方達は私がこの手で止める！」

エグゼイドZERO「うが！」

馬鹿な！ただの人間が俺にダメージを！

エグゼイドZERO「人間ごときに俺が！うおおあああ！」

え？あの鏡での攻撃って！まさか！

ジオウ「人間だったら無理かも知れないが私もいると言う事だ」

シエムハ……あの時に完全に消えたと思ったけどあのジオウIIライドウオツチに

いつの間にか入ってたって事なのか？

ジオウ「破壊兵器とはこんなに弱かったのか？もつと強い心だと思っていたが？」

ガレキから出てこれたけどもうこの勝負は見えたぞ。

エグゼイドZERO「そうだ！俺は破壊兵器最強何だぞ！それをわからんとはな！」
ジオウ「でしやばるな偽者よ！」

偽者？俺がか？

ジオウ「貴様が本当に破壊兵器最強と言うならこやつらはもう死んでいる！それでよくも言えた物だな！破壊兵器の偽者よ！」

俺が偽者だと？……

エグゼイドZERO「ふざけるなああああ！」

『ジオウサイキョー！』

ジオウ「我が破壊兵器と呼ばれていた男はもつと強くて優しい奴だった。」

そう、そこにいる高田祥平本人は一人しかいない……

『霸王斬り！』

ジオウ「これで消えろ！偽者風情が！」

サイキョーギレードが大きくなりそのままエグゼイドZEROを貫いた！

エグゼイドZERO「が！あ！ば！馬鹿な………うわあああああ！」

そのままエグゼイドZEROは完全に爆発し壊れた。

ゼノン「そんな！私の最高な奴を！」

クロスデイクイド「いいや、あんたのじゃない！」

『ファイナルアタックライドーデイデイデイケイド!』

ライドブッガーソードでゼノンのドライブバーとガシヤットを破壊しカイト博士は気絶をし、シヨツカー達は逃げて撤退をした。

祥平「……………」

これで終わった……………これが俺の最後の役目だ。

セレナ「祥平?」

祥平は少し無理矢理な感じの笑顔でこつちを向いた。

祥平「セレナ…皆……………今まで本当にありがとな」

マリア「何を改まって、私達はこれからも」

マリアは喋るのを止めた。それは祥平の身体が光り始めていた。

祥平「もう無理なのは最初から知ってたんだ。」

翼「何を言っている?それに今のお前は どうしてそんな冷静なんだ!」

普通は確かに必死になって思うが俺は最初から助からないと分かった。

祥平「実はもうこうなるって分かってたんだ。父さんから聞いてたんだ、もし破壊兵器をもう1度、無理矢理に起動したら……………俺に関わって来た奴等の記憶は完全に消える。そしてもう2度と俺はこの世界にいれない……………」

それって私達が祥平との思い出が……………

那奈「何で……お父さん！どうにかならないの！ねえ！」
俺は首を横に降った。もうどうにもならない。

那奈「消えて欲しくないよ……お母さんと皆そしてお父さんがいての日常なんだよ！
嫌だよ！消えないでよ！」

皆は悔しくて泣くのを止められなかった。でも時間は待たない……最後に一言を
言っただな……

祥平「皆……ありがと、こんな破壊兵器だった俺と最後までいてくれて、それに楽し
かった。俺は皆の事が大好きだ！だから……」

もう時間だ……皆……さようなら

セレナ「祥平……嫌だよ……」

もうそこには祥平はいなくなってしまう。そして皆の記憶から高田祥平と言う生命
体との思い出は完全に消えてしまう。

く???
く???

俺は消えて別の場所に移動しただけであった。

祥平「……眠ってた？それに今まで何してたっけ？」

……まあ、いいや……それより早くしないと怒られるな、あいつはいつも怒るから
な。

祥平「ふう……ただいま」

そう確かに高田祥平との関わって来た奴等の記憶は消えた。でもそんなんでも奇跡はある。

???「今何時だと思ってますか？」

笑顔だけどやつぱりこえく

祥平「まあ、ほら折角の飯が冷めちまうよ！」

もうこの人はいつもそうやって……それでも楽しいから良いんですけどね

???「あれ？お父さん帰ってたんだけ？」

祥平「その言い方酷くないか？那奈！」

例えその時の記憶が消えたとしても彼らには運命と奇跡を起こしていた者達であるからして高田祥平と言う生命体との過ごした記憶は消えたが人間としての高田祥平との記憶は何処かにあったのだ。

那奈「だってお父さんいつも永夢先生と患者さんの事になると必死でしょ？」

そうなんだよなあ、たまに早く帰ったら驚くから泣きそう

祥平「ま、それより食べますか。セレナ大丈夫か？」

俺はセレナのおでこをくつつつけて熱いか確かめる……

セレナ「だ！大丈夫だよ！そ！それより食べよう！」

そうして飯を食い終えて俺は庭の方で横になっていた。

祥平「……」

ここはやつぱり落ち着くな……ん？セレナだ？

祥平「どうした？」

セレナ「ちよつと聞きたい事があつて」

セレナは少し真面目な顔をしていた。どうしたんだ？

祥平「答えられる範囲なら」

セレナ「祥平は破壊兵器だった？」

!?、何でそれを知ってる！この世界では知らない筈！

祥平「そんな訳」

セレナ「嘘つかないで……」

この顔……まさか！

祥平「もしかしてお前……生命体での高田祥平を」

セレナ「知ってる！」

祥平「それじゃ俺がエグゼイドだった事も？」

セレナ「知ってる！……やつぱりあの祥平だ」

まさかそんな奇跡があるのか……

セレナ「大丈夫？」

俺は力が抜けて立てなかった。

祥平「大丈夫だよ、それに何で覚えてんだ？」

セレナ「多分なんだけど想いだと思ってるよ、私」

想いか……

祥平「そう考えると俺達は離れられない運命なんだろうな」

セレナ「そうかも知れないね♪」

セレナの笑顔は今まで見た中でも凄い可愛かった……

祥平「それならこの世界での皆は？」

セレナ「皆さんの記憶は残念ながら……」

そうか……それでも俺は忘れない……翼達もこの世界で頑張ってるなら……

祥平「ん？永夢さんだ？はい……分かりました！今向かいます！」

俺は立ち上がって電話を切る。

祥平「永夢さんからゲーム病だつての連絡だから行ってくる！」

セレナ「それなら気をつけて行ってきてね」

俺はそのまま走って行く。これからはセレナと那奈を大切にしていこう。

祥平「これからは大変だけど頑張るぞ！」

E
N
D